

富士市埋蔵文化財調査報告 第78集

静岡県 富士市

東平遺跡 第136地区

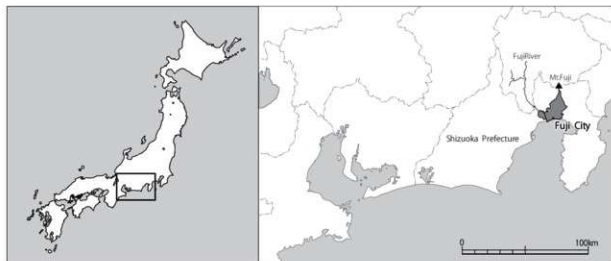
2023年3月

富士市教育委員会

例 言

- 1 本書は、静岡県富士市伝法 2329-1 外において実施した東平遺跡第 136 地区の発掘調査にかかわる報告である。発掘調査は店舗建設に先立つ事前調査として、事業者（個人）からの委託により富士市教育委員会が実施した。
- 2 発掘調査は、令和 3 年（2021 年）5 月 10 日から同 9 月 3 日にかけて実施した。実際の調査掘削面積は 1,276.62 m²である。
- 3 本報告書刊行に向けた整理作業は、令和 4 年（2022 年）に開始し、本書の刊行をもって終了した。
- 4 本書の編集は佐藤祐樹（教育委員会文化財課主査）が担当した。なお、執筆は調査時の所見をもとに、第 1 章から第 3 章を主に若林美希（教育委員会文化財課文化財調査員）が行い、佐藤が加筆・修正をした。第 4 章の執筆は佐藤による。
- 5 現地調査における記録写真および整理作業における遺物写真の撮影は佐藤による。
- 6 本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会が保管している。今後、富士山かくや姫ミュージアム（富士市立博物館）に移管する予定でいる。
- 7 本書の作成にあたり、次の方々にご協力と御指導を賜りました。厚くお礼申し上げます。（敬称略、五十音順）

大村 浩司 小田 裕樹 鈴木 敏則 田尾 誠敏 森川 実 森 泰通



静岡県富士市の位置

凡 例

1 本書で示す座標は、平面直角座標Ⅶ系を用いた国土座標、世界測地系（平成14年4月施行）を使用している。調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。

2 挿図の縮尺は、各国に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。

3 土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。

縄文土器・弥生土器・土師器  須恵器  灰釉陶器・陶器 

4 土層・遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修）に準拠した。

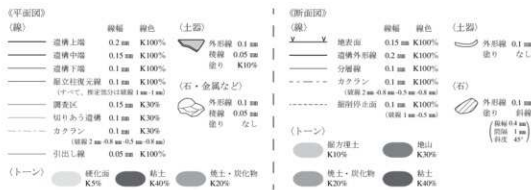
5 遺構・遺物ともに、法量の（ ）は残存値、[]は推定値である。また、土器の残存率は図示中での残存率を示した。

6 遺構の略記号は以下の通りである。

SH: 掘立柱建物 SB: 竪穴建物 FP: カマド SD: 溝状遺構

SK: 土坑 Pit: 小穴 SX: 性格不明遺構

7 遺構図は、以下の基準に則り記載した。



8 出土遺物の評価については、主として次の文献に基づいて検討した。

- 佐藤 祐樹 2021 「東駿河における古墳時代の土器様相」『地域と考古学』II 向坂鋼二先生米寿記念論集
 藤村 翔 2021 「駿河国富士郡域における土師器の変遷」『地域と考古学』II 向坂鋼二先生米寿記念論集

目次

例言

凡例

目次

第1章	調査の経緯と経過	
第1節	発掘作業の経緯と経過	1
第2節	整理作業の経緯と経過	3
第3節	調査の体制	4
第2章	東平遺跡の概要	
第1節	地理的環境	5
第2節	歴史的環境	6
第3節	調査履歴	11
第3章	遺構と遺物	
第1節	掘立柱建物	15
第2節	竪穴建物	28
第3節	その他の遺構と遺物	51
第4章	総括	83

付表 遺構一覧表

出土遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1章 調査の経緯と経過

第1節 発掘作業の経緯と経過

第1図	東平遺跡第136地区 位置図	1
第2図	本調査区および確認調査トレンチ配置図	1
第3図	本調査区全体図	3

第2章 東平遺跡の概要

第1節 地理的環境

第4図	駿河湾上空から富士市を望む	5
第5図	周辺地形図	5

第2節 歴史的環境

第6図	東平遺跡の位置	6
第7図	溝井川東岸遺跡分布図	7
第8図	歴史的環境 (1)	8
第9図	歴史的環境 (2)	9
第10図	歴史的環境 (3)	10

第3節 調査履歴

第11図	東平遺跡 調査履歴図	11
------	------------	----

第3章 遺構と遺物

第1節 据立柱建物

第12図	SH2001	15
第13図	SH2001と20地区SH02	16
第14図	SH2001 出土遺物実測図	17
第15図	SH2002 出土遺物実測図	17
第16図	SH2002	17
第17図	SH2003 (1)	18
第18図	SH2003 (2)	19
第19図	SH2003 出土遺物実測図	19
第20図	SH2003 土層注記	20
第21図	SH2004 出土遺物実測図	21
第22図	SH2004 (1)	22
第23図	SH2004 (2)	23
第24図	SH2005 (1)	24
第25図	SH2005 (2)	25
第26図	SH2005 出土遺物実測図	25
第27図	SH2005 土層注記	26

第2節 竪穴建物

第28図	SB2001	28
第29図	SB2001 カマド	29
第30図	SB2001 出土遺物実測図	30
第31図	SB2002	31
第32図	SB2002 遺物出土状況図	32
第33図	SB2002 カマド	33
第34図	SB2002 出土遺物実測図 (1)	34
第35図	SB2002 出土遺物実測図 (2)	35
第36図	SB2003	35
第37図	SB2003 遺物出土状況図	37
第38図	SB2003 カマド	38
第39図	SB2003 出土遺物実測図 (1)	39
第40図	SB2003 出土遺物実測図 (2)	40
第41図	SB2004	41
第42図	SB2005・SB2006	42
第43図	SB2005 出土遺物実測図	43
第44図	SB2005 カマド	43
第45図	SB2006 出土遺物実測図	44
第46図	SB2007 出土遺物実測図	44

第47図	SB2007	45
第48図	SB2008	47
第49図	SB2008 カマド	48
第50図	SB2008 遺物出土状況図	48
第51図	SB2008 出土遺物実測図	49
第52図	SB2009	50
第53図	SB2009 出土遺物実測図	50

第3節 その他の遺構と遺物

第54図	溝状遺構・ビット・土坑 全体図 (1)	51
第55図	溝状遺構・ビット・土坑 全体図 (2)	52
第56図	溝状遺構・ビット・土坑 全体図 (3)	53
第57図	SD2001～2004	54
第58図	SD2005～2008	55
第59図	ビット・土坑 (1)	56
第60図	ビット・土坑 (2)	57
第61図	ビット・土坑 (3)	58
第62図	ビット・土坑 (4)	59
第63図	ビット・土坑 (5)	60
第64図	ビット・土坑 (6)	61
第65図	ビット・土坑 (7)	62
第66図	ビット・土坑 (8)	63
第67図	ビット・土坑 (9)	64
第68図	ビット・土坑 (10)	65
第69図	ビット・土坑 (11)	66
第70図	ビット・土坑 (12)	67
第71図	ビット・土坑 (13)	68
第72図	ビット・土坑 (14)	69
第73図	ビット・土坑 (15)	70
第74図	ビット・土坑 (16)	71
第75図	ビット・土坑 (17)	72
第76図	ビット・土坑 (18)	73
第77図	ビット・土坑 (19)	74
第78図	ビット・土坑 (20)	75
第79図	ビット・土坑 (21)	76
第80図	ビット・土坑 (22)	77
第81図	ビット・土坑 (23)	78
第82図	ビット・土坑 (24)	79
第83図	SK2280	80
第84図	ビット・土坑・遺構外 出土遺物実測図	80

第4章 総括

第85図	東平遺跡第136地区 主要遺構分布図	83
第86図	富士市内出土 畿内産(系)土器	85
第87図	SB2001 出土の製塩土器と類型	86
第88図	東平遺跡第136地区 変遷図	87

挿表目次

第2章 東平道路の概要

第3節 調査概要

第1表 東平道路 調査概要一覧表

12

第4章 総括

第2表 孤立住建物 一覧表

84

写真図版目次

PL-1

1. SH2003・SH2004・SH2005 様出 (西から)

PL-2

1. SH2001・SH2002 様出 (北西から)

PL-3

1. 1 工区全景 (北西から)

PL-4

1. SH2001・SH2002 様出 (北西から)

2. SH2001・SH2002 完照 (北西から)

PL-5

1. SH2001・SH2002 完照 (北西から)

PL-6

1. 3 工区・4 工区全景 (北東から)

PL-7

1. 3 工区・4 工区全景 (北西から)

2. 3 工区・4 工区全景 (北東から)

PL-8

1. SH2003・SH2004・SH2005 様出 (南西から)

PL-9

1. SH2003・SH2004・SH2005 完照 (西から)

PL-10

1. SH2003・SH2004・SH2005 様出 (北から)

2. SH2003・SH2004・SH2005 作業風景 (北西から)

PL-11

1. SH2003 様出 (北西から)

2. SH2003 完照 (北西から)

3. SH2003P601 半截 (北西から)

4. SH2003P602 半截 (東から)

5. SH2003P603 半截 (東から)

PL-12

1. SH2003P604 半截 (南東から)

2. SH2003P605 半截 (南西から)

3. SH2003P606 半截 (南東から)

4. SH2003P608 半截 (西から)

5. SH2003P609 半截 (西から)

6. SH2003P610 半截 (北西から)

7. SH2003P611 半截 (北から)

8. SH2003P612 半截 (北東から)

PL-13

1. SH2004 様出 (北西から)

2. SH2004 完照 (北西から)

3. SH2004P601 半截 (北西から)

4. SH2004P602 半截 (東から)

5. SH2004P603 半截 (南西から)

PL-14

1. SH2004P605 半截 (南西から)

2. SH2004P606 半截 (西から)

3. SH2004P607 半截 (北西から)

4. SH2004P608 半截 (北から)

5. SH2005 様出 (東から)

PL-15

1. SH2005 様出 (南西から)

2. SH2005 完照 (北西から)

PL_16

1. SH2005Pa01 平蔵 (北西から)
2. SH2005Pa02 平蔵 (東から)
3. SH2005Pa03 平蔵 (東から)
4. SH2005Pa04 平蔵 (北西から)
5. SH2005Pa05 平蔵 (北西から)
6. SH2005Pa06 平蔵 (北西から)
7. SH2005Pa07 平蔵 (北西から)
8. SH2005Pa08 平蔵 (北から)

PL_17

1. SH2005Pa09 平蔵 (北から)
2. SH2005Pa10 平蔵 (北から)
3. SH2005Pa10 遺物 (SH2005-08) 検出 (北から)
4. 2 工区全景 (北西から)

PL_18

1. 2 工区全景 (南西から)

PL_19

1. 2 工区全景 (西から)

PL_20

1. SB2001 完掘 (南から)
2. SB2002 完掘 (西から)

PL_21

1. SB2001FP01 完掘 (南から)
2. SB2001 遺物 (SB2001-05・09) 検出 (南西から)
3. SB2002 遺物 (SH2002-06・38・40) 検出 (北東から)
4. SB2002FP01 遺物検出 (南東から)
5. SB2002FP01 遺物検出 (南西から)

PL_22

1. SB2003・SB2007 完掘 (南から)
2. SB2003FP01 遺物検出 (南から)
3. SB2003FP01 遺物検出 (南東から)
4. SB2003FP01 燃焼家上面 (南から)
5. SB2007 南北セクション (西から)

PL_23

1. SB2005・SB2006 完掘 (南西から)
2. SB2005FP01 (南東から)

PL_24

1. SB2004 完掘 (南西から)
2. SB2008・SB2009 検出 (北西から)
3. SB2008 完掘 (北西から)
4. SB2008FP01 遺物検出 (南東から)
5. SB2008 遺物 (SB2008-25) 検出 (南東から)

PL_25

1. SB2009 完掘 (北西から)
2. Pz2201 遺物 (Pz・SK・遺構外-05) 検出 (南東から)
3. SK2280 遺物検出 (南東から)

PL_26

出土遺物集合

PL_27

SH2005 出土遺物
SH2003 出土遺物
SB2001 出土遺物

PL_28

SB2001 出土遺物
SB2002 出土遺物

PL_29

SB2002 出土遺物

PL_30

SB2003 出土遺物

PL_31

SB2003 出土遺物

PL_32

SB2003 出土遺物
SB2006 出土遺物

PL_33

SB2008 出土遺物
SB2009 出土遺物

PL_34

Pz・SK・遺構外出土遺物

第1章 調査の経緯と経過

第1節 発掘作業の経緯と経過

確認調査に至る経緯

事業者（個人）は富士市伝法 2329-1 外（3,042.54 m²）において店舗建設を計画した。

当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「東平遺跡」および「伝法 2 古墳群」の範囲に該当していることから、富士市教育委員会の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

協議の結果、令和 3 年 1 月 6 日、事業者は富士市教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」と「発掘調査承諾書」を提出した。これを受けて、文化振興課職員による確認調査を実施することとなり、静岡県知事宛に、文化財保護法第 99 条に基づく書類「発掘調査について」を提出した（令和 3 年 1 月 15 日付け富士文発第 757 号）。

なお、当該地は、平成元年度に確認調査・本発掘調査を実施し東平第 1 号墳が発見された東平遺跡第 12 地区（富士市教育委員会 2018）、および、平成 28 年度に確認調査・本発掘調査を実施した東平遺跡第 83 地区（富士市教育委員会 2017）の範囲と重複している。このため、これらの地区を統合し、新たに第 136 地区と呼称することとした。



第1図 東平遺跡第136地区 位置図

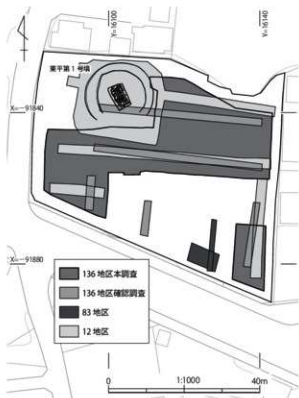
確認調査（1次調査）

確認調査は令和 3 年 1 月 15 日から 1 月 21 日にかけて実施した。

平成元年度に実施した第 12 地区の調査では、調査区や標高に関して、国土座標に基づいた記録が取られていないことから、今回の調査では第 12 地区の調査区と重複する範囲でトレンチを設定し、埋蔵文化財の遺存状況を改めて確認することとした。

敷地内の 5 箇所にトレンチを設定し（1～5Tr、合計 234,432 m²）、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の発見につとめた。

その結果、1Tr および 3～5Tr において、地表下 0.6～1.0m から古墳時代から平安時代とみられる竪穴建物（SB1001～1003）や土器などの遺物のほか、古代から中世のものと考えられる土坑・ピット等が多数検出された。なかでも、4Tr 東端に位置す



第2図 本調査区および確認調査トレンチ配置図

るSB1002は極めて良好な状態で遺存しているとみられる。一方で、2Tr周辺は近代の削平によって埋蔵文化財が存在しないことが明らかとなった（富士市教育委員会2022）。

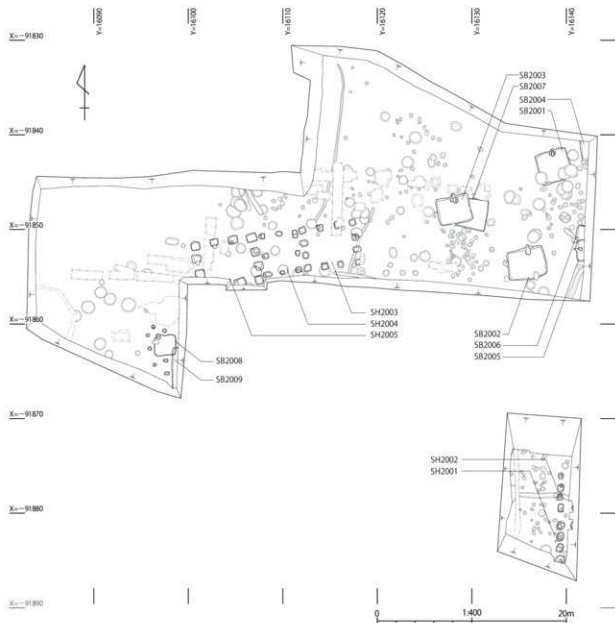
出土した遺物については、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（令和3年1月27日付け富市文発第785号）を、静岡県知事宛に「出土品保管証」（令和3年1月27日付け富市文発第785-2号）を提出し、静岡県知事により埋蔵文化財の認定を受けている（令和3年2月19日付け文財第2105号）。

確認調査の結果について、事業者ならびに静岡県知事宛に「発掘調査結果概要」（令和3年2月1日付け富市文発第794号）を提出した。

本発掘調査に至る経緯

確認調査の結果を受けて、埋蔵文化財の保護に向けての協議を重ねたものの、切り土による遺構の破壊が回避できないことが明らかとなった。

事業者から提出された文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」を静岡県知事に進



第3図 本調査区全体図

達し（令和3年4月14日付け富市文発第60号）、この届出に対して、遺跡の保護が図れない部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知された（令和3年4月19日付け文財第164号の2）。

この通知を受けて、令和3年4月14日、事業者と富士市、富士市教育委員会の三者間で「令和3年度 東平遺跡第136地区における文化財調査に関する協定書」が締結された。これに基づき、令和3年4月28日、事業者と富士市長との間で「令和3年度 東平遺跡第136地区発掘作業に関わる業務委託契約」が締結され、富士市教育委員会による本発掘調査を実施することとなった。これを受けて、静岡県知事宛に文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を提出した（令和3年5月6日付け富市文発第95号）。

本発掘調査（2次調査）

本発掘調査は令和3年5月10日から令和3年9月3日にかけて実施した。

排土管理などの都合から、便宜的に調査区を4つの工区に分けて調査を行った（1～4工区、総面積1,276.62㎡）。

重機により表土を除去した後、人力による精査を行った。その結果、堅穴建物9軒（SB2001～2009）、掘立柱建物5棟（SH2001～2005）、多数の

土坑・ピット・溝状遺構を検出した。

その後、遺構の掘削、遺物の取り上げ、測量と写真撮影による記録作業などを行い、調査を終了した。

本発掘調査では、コンテナ9箱分の土師器・須恵器・金属製品・石製品などが出土した。これらの遺物については、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（令和3年9月6日付け富市文発第539号）を、静岡県知事宛に「出土品保管証」（令和3年9月6日付け富市文発第539-2号）を提出し、静岡県知事により埋蔵文化財の認定を受けている（令和3年9月13日付け文財第1389号）。

令和3年9月3日、事業者に対し、発掘作業に関わる業務の完了報告を行い（富市文発第531号）、本発掘調査結果について、事業者ならびに静岡県知事宛に「発掘調査結果概要」（令和3年9月13日付け富市文第567号）を提出した。その後、業務委託金の変更契約、精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

参考文献

- 富士市教育委員会 2017『富士市内遺跡発掘調査報告書 ―平成28年度―』富士市埋蔵文化財調査報告 第62集
- 富士市教育委員会 2018『伝法 東平第1号墳』富士市埋蔵文化財調査報告 第64集
- 富士市教育委員会 2022『富士市内遺跡発掘調査報告書 ―令和2年度―』富士市埋蔵文化財調査報告 第73集

第2節 整理作業の経緯と経過

令和3年4月14日に事業者と富士市、富士市教育委員会の三者間で締結された「令和3年度 東平遺跡第136地区における文化財調査に関する協定書」に基づき、発掘作業が終了した翌年度の令和4年6月1日、事業者と富士市長の二者間で、整理作業に関わる業務委託契約が締結された。

その後、現地で測量した記録図面の整理、現地で撮影した記録写真の整理、出土した遺物の洗浄・注記・復元・実測、遺構図・遺物図のトレース、出土遺物の写真撮影、報告書の原稿執筆、報告書の編集などの整理作業を行った。

令和5年3月31日、本書を刊行し、業務委託金の精算をもって、整理作業に関わる業務委託契約が終了した。

これにより、東平遺跡第136地区の埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業はすべて終了となる。

第3節 調査の体制

東平遺跡第136地区に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

確認調査（1次調査、令和2年度）

[調査主体]

富士市教育委員会 教育長 森田嘉幸

[担当機関]

富士市役所市民部 部長 高野浩一
文化振興課 課長 久保田伸彦
文化財担当 統括主幹 植松良夫
参事補 石川武男
調査担当 主査 藤村翔
調査員 志崎江莉子
調査補助員 渡邊美規子

整理作業（令和4年度）

[調査主体]

富士市教育委員会 教育長 森田嘉幸
教育次長 江村輝彦
文化財課 課長 久保田伸彦
文化財活用担当 統括主幹 石川武男
調査担当 主査 佐藤祐樹
文化財整理員 井上尚子
金田純子
小田貴子
伊藤純子
渡邊美規子

本発掘調査（2次調査、令和3年度）

[調査主体]

富士市教育委員会 教育長 森田嘉幸

[担当機関]

富士市役所市民部 部長 高野浩一
文化振興課 課長 久保田伸彦
文化財担当 統括主幹 植松良夫
参事補 石川武男
調査担当 主査 佐藤祐樹
調査補助員 服部孝信
渡邊美規子

第2章 東平遺跡の概要

第1節 地理的環境

東平遺跡が所在する富士市は、静岡県東部に位置する。その地理的環境を概観すると、駿河湾を南に臨み、北には富士山がそびえ、山裾を南西に広げている。西には岩本山を有する星山丘陵と岩淵火山地が、東には既に火山としての活動を停止している愛鷹山が存在する。西方には北から流下する富士川と富士山西麓を源とする潤井川が駿河湾に注ぎ、東方には愛鷹山に源流をもつ須津川や赤淵川、浮島ヶ原低湿地を西流する沼川など、多数の河川が流れる。

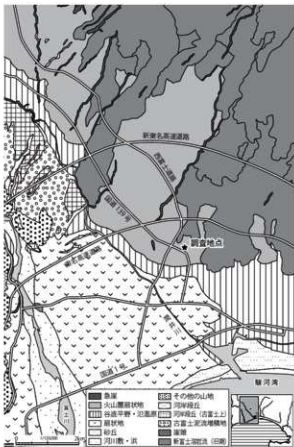
こうした環境にある富士市域の地形は、富士山や愛鷹山の火山活動により形成された丘陵地、富士川や潤井川が運搬した土砂の堆積により形成された沖積平野、河川の放出砂礫が駿河湾の沿岸流や波浪によって運搬され形成された田子浦砂丘、砂丘の内側につくられた湖沼に沖積層が堆積して発達した浮島ヶ原低湿地など、変化に富んだ様相をみせている。

地形の基盤のひとつである富士山の噴火活動は、小御岳火山の噴火（数十万年前）に始まり、古富士火山（8万年～1万6千年前）、新富士火山（1万4千年前～現在）と大きく3期に分けられる。不透水性の古富士泥流の上に、透水性の新富士火山溶岩流が広がるため、新富士火山溶岩流の末端には数多くの湧水地が存在する。また、浮島ヶ原低湿地は、内湾交通に適した土地であった。

東平遺跡は、潤井川の東岸、富士山南麓に広がる大淵扇状地の緩斜面上に位置する。本遺跡の西には伝法沢川が流れ、潤井川から分岐した小潤井川に合流し、駿河湾へと至る。遺跡の南東部に所在する富知六所浅間神社の境内には現在も湧水が認められ、駿河湾へ注ぐ和田川の起点となっている。



第4図 駿河湾上空から富士市を望む



第5図 周辺地形図

第2節 歴史的環境

潤井川西岸の屋山丘陵に立地する高徳坊遺跡では弥生時代後期の集落が検出されている。

しかし、潤井川東岸地域で人の営みが確認されるのは古墳時代前期からである。川窪遺跡では、大塚Ⅲ式期の土器を伴う溝状遺構(SD02・03)が検出されており、方形周溝墓である可能性が考えられている。また、明確な遺構は検出されていないが、沢東A遺跡でも大塚式土器が出土している。

集落の姿が認められるのは古墳時代中期後半(5世紀後半)からである。中桁・中ノ坪遺跡1地区や沢東A遺跡1次調査地点・3次調査地点、東平遺跡28地区で当該期の建物跡が検出されている。これらの地点はいずれも潤井川、凡夫川やその氾濫原の近くに位置している。

沢東A遺跡と中桁・中ノ坪遺跡では6世紀以降も連続と集落が営まれ続けるが、東平遺跡においては6世紀が集落の空白期となる。

6世紀初頭、東平遺跡の南西部に伊勢塚古墳(TK47～MT15型式併行期)が築かれる。伊勢塚古墳は墳丘径54mを測る二段築成の円墳である。墳丘には葺石が貼られ、幅7～8mの周溝が巡るとみられる。また、円筒埴輪片や巫女の姿とみられる人形土製品が出土している。潤井川東岸地域を開発した集団の最初の首長墓と位置づけられている。

伊勢塚古墳を嚆矢として、この地に築かれる古墳を伝法古墳群と総称している。伊勢塚古墳に続いて、東平遺跡の西を流れる伝法沢川沿いに中原4号墳(TK43型式併行期)、横沢古墳(TK209型式併行期)が築かれる。中原4号墳は伊勢塚古墳から1.5kmほど北の伝法沢川東岸に位置する径11mの円墳で、東駿河地域で最も早く横穴式石室を取り入れた古墳とされる。その副葬品には、装身具・武器・馬具・土器に加えて農工具や鍛冶具・生産用具などが多数含まれており、被葬者には、ヤマト王権と軍事的に結びつき、渡来系集団とも関わりをもち、鉄器生産・加工などの手工業技術をもってこの地域の開発を進めた集団を統率する指導者が想定されている。

東平遺跡では6世紀末頃から再び集落が認められるようになり、7世紀代は遺跡の南東部、旧富士川氾濫原近くの28地区や、和田川の水源地に近い16地区で建物数が増加する。中桁・中ノ坪遺跡においても6～7世紀の集落は旧富士川氾濫原近くに営まれる。沢東A遺跡では、6世紀末から7世紀後半にかけて建物数が一挙に増加し、集落の最盛期を迎える。

伝法古墳群としては、国久保古墳(TK217/飛鳥Ⅰ)、中村上1号墳(TK217)、東平1号墳(TK217/飛鳥Ⅱ)などが集落より北側の広範囲に相次いで築かれる。国久保古墳からは雁木玉や鉄鐙が出土し、



第6図 東平遺跡の位置

東平1号墳には高句麗の武器を祖形とすると思われる丁字形利器や3振の大刀・馬具が副葬されるなど、被葬者には中原4号墳以来の渡来系かつ軍事的な指導者という性格が引き継がれていると考えられる。

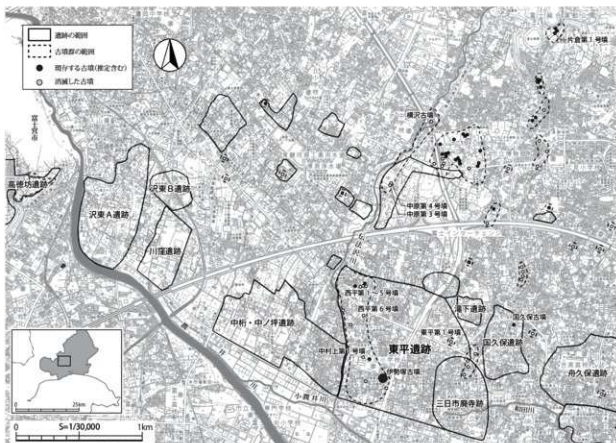
8世紀になると、7世紀代に墓域であった東平遺跡の中央付近(15・3・2・9・41・20地区など)に突如として大規模な集落が築かれる。東平遺跡の西に位置する中桁・中ノ坪遺跡や、東に位置する滝下遺跡、国久保遺跡においてもこの時期の集落が検出されている。全体に集落域が北側の広範囲に広がったことが見てとれる。この大規模な集落化は、律令制に基づく中央政権の地方支配によって計画的になされたものと考えられている。中でも、東平遺跡2・3・9地区では約250軒の竪穴建物とともに多くの掘立柱建物が整然と並べ建てられ、その西に位置する27地区では底面に「布自」と墨書のある8世紀前半の須恵器坏身が出土しており、ここが駿河国富士郡郡家の中核であると位置づけられている。

7世紀代に集落域であった東平遺跡南東部の28地区では、8世紀前葉とみられる長大な庇付掘立柱

建物が同時期の竪穴建物と近接して検出され、在地酋長層の居館と推定されている。16地区では竪穴建物が減少する一方で、8世紀初頭から前葉につくられた軒丸瓦を含む大量の屋瓦が9世紀後半以降に廃棄された瓦溜まりが出土しており、通常の集落とは異なる様相がこの時期に認められる。明確な遺構はいまだ確認されていないが、8世紀前半頃に、屋瓦を葺いた寺院が16地区近辺に建てられていたことが想定され、この一帯を三日市廃寺跡と呼称している。

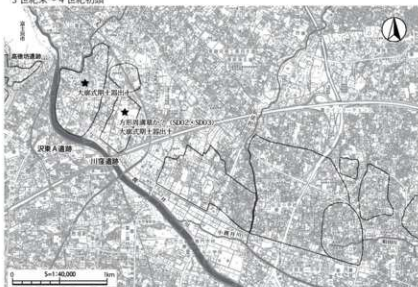
8世紀前半には大規模集落の西と東に墓域が移動し、西平1～5号墳などが密集して築かれる。西平1号墳の横穴式石室には、飛鳥の官営工房で生産された方頭大刀や獻手刀と、富士郡大領級の役人が使用する銅製腰帯具が副葬されており、被葬者が律令制の下に組み込まれていることを示している。その後、8世紀後半には古墳は築かれなくなる。

9世紀前半には建物数が急激に減少する。9世紀後半から10世紀前半には集落域も縮小する様子を見せる。東平遺跡では群家中核と見られた地区から

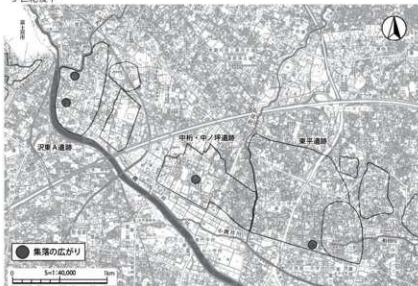


第7図 澁井川東岸遺跡分布図

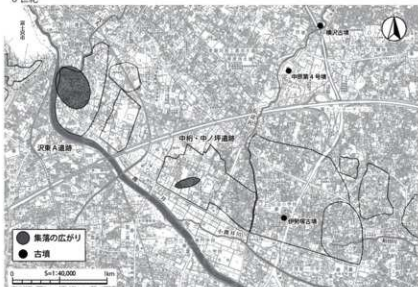
3世紀末～4世紀初頭



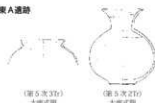
5世紀後半



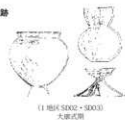
6世紀



沢原A遺跡



川窪遺跡



沢原A遺跡



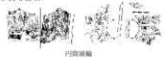
中折・中ノ坪遺跡



東平遺跡



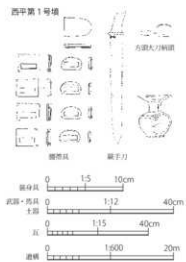
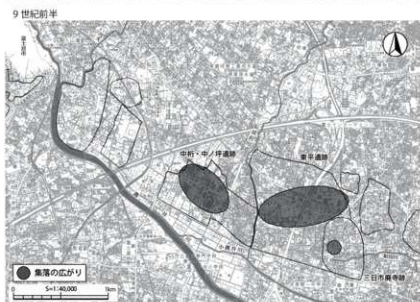
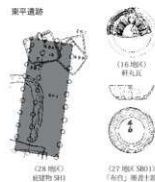
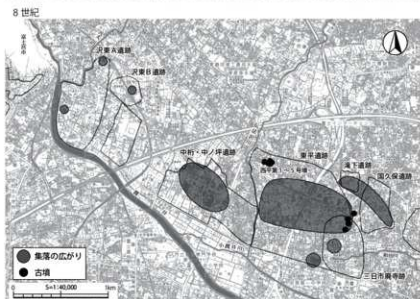
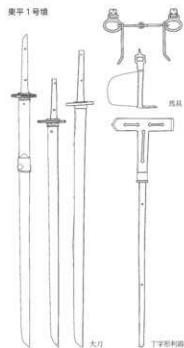
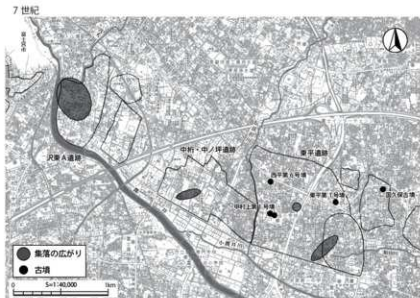
伊勢塚古墳



中原第4号墳



第8図 歴史的環境 (1)



第9図 歴史的環境 (2)

集落が消え、その西方(15地区)と東方(41・20・37地区)に認められるのみとなる。中桁・中ノ坪遺跡でも、遺跡北側の広範囲に拡大していた集落域が9世紀後半から10世紀前半には潤井川近くの1地区に集中するようである。

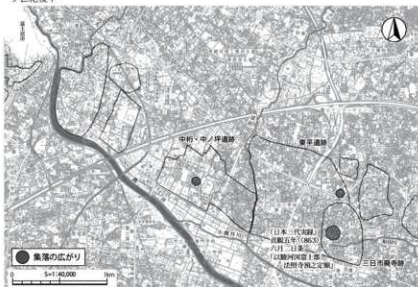
東平遺跡16地区では9世紀後半とみられる二面庇付掘立柱建物と区画溝が検出されている。16地区周辺からは同時期の墨書土器が多く出土しており、中には「寺」「厨」「て」などの文字が認められる。『日本三代実録』貞観5年(863年)6月2日条に「以駿河国富士郡法照寺預之定額」とあり、検出された二面庇付掘立柱建物は「法照寺」に関連する遺構と考えられている。先述したように、大量の屋

瓦が9世紀後半以降に廃棄された様子も確認されている。『扶桑略記』延喜2年(902年)9月26日には「駿河国云上富士郡官舎為群盗被焼亡之由」とあり、その後、10世紀後半以降の集落の姿は確認されていない。

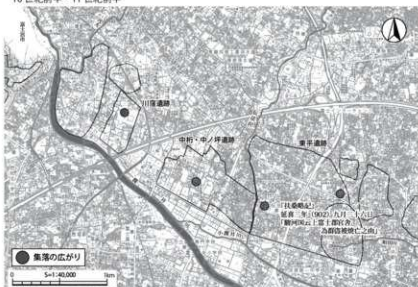
沢東A遺跡の集落は7世紀に最盛期を迎えた後、9世紀までは縮小しながら存続するが10世紀には継続しないようである。

川窪遺跡では古墳時代前期以降、集落の様子は明らかとなっていないが、11世紀前半(百代寺窠式期)に位置づけられる建物跡が1軒検出されており、東平遺跡を中心とする集落が途絶えた後、この地に集落が営まれたとみられる。

9世紀後半



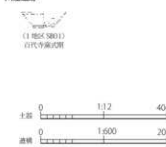
10世紀前半・11世紀前半



東平遺跡



川窪遺跡



第10図 歴史的環境(3)

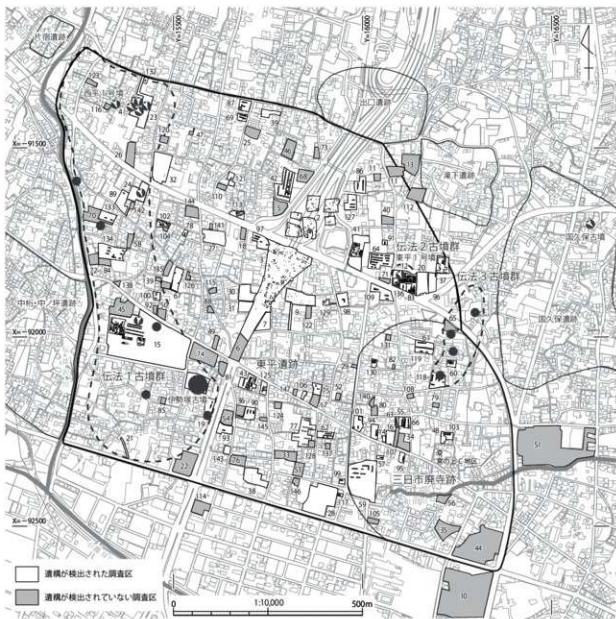
第3節 調査履歴

東平遺跡では、東名高速道路富士インターチェンジ建設工事に伴って昭和40年に実施された第1次調査（東平遺跡第2地区）を皮切りに、現在まで多数の発掘調査が行われている。

また、東平遺跡の東側に包蔵地範囲を接して存在する三日市院寺跡や、範囲が重複する伝法1古墳群、伝法2古墳群は、文化財保護法上は別の遺跡として登録されているが、富士市の歴史を辿る上では切り離して考えることが出来ない。

そのため、この4遺跡で行われる調査については、調査の行われた順に一連の地区名を付与し、「東平遺跡第〇地区」と呼称している。

昭和33年の伊勢塚古墳の調査を第1地区とし、令和4年3月までに、本発掘調査、確認調査、試掘調査を合わせて、147地区195件の発掘調査が行われている（第11図、第1表）。



第11図 東平遺跡 調査履歴図

第1表 東平滯跡 調査履歴一覧表

地区	区	調査年度	調査番号	調査対象	所在地	調査の経緯	調査期間	経緯	遺物	備考	
1地区	1区	S33	本学編	石浜1303-1	外	墓地造成	20210223	墓石・石塔			
1地区	2区	S35	本学編	石浜1305-1	外	墓地造成	20210310～20210903	墓石	遺物片	C	
1地区	3区	H12	試掘	石浜1302-1	外	修繕作業	20210015		土製片		
2地区	1区	S40	本学編	石浜2		墓石出土・C造成	20210709	竪穴建物跡、竪立柱建物跡	土師器、須恵器、鉄器	A	
3地区	1区	S53	本学編			西宮十三箇所建設	20210701	竪穴建物跡、竪立柱建物跡 土上、溝・溝溝	竪穴建物跡、竪立柱建物跡	A・B	
4地区	1区	S54	本学編	石浜2658		墓地造成	20210910～20210910	古銭(西平第1号墳)	瓦片・瀬戸川・瀬戸製磁器片	C・H	
5地区	1区	S54	工事立会	石浜2515-1		新築建設	20211100	なし	なし		
5地区	1区	S55	本学編	新野浦浦内建設		新築建設	20211025～20211027	なし	土師器	B	
7地区	1区	S55	本学編	石浜2816		墓上	20220131	竪立柱建物跡、竪穴建物跡			
7地区			(次巻)				20220209				
9地区	1区	S63	本学編	石浜2837	外	長石置建設	20220225	竪穴建物跡、竪立柱建物跡	土師器、須恵器、鉄器、刀子 与玉・ヤセル、骨	E	
10地区	1区	S63	試掘	石浜2837-1	外	長石置建設	19990318～19990328	なし	なし		
11地区	1区	H01	試掘	石浜2425-5		住宅建設	19990818～19990824	土上・溝・溝溝、溝溝溝	土師器、須恵器、陶磁器		
12地区	1区	H01	本学編	石浜2369-1	外	貸事務所建設	19991115～19991228	古銭(東平第1号墳) 竪穴建物跡	瓦片・鏡・丁字型利刃	D	
13地区	1区	I02	試掘	石浜2401-2		マンション敷地造成	19991018～19991019	なし	なし		
14地区	1区	H01	学術調査	西岡上野11-4		三日月原今跡緊急調査	19990414～19990602	竪穴建物跡、土上・土坑	土師器、須恵器、骨瓦片		
15地区	1区	H04	試掘	石浜2743		小学校校舎増設型	19920806～19920811	なし	白鳥急輪船		
15地区	2区	H18	試掘	石浜2743		長内運動場・総合体育館建設	20060607～20060630	なし		N	
15地区	3区	H18	試掘	石浜2743-2	外	小学校校舎改修	20060724～20060727	竪穴建物跡		N	
15地区	4区	H18	本学編	石浜2743-2	外	長内運動場・総合体育館建設	20060802～20061130	竪穴建物跡、竪立柱建物跡 古銭(中村上野1号墳)	土師片(土師器、須恵器) 古銭(中村上野1号墳)	N	
15地区	5区	H20	H20-08	試掘	石浜2743-2	外	小学校校舎改修	20060826～20060827	なし	なし	
15地区	6区	H20	試掘	石浜2743-2	外	小学校校舎改修	20061219～20060220	竪穴建物跡、竪立柱建物跡 溝溝溝溝、性格不明遺物	土師器、須恵器	N	
15地区	7区	H22	H22-08	試掘	石浜3116-1		小学校校舎器具庫建設	20100722	なし	F	
16地区	1区	S55	試掘	西岡上野2991-1	外	東平運動場緊急調査	1999080*	竪穴建物跡	土師器、瓦輪筒、瓦	G	
16地区	2区	H04	試掘	西岡上野2991-1	外	駐車場造成	19930111～19930129	竪穴建物跡、ピット	土師器、須恵器、瓦	G	
16地区	3区	H05	学術調査	西岡上野2991-1	外	三日月原今跡緊急調査	19940117～19940331	竪穴建物跡、土上・ピット 土坑・土坑	土師器、須恵器 瓦・刀子・銅釘	G	
16地区	4区	H06	学術調査	西岡上野2991-1	外	三日月原今跡緊急調査	19940413～19940622	竪穴建物跡、土上・ピット		G	
17地区	1区	H05	試掘	石浜2865-1	外	長石置建設	19990316				
18地区	1区	H05	試掘	石浜2529-2	外	住宅建設	19940303～19940308	溝溝溝溝	土師器、須恵器		
19地区	1区	H06	試掘	石浜3104-1	外	ゾウランド建設	19941101～19941108	土師器片・須恵器片			
19地区	2区	I29	H29-02	確認	石浜3104-1	外	長石置建設	20170412～20170413	ピット		
20地区	1区	H07	試掘	石浜2327-1	外	宅地造成	19990607～19990914	竪穴建物跡、土上	土師器、須恵器	T	
20地区	2区	H08	試掘	石浜2327-1	外	宅地造成	19960527～19961027	竪穴建物跡、竪立柱建物跡	土師器、須恵器	Y	
21地区	1区	H07	工事立会	石浜3180-8		河川改修	1999100*	なし	なし		
22地区	1区	H07	試掘	石浜3201-1	外	起歩宅建設	19960301～19960309	なし	土師器、須恵器、陶磁		
23地区	1区	H07	試掘	石浜2810-1	外	共同住宅建設	19960311～19960319	古銭(西平第2号墳)	須恵器片	H	
23地区	2区	H08	調査調査	石浜2810-1	外	共同住宅建設	19960413～19960510	古銭(西平第2号墳)			
23地区	3区	H08	本学編	石浜2810-1	外	共同住宅建設	19960507～19960531	古銭(西平第2号墳)		H	
24地区	1区	H08	試掘	石浜2819-1	外	倉庫建設	19961125～19961200	竪穴建物跡	土師器、須恵器	H	
24地区	2区	H08	本学編	石浜2819-1	外	倉庫建設	19961216～19970116	古銭(西平第4号墳)	土師器、須恵器	H	
24地区	3区	H09	試掘	石浜2497-3		共同住宅建設	19970612～19970618	なし	なし		
26地区	1区	H10	試掘	石浜2819-9		長石置建設	19990118～19990121	なし	なし		
26地区	1区	H11	試掘	石浜2827-1	外	本専大跡代館代替造成	19990810～19990827	竪穴建物跡		G	
27地区	2区	H11	試掘	石浜2527-1	外	本専大跡代館代替造成	20000311～20000325	竪穴建物跡	土師器、須恵器、瓦輪片用の瓦	K	
27地区	3区	H15	本学編	石浜2527-1	外	倉庫解体	20040303～20040304		G		
28地区	1区	H11	試掘	石浜3024-1	外	長石置建設	19990904～19991014	竪穴建物跡	土師器、須恵器	F	
28地区	2区	H11	本学編	石浜3024-1	外	長石置建設	20000203～20000517	竪穴建物跡、竪立柱建物跡	土師器、須恵器	F	
29地区	1区	H12	試掘	石浜2879-3	遺失	防大水郷造成	20010227	ピット(遺物不明)			
30地区	1区	H12	試掘	石浜2828-1	外	宅地造成	20010119～20010221	竪穴建物跡、竪立柱建物跡 土上	土師器、竪立柱建物跡	H	
30地区	2区	H12	本学編	石浜2828-1	外	宅地造成	20010307～20010319	竪穴建物跡、竪立柱建物跡 土上	土師器、須恵器	H	
31地区	1区	H12	試掘	石浜2829-1	外	宅地造成	20010307～20010313	古銭筒	土師器、須恵器	H	
32地区	1区	H13	試掘	石浜2529-2		長石置建設	20011205～20011210	竪穴建物跡、竪立柱建物跡		H	
33地区	1区	H16	試掘	石浜3034-3	外	宅地造成	20041116～20041122	土坑	須恵器片・土坑	I	
34地区	1区	H16	試掘	西岡上野11-2		共同住宅建設	20041201～20041202		土師器片・須恵器片・骨瓦片	I	
35地区	1区	H16	試掘	西岡本町3415-9	外	共同住宅建設	20041004～20041008			I・J	
36地区	1区	H15	試掘	石浜3054-1		共同住宅建設	20030609			K	
37地区	1区	H17	試掘	石浜2331-2		共同住宅建設	20050601～20050617	竪穴建物跡	土師片	L	
37地区	2区	H17	本学編	石浜2331-2		共同住宅建設	20050804～20050812	竪穴建物跡、竪立柱建物跡	土師器、須恵器	L	
37地区	3区	H19	H19-15	試掘	石浜2323-1	外	葬務庫建設	20071107～20071109	竪穴建物跡、ピット	土師器、須恵器	J
37地区	4区	H19	H19-05	本学編	石浜2323-1	外	葬務庫建設	20080130～20080310	竪穴建物跡、ピット、土溝	土師器、須恵器	L
38地区	1区	H17	試掘	石浜3068-1	外	共同住宅建設	20050630～20050609	竪穴建物跡	土師器	L	
39地区	1区	H17	試掘	石浜2496-2		共同住宅建設	20050920～20050928	竪立柱建物跡		J	
40地区	1区	H18	試掘	石浜2398-12	外	住宅建設	20050423			J	
41地区	1区	H18	試掘	石浜2442-1	外	長石置建設	20070208～20070213			J	
41地区	2区	H27	H27-19	確認	石浜2391-1	外	ホテル建設	20130914～20130915	竪穴建物跡、土上・ピット	土師器	U
41地区	3区	H27	H27-25	確認	石浜2391-1	外	ホテル建設	20131224～20131231	竪穴建物跡、土上・ピット	土師器、土製品	U
41地区	4区	H28	H28-01	本学編	石浜2391-1	外	ホテル建設	20160500～20160900	竪穴建物跡、土上・ピット 性格不明遺物	土師器、須恵器、民権陶器 磁器、土製品	U
42地区	1区	H19	H19-12	試掘	石浜2474-1	外	マンション建設	20070927～20071009	竪立柱建物跡、ピット	土師器、須恵器	K

地区	区	調査 年度	調査 年度	調査 時期	所在地	調査の種類	調査期間	経緯	建物	備考
43地区	1次	R29	R29-10	既製	信託2006-3	ホテル建設	2009015～2009016	譲	なし	M
43地区	2次	R29	R29-6	既製	信託2006-3	不動産売買	2018020	ビッド	なし	Y
43地区	3次	R02	R02-6	既製	信託2006-3	宅地分譲	2020014	不明譲渡	なし	Y
43地区	4次	R02	R02-10	本発願	既製上野2094.20	集合住宅建設	20210113～20210126	譲渡譲渡・ビッド	土留、防音防、金属製品	Y
43地区	1次	R20	R20-13	既製	既製上野148-1	土	店舗建設	2000026～2000004	なし	Y
45地区	1次	R21	R21-07	既製	信託2743-2	まちづくりセンター改修	2000006～2000017	なし	なし	O
46地区	1次	R21	R21-14	既製	信託2484-5	不動産売買	20100114～20100115	なし	なし	O
47地区	1次	R21	R21-18	既製	信託2588-1	個人住宅建設	2000005	なし	なし	O
48地区	1次	R22	R22-02	既製	既製上野2697-2	個人住宅建設	20100422～20100428	第六建物特	土留、窓遮断	F
49地区	1次	R22	R22-06	既製	信託2004-12	不動産売買	2000009	なし	なし	F
50地区	1次	R22	R22-07	既製	信託2782-1	不動産売買	2010076～20100707	なし	なし	F
51地区	1次	R22	R22-10	既製	国頭第二丁目2161	店舗解体廃棄	2010026～2010027	なし	土留、窓遮断	F
52地区	1次	R22	R22-13	既製	信託2069-1	個人住宅建設	2010106～2010107	なし	なし	F
53地区	1次	R22	R22-19	既製	信託2021-1	共同住宅建設	2010120	なし	なし	F
53地区	2次	R22	R22-15	既製	信託3031-1	共同住宅建設	20101230	なし	なし	F
54地区	1次	R22	R22-24	既製	信託1006-1	共同住宅建設	2010227	なし	なし	F
55地区	1次	R22	R22-28	既製	既製上野2978-6	個人住宅建設	2010127～2010128	第六建物特	土留、窓遮断、瓦・防音防	F
56地区	1次	R22	R22-29	既製	既製上野3423-1	共同住宅建設	2010101	なし	土留、金属製品	F
57地区	1次	R23	R23-04	既製	既製上野2992-3	宅地売買	2010418	第六建物特	土留、窓遮断、瓦	F
58地区	1次	R23	R23-09	既製	信託2708-1	個人住宅建設	2010104～2010105	なし	なし	F
59地区	1次	R24	R24-10	既製	既製上野8-5-1	店舗改修	2012074～20120821	第六建物特・ビッド	窓遮断、土留、瓦	Q
59地区	2次	R25	R25-30	既製	既製上野8-5-1	店舗改修	2013126	なし	なし	Q
60地区	1次	R24	R24-25	既製	既製上野2821-2	個人住宅建設	2013020	第六建物特	土留、窓遮断	Q
60地区	2次	R25	R25-10	本発願	既製上野2821-2	個人住宅建設	2013011～2013009	第六建物特・ビッド・土留	土留、窓遮断、瓦留	Q
61地区	1次	R25	R25-01	既製	既製上野2902-23の一部	宅地造成分譲	2013045	第六建物特・土留	防音防、土留	Q
62地区	1次	R25	R25-15	既製	信託2988-1	宅地造成分譲	20130716～20130718	土留・窓遮断・ビッド	土留、窓遮断、瓦	Q
62地区	2次	R25	R25-15	既製	信託2988-1	宅地造成分譲	2013028	なし	なし	Q
63地区	1次	R25	R25-12	既製	既製上野2978-4	個人住宅建設	2013085～2013007	第六建物特・土留・ビッド	土留、窓遮断、瓦	Q
64地区	1次	R25	R25-28	既製	信託2383-1	共同住宅建設	2011123～2011129	第六建物特・ビッド	土留、窓遮断、防音防	Q
65地区	1次	R25	R25-29	既製	既製上野2912-2	個人住宅建設	2013121	なし	土留	Q
66地区	1次	R25	R25-16	既製	既製上野2978-3	宅地造成・分譲	20140212～20140214	第六建物特・譲 土留・ビッド	土留、窓遮断、瓦	Q
67地区	1次	R25	R25-26	既製	信託2799-1	宅地造成	2013114	不明譲渡	土留	Q
68地区	1次	R26	R26-01	既製	信託2481-3	不動産売買	2014049～20140410	なし	なし	R
69地区	1次	R26	R26-02	既製	信託2994	不動産売買	2014045～20140417	第六建物特・土留・ビッド	土留、窓遮断、瓦	R
70地区	1次	R24	R24-28	既製	信託2700-11	宅地分譲	2010319	なし	なし	R
71地区	1次	R26	R26-11	既製	信託2380-1	不動産売買	2010074～20100715	なし	土留	R
72地区	1次	R26	R26-18	既製	信託2731-3	宅地造成	2010603	なし	なし	R
73地区	1次	R26	R26-25	既製	信託2483-2	不動産売買	2010629	なし	なし	R
74地区	1次	R26	R26-26	既製	信託2000-1	店舗解体	2014107～20141008	なし	なし	R
74地区	2次	R26	R26-30	既製	信託2000-1	店舗解体	20141119～2014120	なし	なし	R
75地区	1次	R26	R26-27	既製	信託2066-1	宅地造成	20141016～20141017	土留・ビッド	土留、窓遮断、防音防	R
76地区	1次	R26	R26-28	既製	信託3066	個人住宅建設	20141027	なし	窓遮断	R
77地区	1次	R27	R27-13	既製	信託3040-1	宅地造成	2015077～20150729	第六建物特	土留、窓遮断	R
78地区	1次	R27	R27-04	既製	信託2548-2	個人住宅建設	20150423	ビッド	なし	R
79地区	1次	R28	R28-04	既製	既製上野18-5	個人住宅新築	2016021	なし	なし	S
80地区	1次	R28	R28-07	既製	既製上野2902-2	個人住宅新築	2016022	なし	なし	S
81地区	1次	R28	R28-14	既製	信託2004-3	駐車場整備	2016003	なし	なし	S
82地区	1次	R28	R28-18	既製	既製上野2895-14	不動産売買	2016029～2016021	なし	なし	S
83地区	1次	R28	R28-19	既製	信託2370-1	敷地造成	2016103～20161004	第六建物特・譲・ビッド	土留、窓遮断	S
83地区	2次	R28	R28-104	本発願	信託2370-1	敷地造成	20161204～20161207	第六建物特・譲・土留 ビッド・性能不明譲渡	土留、窓遮断、防音防 瓦留、敷断	S
84地区	1次	R28	R28-30	既製	信託2723-1の内	個人住宅新築	2016124	なし	なし	S
85地区	1次	R28	R28-31	既製	信託3122-3	個人住宅新築	2016125	なし	なし	S
86地区	1次	R29	R29-18	既製	信託2426-1	宅地分譲	2017046	土留・ビッド	土留	V
87地区	1次	R29	R29-03	既製	信託2429-2	宅地分譲	20201107～20201108	第六建物特・土留・ビッド	土留、窓遮断、防音防	V
87地区	2次	R29	R29-03	既製	信託2429-1	不動産売買	2017018	土留・ビッド・譲渡譲渡	土留	V
87地区	2次	R29	R29-10	本発願	信託2595-1	集合住宅建設	2017029～20170601	土留・土留	土留	V
88地区	1次	R29	R29-08	既製	信託1795-12-13	不動産売買	2017023	なし	なし	V
89地区	1次	R29	R29-14	既製	信託2619-48	教育事業所建設	2017004	なし	なし	V
89地区	2次	R03	R03-04	既製	信託2619-18の一部	教育事業所建設	2010421	新設社建特・第六建物特・譲 土留・土留・ビッド	土留、金属製品・金属製品	*
90地区	1次	R29	R29-17	既製	信託3054-2	アパート新築	2017003～2017004	第六建物特・土留・ビッド	土留	V
91地区	1次	R29	R29-21	既製	信託2389-7	個人住宅建設	2017101	不明譲渡・譲渡譲渡・ビッド	土留、窓遮断、防音防	V
92地区	1次	R29	R29-26	既製	信託2755-3、2755-1	宅地分譲	2017126	なし	土留	V
93地区	1次	R29	R29-27	既製	信託3098-7	不動産売買	2017120～20171206	譲渡譲渡（近江口通り）	土留、防音防	V
94地区	1次	R29	R29-28	既製	既製上野11-30	集合住宅建設	20180219～20180221	第六建物特・ビッド	土留、窓遮断、瓦	V
95地区	1次	R30	R30-07	既製	既製上野2902-4	個人住宅	20180514～20180516	第六建物特	土留、窓遮断、瓦	W
96地区	1次	R30	R30-09	既製	信託2206-4	個人住宅建設	2018021～2018023	第六建物特	土留、窓遮断	W
97地区	1次	R30	R30-10	既製	信託2416-1	住宅事業所建設	2018029～2018031	土留・ビッド	土留、窓遮断	W
98地区	1次	R30	R30-13	既製	信託2409-1	集合住宅新築	2018042～2018043	第六建物特・土留・ビッド	土留、窓遮断、防音防、防音防	W
99地区	1次	R30	R30-19	既製	信託3014-6	宅地分譲	2018070	第六建物特・土留・ビッド	土留	W
100地区	1次	R30	R30-23	既製	信託2258-6	集合住宅新築	20180718	第六建物特・譲・ビッド	土留	W
101地区	1次	R30	R30-29	既製	既製上野2904-1	店舗建設	2018007	譲渡譲渡	土留	W
101地区	2次	R30	R30-32	既製	既製上野2904-1	店舗建設	20181107	ビッド	土留	W
101地区	3次	R30	R30-64	既製	既製上野2904-1	サインボード設置	2019028	譲渡譲渡・ビッド	なし	W
102地区	4次	R30	R30-106	本発願	既製上野2904-1	サインボード設置	2019029	土留・ビッド	なし	W
102地区	1次	R30	R30-30	既製	信託2551-1	不動産売買	2018006	ビッド	なし	W

地区	区	調査年度	調査番号	調査種別	所在地	調査の名称	調査期間	遺構	遺物	備考	
103	地区	2次	H30	H30-32	本発掘	石浜 2551-1 内	宅地造成	20181023 ~ 20181122	土坑・ピット	土師・陶磁器	W
103	地区	1次	H30	H30-32	確認	浅間上町 2867-1	宅地分譲	20180823	竪穴建物跡・土坑・ピット 施土敷	土師・瓦・鉄製品	W
103	地区	2次	H30	H30-37	確認	浅間上町 2867-1	宅地分譲	20180605 ~ 20180609	竪穴建物跡・溝・ピット 不明遺構	土師・陶磁	W
104	地区	1次	H30	H30-36	確認	石浜 2550-1	個人住宅新築	20180831	なし	なし	W
105	地区	1次	H30	H30-42	本発掘	浅間町 92-1 外	個人住宅新築	20180609	なし	なし	W
106	地区	1次	H30	H30-49	確認	石浜 2863-3	個人住宅新築	20181018	竪穴建物跡・土坑・ピット・溝	なし	W
107	地区	1次	H30	H30-51	確認	浅間町 2899-6 内	個人住宅新築	20181024	竪穴建物跡・土坑・ピット・溝	土師・土製品	W
108	地区	1次	H30	H30-53	確認	浅間上町 2896-12	個人住宅新築	20181113	なし	なし	W
109	地区	1次	H30	H30-63	確認	浅間上町 2372-1	店舗建設	20190122 ~ 20190123	竪穴建物跡・土坑	土師・鉄製品	W
110	地区	1次	H30	H30-69	確認	石浜 2503-9	集合住宅新築	20190118	なし	なし	W
111	地区	1次	H31	H31-01	確認	石浜 2400-2	個人住宅新築	20190409 ~ 20190411	なし	なし	X
112	地区	1次	H31	H31-07	確認	石浜 2355-1	宅地分譲	20190508 ~ 20190509	なし	なし	X
113	地区	1次	H31	H31-10	確認	石浜 2520-5	店舗建設	20190515	ピット	土師	X
113	地区	2次	H31	H31-10	本発掘	石浜 2520-5	店舗建設	20190708 ~ 20190731	溝・柱穴・土坑	土師	X
114	地区	1次	H31	H31-21	試掘	高島町 73-2	店舗建設	20190716 ~ 20190718	なし	なし	X
115	地区	1次	H31	H31-22	確認	石浜 2821-1	個人住宅新築	20190719	なし	なし	X
116	地区	1次	H31	H31-29	確認	石浜 2853-4	個人住宅新築	20190820	なし	なし	X
117	地区	1次	H31	H31-32	確認	石浜 3014-11	個人住宅新築	20190802	ピット	なし	X
119	地区	2次	H31	H31-43	確認	浅間町 2026-1 外	個人住宅新築	20190809 ~ 20191002	土坑・ピット	土師・金属製品	X
118	地区	1次	H31	H31-42	確認	浅間上町 2026-1	宅地分譲	20191114	なし	なし	X
118	地区	2次	H30	H30-53	確認	浅間上町 2025-1	宅地分譲	20181124 ~ 20181126	竪穴建物跡・ピット	土師・陶磁器・鉄製品・金属製品	Z
119	地区	1次	H31	H31-49	確認	浅間上町 2020-1	宅地分譲	20191125	竪穴建物跡・ピット	土師	Z
120	地区	1次	H31	H31-51	確認	石浜 2841-7	個人住宅新築	20191204	なし	なし	X
121	地区	1次	H31	H31-55	確認	石浜 2802-1	宅地造成	20191223	溝・ピット	土師	X
122	地区	1次	H31	H31-57	確認	石浜 2839-5	住宅新築	20200116	なし	なし	X
123	地区	1次	H31	H31-58	確認	石浜 2863-1 内	集合住宅新築	20200124	なし	なし	X
124	地区	1次	H31	H31-59	確認	石浜 3048	個人住宅新築	20200128 ~ 20200129	なし	なし	X
125	地区	1次	H31	H31-64	確認	石浜 2866-5 内	個人住宅建設	20200205	ピット	なし	X
125	地区	2次	H30	H30-102	本発掘	石浜 2866-6	個人住宅(非発掘部)	20200824 ~ 20200828	溝・土坑・柱穴	土師器	Z
126	地区	1次	H30	H30-103	確認	石浜 2791-9 内	土壌造成工事	20200415	なし	なし	Z
127	地区	1次	H30	H30-105	確認	石浜 2431	宅地分譲	20200608 ~ 20200609	竪穴建物跡・土坑・ピット	土師器・須恵器・輪切石・砂舟	Z
128	地区	1次	H30	H30-106	確認	石浜 3028-1 内	個人住宅新築	20200414	なし	なし	Z
129	地区	2次	H30	H30-107	確認	浅間町 3028-1 外	個人住宅新築	20200415	ピット	土師	Z
130	地区	1次	H30	H30-108	確認	浅間上町 2894-20 内	個人住宅新築	20200421	竪穴建物跡	土師	Z
130	地区	2次	H30	H30-101	本発掘	浅間上町 2894-20 内	個人住宅新築	20200518 ~ 20200528	竪穴建物跡・ピット	土師・金属製品	Z
131	地区	1次	H30	H30-111	確認	浅間上町 2890-25 内	個人住宅建設	20200423	なし	なし	Z
132	地区	1次	H30	H30-114	確認	石浜 2840-11	個人住宅新築	20200511	ピット	なし	Z
133	地区	1次	H30	H30-122	確認	石浜 2780-1 内	宅地分譲	20200624 ~ 20200626	土坑	なし	Z
134	地区	1次	H30	H30-124	確認	石浜 2723-1 外	共同住宅建設	20200728 ~ 20200730	竪穴建物跡・ピット	土師器・須恵器	Z
135	地区	1次	H30	H30-130	確認	石浜 2787 内	宅地分譲	20200914	なし	なし	Z
136	地区	1次	H30	H30-135	確認	石浜 2329-1 内	店舗建設	20210115 ~ 20210121	竪穴建物跡・溝・土坑 ピット	土師器・須恵器・陶磁器	Z
136	地区	2次	H30	H30-104	本発掘	石浜 2329 外 1内	貸店舗建設	20210310 ~ 20210603	竪穴建物・竪立建物	土師器・須恵器・鉄製品	本番
137	地区	1次	H30	H30-139	確認	石浜 3008-14	個人住宅新築	20200918	なし	なし	Z
138	地区	1次	H30	H30-145	確認	石浜 2734-2	不発掘発掘	20201029	なし	なし	Z
139	地区	1次	H30	H30-150	確認	石浜 2754-4	不発掘発掘	20210615	なし	土師器	a
140	地区	1次	H30	H30-153	確認	浅間上町 2863-5 内	個人住宅建設	20210709	なし	なし	a
141	地区	1次	H30	H30-157	確認	石浜 2527-6	個人住宅建設	20210701	なし	なし	a
142	地区	1次	H30	H30-157	確認	石浜 2619-46	不発掘発掘	20210910 ~ 20210911	なし	土師	a
143	地区	1次	H30	H30-154	確認	石浜 3091	不発掘発掘	20211020	土坑	なし	a
144	地区	1次	H30	H30-155	確認	石浜 2556-4	不発掘発掘	20211025 ~ 20211027	なし	なし	a
145	地区	1次	H30	H30-150	確認	石浜 3055-6	個人住宅建設	20220131	ピット	土師	a
146	地区	1次	H30	H30-153	確認	石浜 3060-1	個人住宅建設	20220309	なし	なし	a
147	地区	1次	H30	H30-155	確認	石浜 2860-5 外	個人住宅建設	20220325	なし	なし	a

[脚注] A 『東平湾 遺跡(Ⅰ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第1号)』(1982)

B 『東平湾 遺跡(Ⅱ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第2号)』(1983)

C 『東平湾 遺跡(Ⅲ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第3号)』(1985)

D 『東平湾 遺跡(Ⅳ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第4号)』(1986)

E 『東平湾 遺跡(Ⅴ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第5号)』(1987)

F 『東平湾 遺跡(Ⅵ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第6号)』(1988)

G 『東平湾 遺跡(Ⅶ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第7号)』(1989)

H 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

I 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

J 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

K 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

L 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

M 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

N 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

O 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

P 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

Q 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

R 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

S 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

T 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

U 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

V 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

W 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

X 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

Y 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

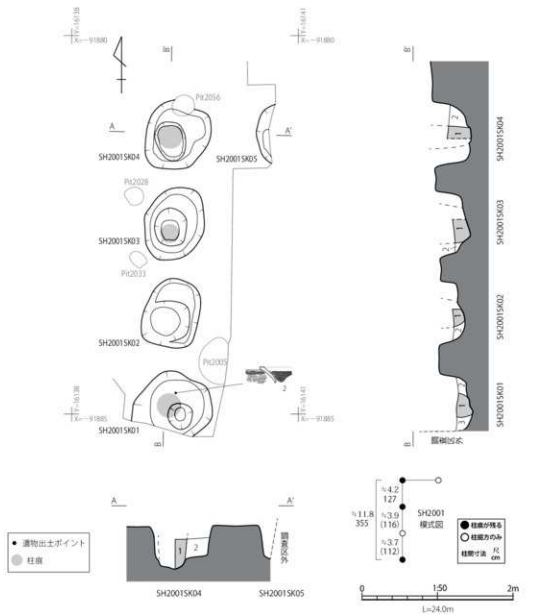
Z 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

a 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

b 『東平湾 遺跡(Ⅷ)』、前掲『石浜町中野の縄文時代の遺跡発掘調査報告書(第8号)』(1990)

第3章 遺構と遺物

第1節 掘立柱建物



SH2001SK01	1	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり、径5～10cm ロームブロック少量含む。	柱痕
	2	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり、ロームをシミ状に含む。	柱埋土
	3	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり、ロームをシミ状に含む。	柱埋土
SH2001SK02	1	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり、径5～10cm ロームブロック中量含む。	柱痕
	2	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり、径5～10cm ロームブロック多量含む。	柱埋土
SH2001SK03	1	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり、径5～10cm ロームブロック中量含む。	柱痕
	2	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり、径5～10cm ロームブロック多量含む。	柱埋土
SH2001SK04	1	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり、径5～10cm ロームブロック中量含む。	柱痕
	2	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり、径5～10cm ロームブロック多量含む。	柱埋土

第12図 SH2001

SH2001

位置 1 工区

重複関係 (古) SH2001 → Pit2056 (新)

主軸方位 N-0.8 -E

残存状況 検出部分で南北3間、東西1間の5基の柱穴が確認された。規模は柱間寸法で南北3.55 mを測る。

東に隣接する第20地区の南西隅で確認されたSH02が本建物と同一遺構を構成すると考えると、南にもう一つ柱穴が続き、南北4間×東西5間の側柱建物になると想定される。

覆土 ロームを含む黒褐色土。

柱穴 柱穴の平面形は楕円形もしくは隅丸方形である。規模は長軸107～91cm、短軸87～79cm、検出面からの深さは46～35cmである。

SK01とSK03・SK04では柱痕が不明瞭ながら確認できる。柱穴はいずれも底部が一段低く掘りこぼめられている。

出土遺物 柱穴SK01から出土した2点を図示した。

1は土師器甕の口縁部片で、外面に横ヘラミガキが認められる。2は土師器球胴甕(甕D)の肩部である。内面は横ハケ目、外面は斜めハケ目後、横ヘラミガキが施される。

時期 外面にヘラミガキが施される甕Dは富士I(8世紀前半頃)に位置づけられ、本建物跡はそれ以降の造成と考えられる。

SH2002

位置 1 工区

重複関係 (古) SD2001 → SH2002 (新)

主軸方位 北側2基の柱穴に柱痕跡が確認されないため厳密ではないが、N-1 -Eほどと推定される。

残存状況 検出部分で南北3間、東西1間の5基の柱穴が確認された。規模は柱間寸法で南北3.44 mを測る。SH2001の北側に南北の柱穴列が1列に並ぶような形で検出された。

覆土 ロームを含む黒褐色土。

柱穴 柱穴の平面形は隅丸方形あるいは楕円形である。規模は長軸88～65cm、短軸71～57cm、検出面からの深さは72～47cmである。

SK02とSK03で柱痕跡が確認された。SK02は南側に段をもち、SK02～05では柱穴底面に柱の当たりとみられるくぼみが認められる。

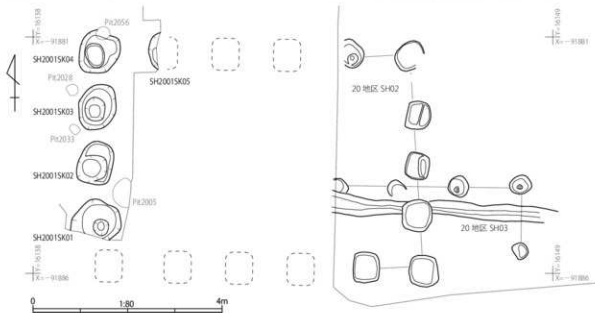
出土遺物 柱穴から出土した2点を図示した。

1はSK05出土の須恵器の瓶類あるいは甕の口縁部である。口縁端部を三角形に外に突出させる。

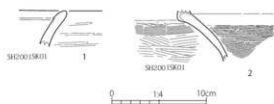
2はSK03から出土した土師器埴の口縁部で、断面三角形に肥厚させている。

時期 1の須恵器口縁部は遠江III期末からIV期(沢東I～II、7世紀代)、2の土師器埴は沢東I～富士III(7～8世紀代)に位置づけられる。

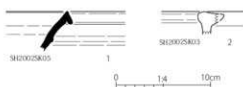
主軸を描えて隣接するSH2001と同時期とすれば、富士I(8世紀前半頃)以降の造成と考えられる。



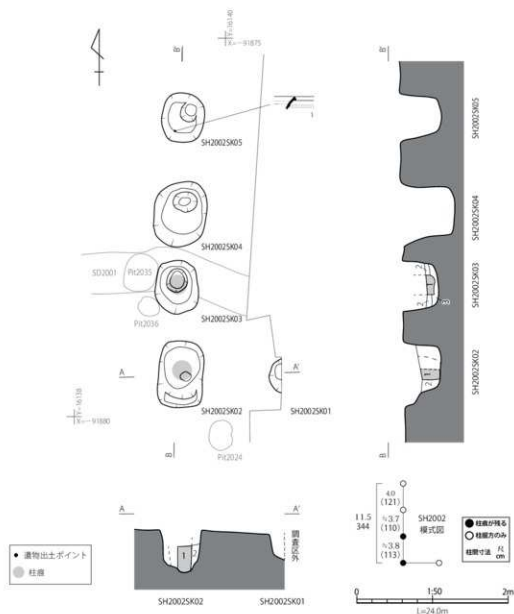
第13図 SH2001と20地区SH02



第14図 SH2001 出土遺物実測図



第15図 SH2002 出土遺物実測図

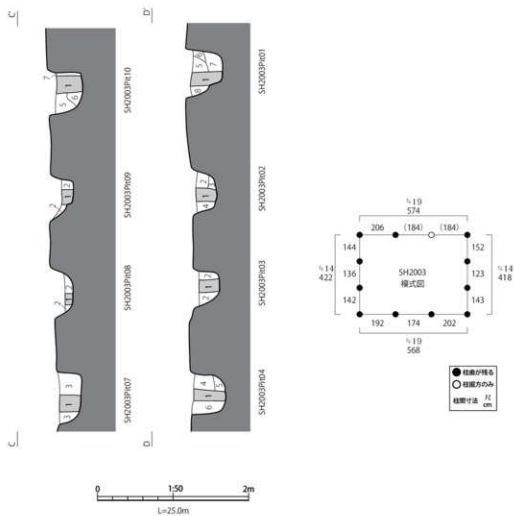


- | | | | |
|------------|---|---|-----|
| SH2002SK02 | 1 | 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を含む。 | 柱礎 |
| | 2 | 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。ロームをシミ状に多く含む。 | 柱埋土 |
| SH2002SK03 | 1 | 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径2~5cmのロームブロックを少量含む。 | 柱礎 |
| | 2 | 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。 | 柱埋土 |
| | 3 | 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。ロームをシミ状に多く含む。 | 柱埋土 |

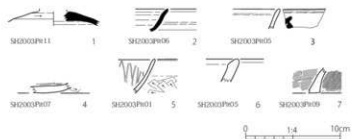
第16図 SH2002



第17図 SH2003 (1)



第18図 SH2003 (2)



第19図 SH2003 出土遺物実測図

SH2003

位置 3 工区

重複関係 (古) SK2281 → SH2003 → SK2241 (新)

主軸方位 N-7.9 -W

残存状況 12 基の柱穴が検出され、東西 3 間×南北 3 間の側柱建物である。規模は柱間寸法で桁行(東西) 5.74 m、梁行(南北) 4.18 mを測る。令小尺(1 尺≒0.30 m)に換算するとおおよそ 19 尺×14 尺となる。

覆土 ロームを含む黒褐色土。

柱穴 柱穴の平面形は隅丸方形である。規模は長軸 82 ~ 65cm、短軸 70 ~ 57cm、検出面からの深さは 64 ~ 28cm である。

攪乱 17 に大部分を切られている Pit12 を除くすべての柱穴で柱痕跡が確認され、柱の直径は 23 ~ 17cm であると推定される。柱痕跡は掘り込みの中心には位置せず、北辺では北寄り、東辺では東寄りというように外側寄りに位置する傾向が認められる。特に、Pit07 と Pit09 では柱設置時に位置調整のために柱掘方を拡張した様子がみられる。

出土遺物 柱穴から出土した 7 点を図示した。

1 は Pit11 出土の須恵器摘み蓋である。外面を回転ヘラケズリし、円形の摘みが剥離した痕が認められる。2 は Pit06 出土の須恵器坏である。体部下半をヘラケズリしているとみられる。

3 は Pit05 出土の土師器坏である。体部内面には横ヘラミガキが施され、口縁部外面に沈線が 1 条巡るようである。体部外面に墨書の一部が認められるが、判読不能である。4 は土師器坏の底部片とみられる。Pit07 から出土した。底部と体部の境は明瞭でなく、外面はヘラケズリ調整し、内面にはまばらなヘラミガキが認められる。5 は Pit01 出土の土師器の甲斐型坏である。体部外面下半にヘラケズリ調整、内面に放射状ヘラミガキが施される。

6 は Pit05 出土の土師器甕口縁部で、端部はあまり肥厚させていない。7 は Pit09 出土の土師器長胴甕の底部である。胴部内外面をハケ目調整している。

時期 年代決定の難しい出土資料しかないが、5 の甲斐型土器の内面の磨きや形状から富士 IV (9 世紀前葉) 前後の時期としておく。

SH2004

位置 3 工区

重複関係 (古) SK2282・2301 → SH2004 (新)

主軸方位 N-7.45 -W

残存状況 8 基の柱穴が検出され、2 間×2 間の側柱建物とみられたが、南辺中央の Pit04 の底面が高いことから、これが補助的な柱である可能性が考えられ、南北方向を桁行としてさらに南へ延びる建物となる可能性が想定される。検出部分の規模は柱間寸法で、桁行(南北) 東側 3.74m (12.5 尺)、西側 4.19m (14 尺)、梁行(東西) 3.75m (12.5 尺)を測る。

覆土 ロームを含む黒褐色土。

柱穴 柱穴の平面形は隅丸方形あるいは楕円形である。規模は長軸 96 ~ 42cm、短軸 57 ~ 35cm、検出面からの深さは 45 ~ 10cm である。

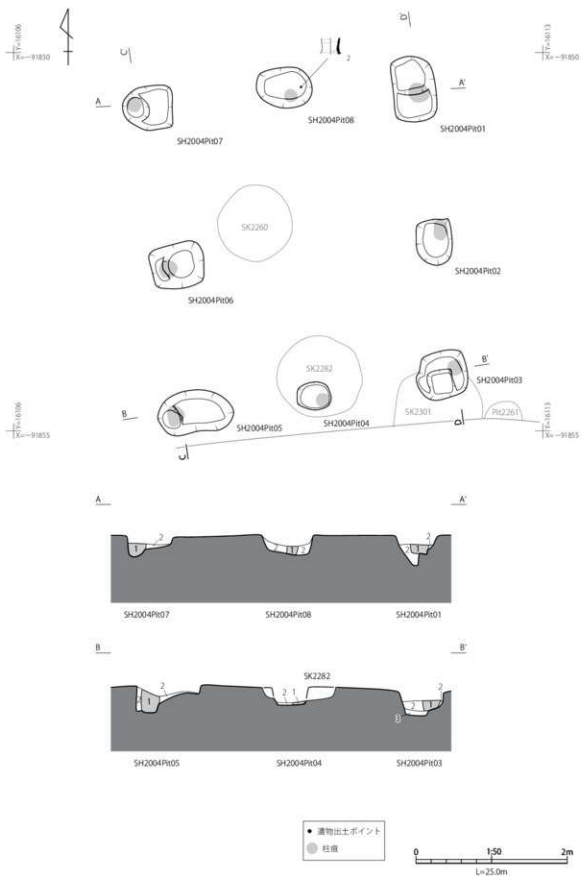
すべての柱穴で柱痕跡が確認され、柱の直径は 25 ~ 15cm であると推定される。柱痕跡は掘り込みの中心には位置せず、Pit01・05・06 などでは柱設置時に位置調整のために柱掘方を拡張した様子がみられる。

出土遺物 柱穴から出土した 2 点を図示した。1 は Pit06 から出土した須恵器坏の口縁部である。2 は Pit08 から出土した須恵器の長頸甕の頸部とみられる。

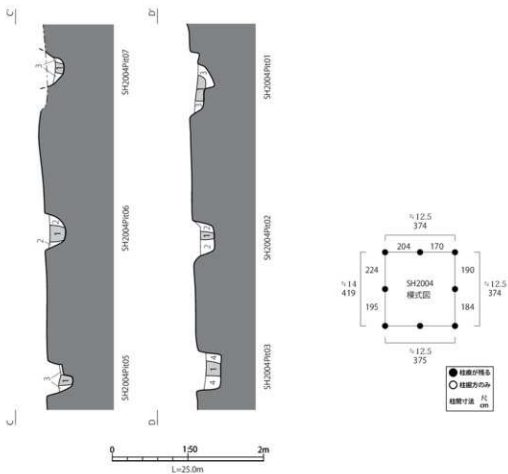
時期 出土資料から建物の年代を決定することは難しいが、掘り方形状などから SH2003 や SH2005 よりも新しいと考えられることから富士 V (9 世紀中葉) あたりを想定しておく。



第 21 図 SH2004 出土遺物実測図

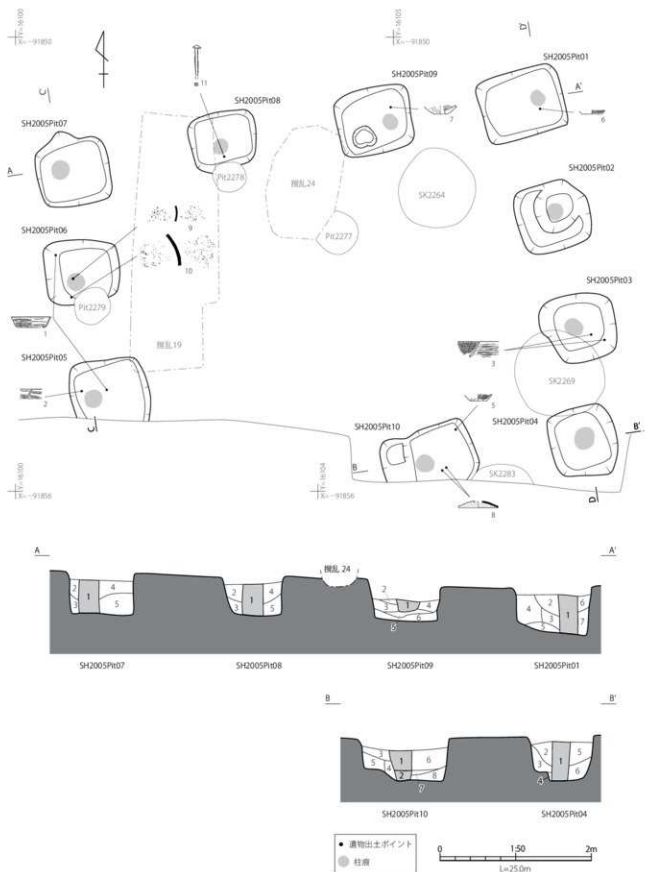


第22図 SH2004 (1)

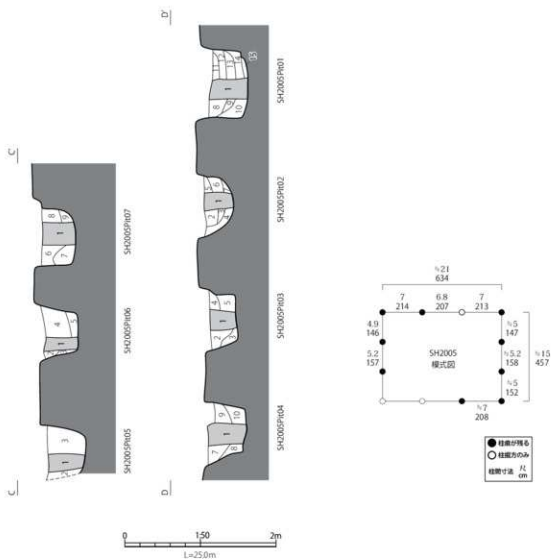


SH2004Pr01	1	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。	柱底
	2	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径2～4cm ロームブロック中量含む。	柱埋土
	3	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径2～4cm ロームブロック中量含む。	柱埋土
SH2004Pr02	1	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。	柱底
	2	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径2～4cm ロームブロック中量含む。	柱埋土
SH2004Pr03	1	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。	柱底
	2	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径2～4cm ロームブロック中量含む。	柱埋土
	3	暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック主体。	柱埋土
	4	暗褐色土 (7.5YR3/3) しまりややあり、粘性ややあり。径2～4cm ロームブロック中量含む。	柱埋土
SH2004Pr04	1	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。	柱底
	2	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック少量含む。	柱埋土
SH2004Pr05	1	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。	柱底
	2	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。	柱埋土
	3	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。	柱埋土
SH2004Pr06	1	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。	柱底
	2	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径2～4cm ロームブロック中量含む。	柱埋土
SH2004Pr07	1	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。	柱底
	2	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径2～4cm ロームブロック多量含む。	柱埋土
	3	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径2～4cm ロームブロック多量含む。	柱埋土
SH2004Pr08	1	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。	柱底
	2	黒褐色土 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック多量含む。	柱埋土

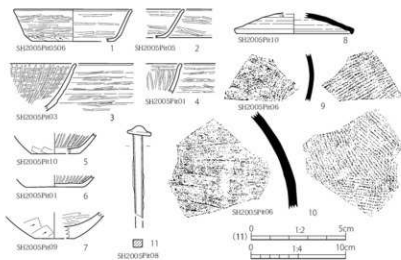
第23図 SH2004 (2)



第24図 SH2005 (1)



第25図 SH2005 (2)



第26図 SH2005 出土遺物実測図

SH2005

位置 3工区

重複関係 (古) SH2005 →

SK2269・Pit2278・Pit2279・SK2283 (新)

主軸方位 N-8.0 -W

残存状況 10基の柱穴が検出された。南西部分に未検出の2基の柱穴があるとみられ、3間×3間の側柱建物である。規模は柱間寸法で桁行(東西)6.34m、梁行(南北)東側4.57mを測る。令小尺に換算するとおよそ21尺×15尺となる。

覆土 ロームを含む黒褐色土。柱埋土に溶岩角礫を1穴につき10～20個程度入れている様子が認められ、埋土をより強固に固める手法とみられる。

柱穴 柱穴の平面形は方形を呈する。規模は長軸120～87cm、短軸88～70cm、検出面からの深さ70～56cmである。すべての柱穴で柱痕跡が確認され、柱の直径は32～22cmであると推定される。

出土遺物 柱穴から出土した11点を図示した。

1はPit05とPit06から、4はPit01とPit02から出土した破片が接合したもので、Pit05からは他に2が、Pit06からは9・10が、Pit01からは6が出土している。他にPit03から3、Pit08から11、Pit09から7、Pit10から5・8が出土している。

1～6は土師器の坏である。1・2は体部内外面とも横ヘラミガキし、底部をヘラケズリする。3・4は体部内外面に横ヘラミガキ後、内面に放射状ヘラミガキを施す。5・6は体部内面に放射状ヘラミガキを施すが、外面はナデ調整である。5は外面下端と底部をヘラケズリし、6も糸切り痕を残して底部をヘラケズリする。

7は器種不明の土師器である。平底で器壁は厚く、表面が磨滅しているため明瞭ではないが、内面はヘラミガキ、外面はヘラケズリしているようである。何らかの生産用具の可能性はある。

8は須恵器の蓋である。9・10は須恵器甕の胴部片で、外面にタタキ目、内面にあて具痕が残る。

11は鉄釘で、断面方形の本体に山形の頭がつく。

時期 1の底部径の大きい駿東坏や8の須恵器坏蓋を根拠にすれば、富士III(8世紀後葉)の遺構と考えられる。

第2節 竪穴建物

SB2001

位置 2工区北東

重複関係(古)SB2001→SK2073～2076・Pit2079(新)

主軸方位 N-16.8 -W

残存状況 建物の南西隅および南東隅など、部分的に中近世土坑やピットに切られるものの、全体は良好に残存している。平面形は方形を呈し、規模は、

主軸(南北)幅3.31m、直交(東西)幅3.38m、

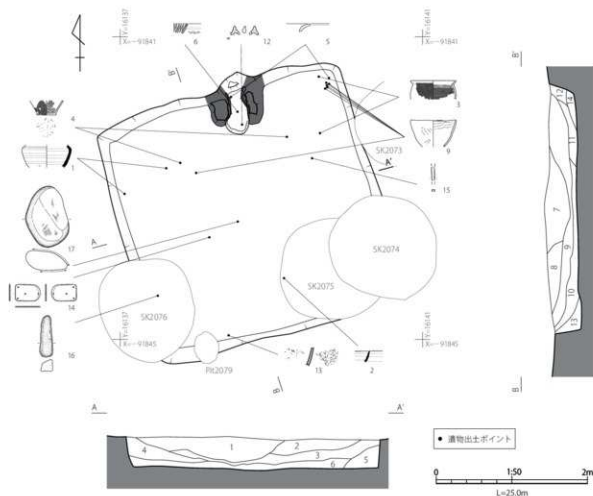
検出面からの深さ40cmである。

覆土 大淵スコリアを少量含む自然堆積。

壁溝 確認されない。

床 掘方を床としている。

柱穴 確認されない。



- | | | | |
|--------------------|-----------------|----------------------|-----------|
| 1 黒色土 (7.5YR2/1) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 大淵スコリア中層含む。 | SB2001 覆土 |
| 2 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | ローム粒子少量・大淵スコリア少量含む。 | SB2001 覆土 |
| 3 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | ローム粒子少量・大淵スコリア少量含む。 | SB2001 覆土 |
| 4 黒色土 (7.5YR2/1) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 大淵スコリア少量含む。 | SB2001 覆土 |
| 5 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | ロームブロック(径10～15cm)含む、 | SB2001 覆土 |
| 6 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 粘土を少し状に含む。 | SB2001 覆土 |
| 7 黒色土 (7.5YR2/1) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 大淵スコリア中層含む。 | SB2001 覆土 |
| 8 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | ローム粒子中層・大淵スコリア少量含む。 | SB2001 覆土 |
| 9 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 粘土粒子をシミ状に含む。(カマド由来) | SB2001 覆土 |
| 10 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | ローム粒子少量含む。 | SB2001 覆土 |
| 11 黒色土 (7.5YR2/1) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 粘土少量含む。(カマド) | SB2001 覆土 |
| 12 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 大淵スコリア少量含む。 | SB2001 覆土 |
| 13 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 大淵スコリア少量含む。 | SB2001 覆土 |
| 14 黒色土 (7.5YR2/1) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 大淵スコリア少量含む。 | SB2001 覆土 |

第28図 SB2001

カマド 北壁のほぼ中央に位置する。あまり破壊されず、比較的良好に残存している。カマド袖に芯材は使用しておらず、混ざりの少ない粘土で作られている。規模は、全長78cm、幅103cm、燃焼室幅57cmを測る。燃焼室覆土内から人形(12)が出土した。土器の出土は多くない。

その他の遺構 確認されない。

出土遺物 17点図示した。

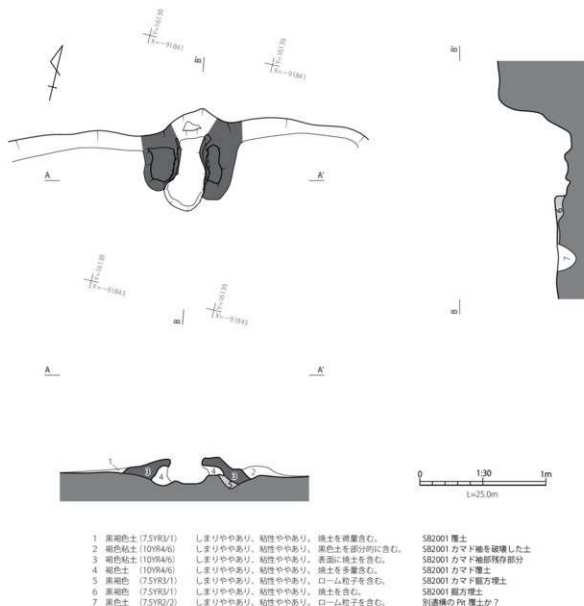
1は須恵器壺の胴部である。肩は丸みをもちながらも明瞭に屈折し、胴部下方には回転ヘラケズリ調整が施される。2は須恵器杯の体部片である。

3は土師器の小型甕で、体部内外面にハケ目調整

し、口縁端部を内側に肥厚させている。4は土師器長胴甕(甕F)の底部である。内外面にハケ目調整し、底面には木葉痕が認められる。

5～7はカマド燃焼室から出土した。5は土師器長胴甕の口縁部である。6・7は土師器杯で、内面に放射状暗文、外面下部に斜方向のヘラケズリが認められる。7は底面も丁寧にヘラケズリしている。8も土師器杯の底部片である。内面には放射状暗文、外面にはヘラケズリ後、墨書が認められるが、判読できない。

9の土師器は器壁が薄く粗雑なつくりで、底部に向けてすぼまっていくような器形を呈する。底部お



第29図 SB2001 カマド

よび脚部は確認されないが、製塩土器であると考えられる。

10 は手づくねで作られた丸底の小皿である。

11・12 は人形土製品である。カマド燃焼室から出土し、より残りが良い12をみると、粘土を指先でつまんで、逆Y字形をつくっている。2本の「脚」に比べて「胴」は幅がやや広く、「腹部」は厚みを残す。11は同様につくられた「胴」である。

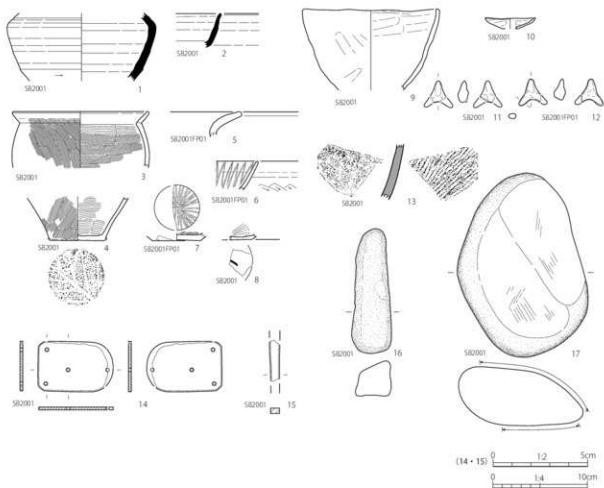
13 は中世の陶器甕の破片である。外面にタタキ目、内面に当て具の痕跡が残る。

14 は腰帯具の金銅装鈍尾の裏金具である。紙を通す孔は、直線的な短辺の両端に1つずつ、弧を描く短辺の中央に1つ、全体の中心付近に1つ、計4

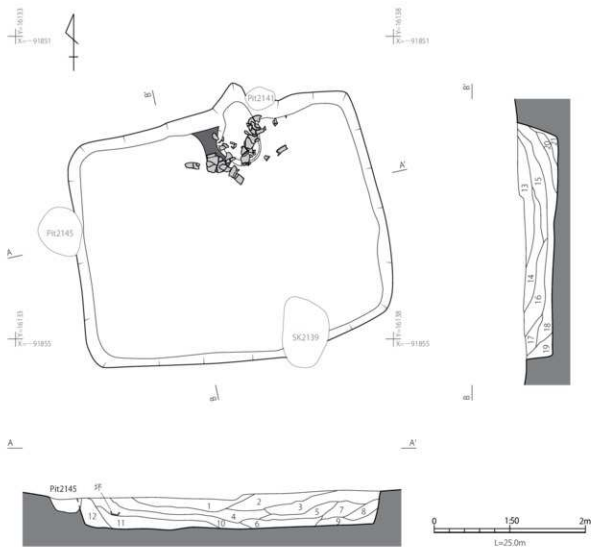
箇所開いている。富士市内では同様の形状の鈍尾が、東平遺跡内の西平第1号墳や、一色に存在した一色D・第35号墳の副葬品として出土している。

15 は鉄銚の頭部片、16 は菰編みに用いる石とみられる。17 は磨石で表と裏の2面を磨り面としている。

時期 カマドから出土した6や底部径のやや小さくなってきた放射状の見込み暗文状ミガキをもつ駿東坏などから富士IV（9世紀前葉）と考えられる。9の製塩土器の年代とも矛盾がない。



第30図 SB2001 出土遺物実測図



- | | | |
|--------------------|------------------------------------|-----------|
| 1 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。 | SB2002 覆土 |
| 2 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子中量含む。 | SB2002 覆土 |
| 3 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックをシミ状に含む。 | SB2002 覆土 |
| 4 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック・粘土・炭化材多量含む。 | SB2002 覆土 |
| 5 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。 | SB2002 覆土 |
| 6 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。 | SB2002 覆土 |
| 7 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ロームをシミ状に含む。 | SB2002 覆土 |
| 8 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック少量含む。 | SB2002 覆土 |
| 9 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。 | SB2002 覆土 |
| 10 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。粘土をシミ状に含む。 | SB2002 覆土 |
| 11 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック少量含む。 | SB2002 覆土 |
| 12 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。 | SB2002 覆土 |
| 13 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。 | SB2002 覆土 |
| 14 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック・粘土・炭化材多量含む。 | SB2002 覆土 |
| 15 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。粘土をシミ状に含む。 | SB2002 覆土 |
| 16 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子中量含む。 | SB2002 覆土 |
| 17 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子中量含む。 | SB2002 覆土 |
| 18 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子中量含む。 | SB2002 覆土 |
| 19 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。 | SB2002 覆土 |
| 20 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。 | SB2002 覆土 |
| 21 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。 | SB2002 覆土 |

第31図 SB2002

SB2002

位置 2工区南東

重複関係(古)SB2002→SK2139・Pit2141・Pit2145(新)

主軸方位 N-11.1°-W

残存状況 確認調査(1次調査)でSB1002とした遺構である。部分的に土坑・ピットに切られるものの、全体として良好に残存している。平面形は、南辺がやや広がる方形を呈し、規模は主軸(南北)幅3.26m、直交(東西)幅4.01m、検出面からの深さ50cmである。

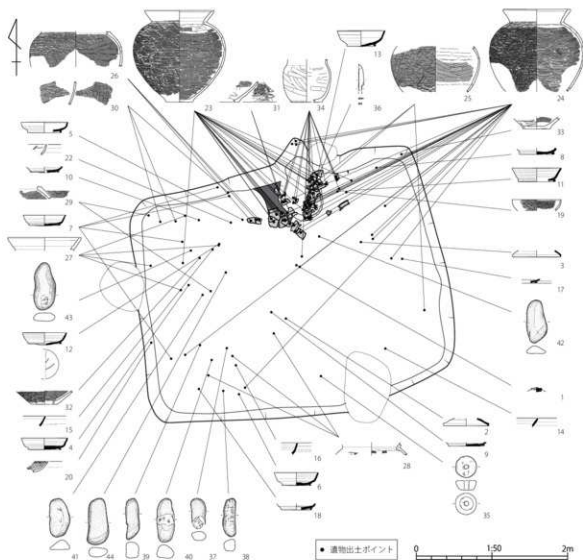
覆土 ロームを多く含む自然堆積。

壁溝 確認されない。

床 掘方を床としている。

柱穴 確認されない。

カマド 北壁の中央やや東寄りに位置する。カマド本体は破壊されており、袖や芯材などは残存しない。全長101cm、燃焼室幅51cmを測る。燃焼室周辺から土師器駿東型甕の破片が多量に出土している。カマド鎮めに伴うカマドの破壊が徹底的に行われ、カマド構築粘土が持ち去られたのちに、土師器甕の破壊行為が行われたものと考えられる。



第32図 SB2002 遺物出土状況図

その他の遺構 確認されない。

出土遺物 44点図示した。

1～3は須恵器の坏蓋で、1は蓋の柄み部分、2・3は返りのない蓋である。

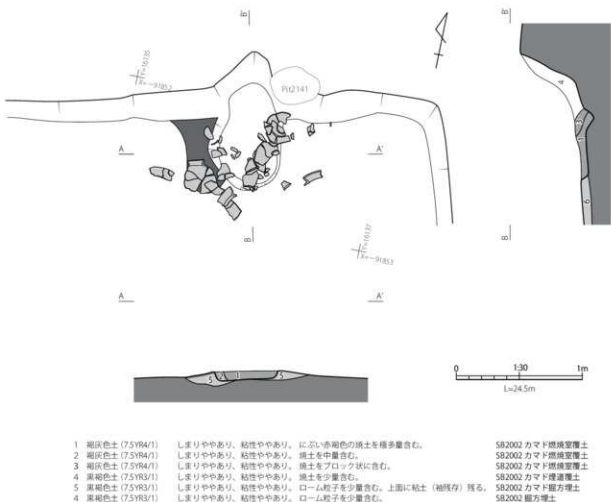
4～13・17・18は須恵器有台坏身である。いずれも坏部の底部が丸みをもって、高台部より張り出すか、張り出す可能性がある形状である。12は底面に2条のヘラ描き(黒印?)が認められる。

14～16は須恵器坏の体部である。

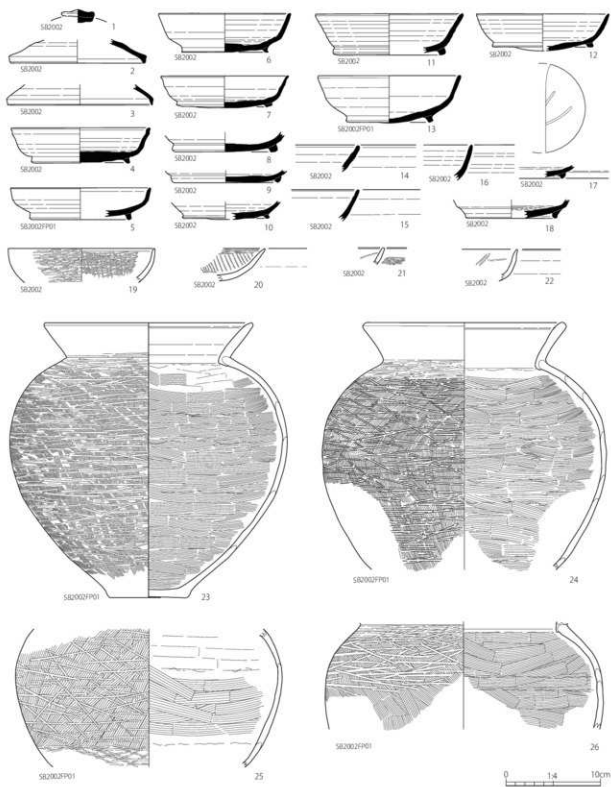
19～22は土師器の坏である。19の体部は丸みを持ち、口縁端部は内側に向けて面取りしている。胎土には雲母が混ざり、内外面に密な横ヘラミガキをしたのち、内面には放射状ヘラミガキも施され、光沢をもつ。畿内産とは限定できないものの、その影

響を強く受けた暗文土師器である。20は丸底で口縁端部をやや外側へ引き出す。体部内面には斜め方向のヘラミガキが施される。19同様、畿内産土師器の可能性が指摘できる。21は坏の口縁部片で、体部外面には丁寧な横ヘラミガキが施され、内面にも一筋の横ヘラミガキが認められる。22は須恵器坏蓋模倣の坏(坏E)である。

23から33は土師器の駿東型球胴甕(甕D)である。総じて、肩が張る形態で、口縁端部はあまり肥厚させない。体部内面は横ハケ目調整、外面は斜めハケ目調整後ヘラミガキが施され、底部には木炭痕が認められる。23～26・31はカマドから出土し、27は本建物出土遺物と確認調査SB1002出土遺物(富士市教育委員会2022 第134図1)とが接合したもの



第33図 SB2002 カマド



第34図 SB2002 出土遺物実測図(1)

である。

34はカマドから出土した小型甕である。頸部はS字状にゆるく屈曲し、肩は張らず、大きな底部に木葉痕が残る。体部は内外面ともナデ調整である。

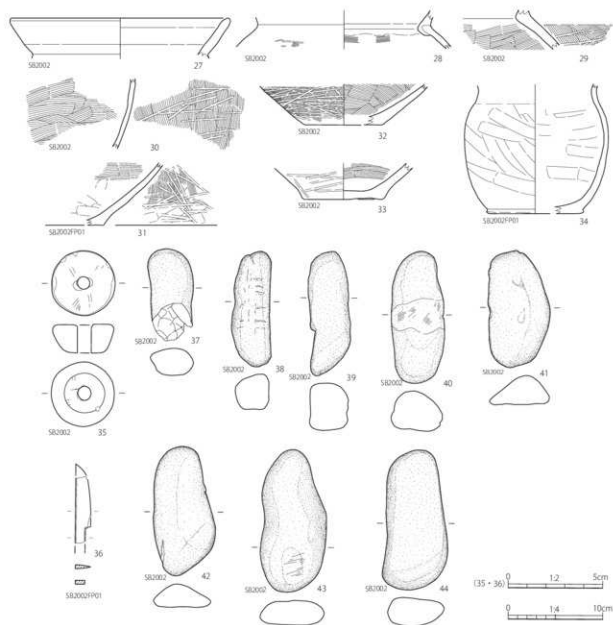
35は凝灰岩製の紡錘である。重量は27.70gと比較的軽く、東村氏の検討(東村2011)に基づく、織糸用の紡錘と想定される。

36はカマドから出土した尖根片刃箭式の鉄鏝である。37～44は菰編みに用いる石とみられる。

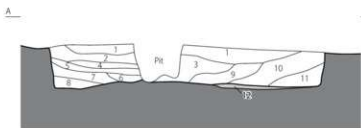
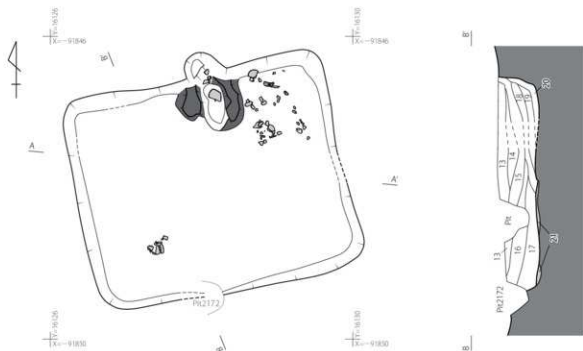
時期 須恵器の坏蓋・有台坏身、土師器の甕Dや19などの畿内産(系)土師器の土器(飛鳥IV～V)から、富士I(8世紀前半頃)に位置づけられる。今後、富士Iの年代を7世紀まで遡らせて考えることも検討する材料になる資料群と言える。

参考文献

- 東村 純子 2011『考古学からみた古代日本の紡織』
 富士市教育委員会 2022『富士市内遺跡発掘調査報告書—令和2年度—』富士市埋蔵文化財調査報告 第73集



第35図 SB2002 出土物実測図(2)



- | | | | |
|--------------------|-----------------|-----------|-------------|
| 1 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 2 褐色土 (10YR4/6) | しまりややあり、粘性ややあり。 | 粘土多量含む。 | SB2003 礫土 |
| 3 褐色土 (10YR4/6) | しまりややあり、粘性ややあり。 | 粘土中量含む。 | SB2003 礫土 |
| 4 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 5 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | 炭化材中量含む。 | SB2003 礫土 |
| 6 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 7 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 8 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | 粘土を少し含む。 | SB2003 礫土 |
| 9 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 10 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 11 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 12 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫方礫土 |
| 13 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 14 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 15 褐色土 (10YR4/6) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 16 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 17 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 18 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | 炭化材を中量含む。 | SB2003 礫土 |
| 19 褐色土 (10YR4/6) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 20 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫土 |
| 21 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。 | | SB2003 礫方礫土 |

第 36 図 SB2003

SB2003

位置 2工区西側

重複関係 (古) SB2007 → SB2003 → Pit2172 (新)

主軸方位 N-12.1°-W

残存状況 全体が良好に残存している。

平面形は方形を呈し、規模は主軸(南北)幅2.87m、直交(東西)幅3.52m、検出面からの深さ52cmである。

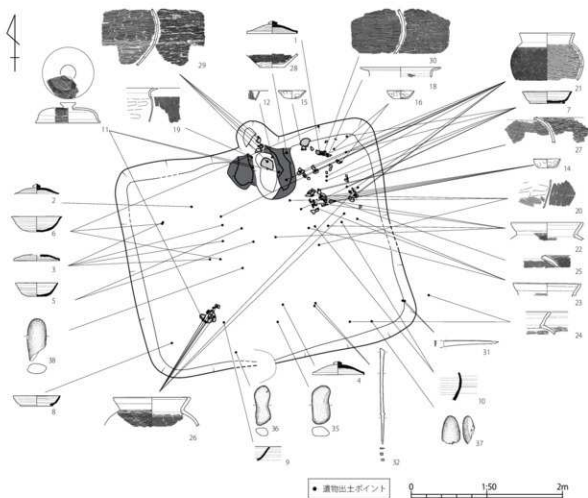
覆土 粘土を多く含む自然堆積。

壁溝 確認されない。

床 中心部分など部分的に4~6cm厚の貼り床が認められる。

柱穴 確認されない。

カマド 北壁ほぼ中央に位置する。破壊された様子が認められるものの、袖部は両袖とも比較的良好に残存している。全長82cm、幅84cm、燃焼室幅28cmを測る。左袖に1石、右袖に2石の溶岩を立てて芯材とし、混ざりのない暗褐色粘土で構築されている。天井の架石と考えられる石が燃焼室上面に落ち込んでおり、破壊行為によりカマド天井部を土から押しつぶしたものと想定される。この天井の石には被熱の様子が認められず、粘土でコーティングされていたと考えられる。カマド鎮めの際に燃焼室から掻き出したとみられる焼土・炭化材や、粘土、土器片が右袖部周辺に多く検出される(SX01)。



第37図 SB2003 遺物出土状況図

その他の遺構 確認されない。

出土遺物 須恵器 (1～10)、土師器 (11～30)、鉄製品 (31～34)、菰蒔みの石 (35～38) など、38点を図示した。

1～4は須恵器の返りのない摘み蓋である。1・2・4の摘みは平たい宝珠形を呈する。

5・6は無台の須恵器坏身で、5は底部を回転ヘラケズリするが、6はナデ調整である。

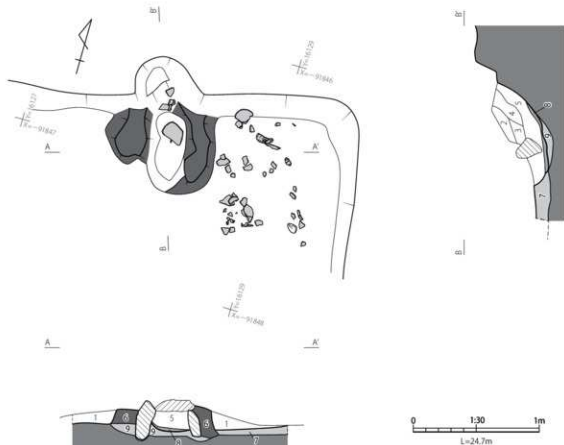
7・8は須恵器の有台坏身で、口径に比して器高が低く、底部は張り出さない。9は須恵器坏の体部である。

10は須恵器の壺とみられる体部片である。外面

下半はヘラケズリ調整され、内面下半には自然釉が認められる。

11は土師器の壺蓋である。平らな天井部からゆるく屈曲して、口縁部は外側へ開く。口縁端部は内側へ丸く肥厚させる。内面のミガキが観察されず、外面全体に丁寧なヘラミガキが施されていることから蓋と判断した。本来は外面中央部分に摘みがつくものと思われるが、欠損している。畿内産土師器と考えられ、壺A(奈良文化財研究所分類)の蓋と考えられる。

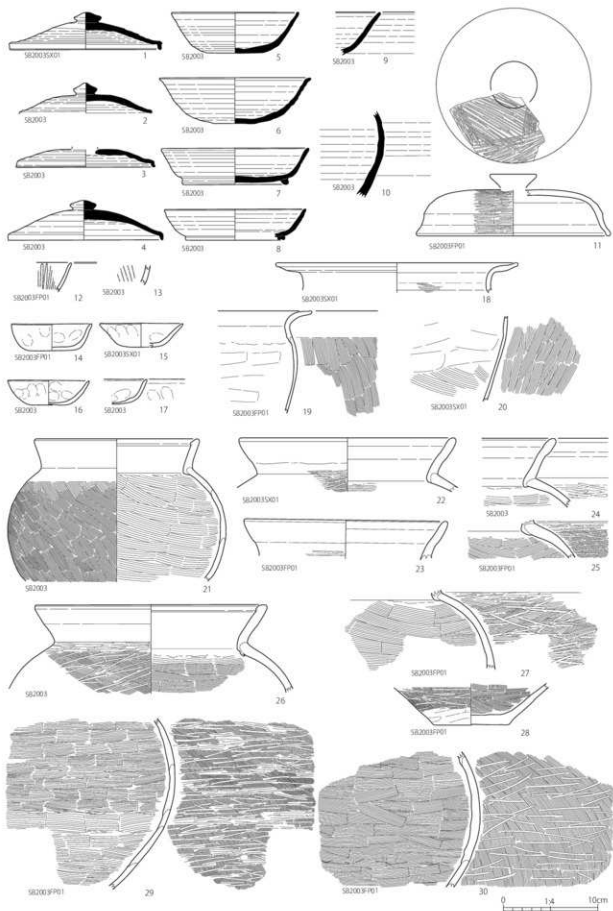
12・13は土師器坏の体部片である。内面に放射状ヘラミガキが認められる。



- | | | |
|-------------------|-----------------|-------------------|
| 1 黒褐色土 (75YR3/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 粘土粒子中量含む。 |
| 2 暗褐色粘土 (10YR3/4) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 混ざりのない粘土。 |
| 3 暗褐色粘土 (10YR3/4) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 白色の粘土ブロック中量含む。 |
| 4 黒褐色土 (10YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 黒褐色に白色粘土ブロック少量含む。 |
| 5 黒褐色土 (10YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 黒褐色に白色粘土ブロック中量含む。 |
| 6 暗褐色粘土 (10YR3/4) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 混ざりのない粘土。 |
| 7 黒褐色土 (75YR3/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 炭化物少量含む。 |
| 8 黒褐色土 (75YR3/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 炭土種多量含む。 |
| 9 黒褐色土 (75YR3/2) | しまりややあり、粘性ややあり、 | 粘土少量混ざる。 |

- | |
|-----------------|
| SB2003 壺土 |
| SB2003 カマド天井部 |
| SB2003 カマド覆土 |
| SB2003 カマド覆土 |
| SB2003 カマド覆土 |
| SB2003 カマド土 |
| SB2003 竈方埋土 |
| SB2003 カマド焼成室覆土 |
| SB2003 カマド竈方埋土 |

第38図 SB2003 カマド



第39図 SB2003 出土遺物実測図(1)

14～17は土師器の小型の坏である。内外面とも指オサエの痕が残り、14と17の底部には木葉痕が認められる。

18～20は遠江系水平口縁甕（甕E）である。

21～30は駿東型球胴甕（甕D）である。21の口縁部は直立に近く立ち上がり、端部を内側に肥厚させている。胴部内面は粗い横ハケ目調整、外面は細かい斜めハケ目調整で、肩部をヨコナデし、ヘラミガキは施されない。22～24・26は頸部がくの字に屈曲し、22～24は口縁端部をあまり肥厚させないが、26は肥厚させている。22・24～30は胴部外面に斜めハケ目調整後ヘラミガキを施している。23も頸部にわずかにヘラミガキが確認できる。28の底部には木葉痕が残る。

31は刀子の刃部であるが、研ぎ減りが著しく、細い刀身となっている。

32は尖根片刃箭式の鉄鏃で、茎間は棘閑である。頸部の中ほどでくの字に折れ曲がっているが、復元すると全長15cmほどになる。

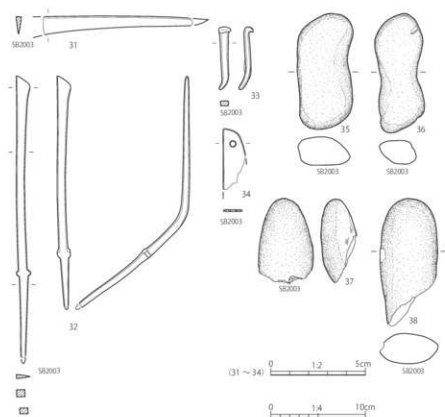
33は鉄釘とみられる。断面は長方形で下端が細くなり、上端を90度に折り曲げている。

34は薄い板状の破片に径3mmの孔が開いた鉄製品であるが、器種や時期は不明である。

35～38は菰編みに用いる石とみられる。

時期 遠江V期前半の須恵器、土師器の甕E、外面にヘラミガキを施す甕Dや畿内産土師器であるII（飛鳥IV～V）から、富士I（8世紀前葉頃）に位置づけられる。

SB2002同様、富士Iの年代を7世紀まで遡らせて考えることも検討する材料になる資料群と言える。



第40図 SB2003 出土遺物実測図(2)

SB2004

位置 2工区北東隅

重複関係 (古) SB2004 → Pit2072 (新)

主軸方位 (N-6°-W) (西壁)

残存状況 大部分が調査区外にあり、南西角部分を検出したのみである。検出部から推定される平面形は方形で、南北検出幅 1.98 m、東西検出幅 1.0m、検出面からの深さ 46cm である。

覆土 ロームを含む自然堆積。

壁溝 確認されない。

床 掘方を床としている。

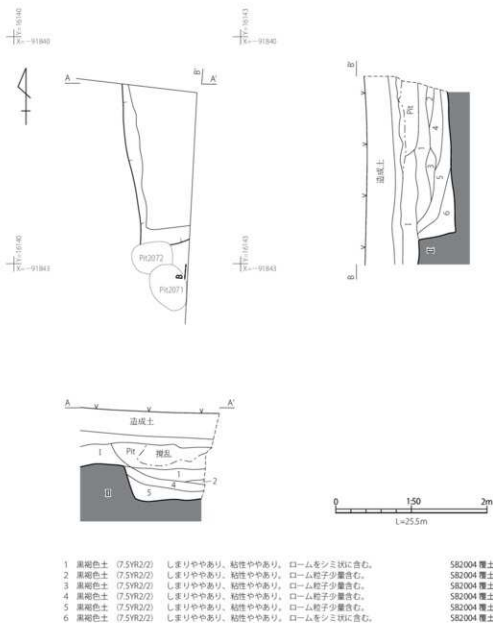
柱穴 確認されない。

カマド 確認されない。検出部の覆土に粘土が認められないことから、北壁か東壁に存在する可能性がある。

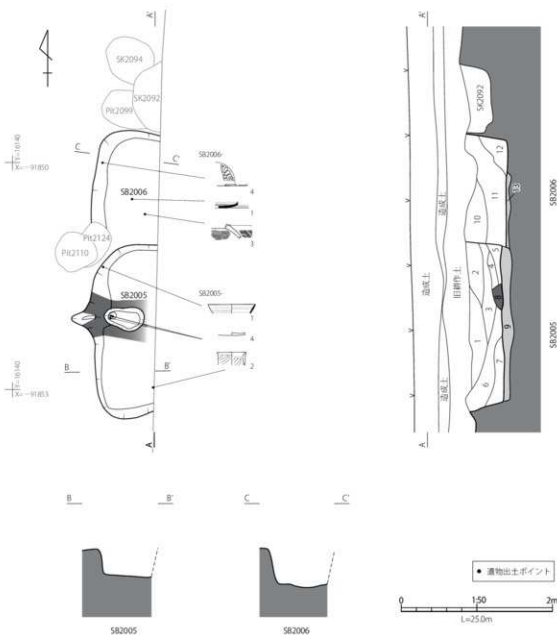
その他の遺構 確認されない。

出土遺物 小破片が多く、図化に至る遺物はなかった。

時期 遺物からは時期決定がしづらいが、球胴甕の特徴から富士 I (8世紀前葉) 頃と推定される。



第 41 図 SB2004



SB2005	1	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	ロームブロック少量含む。
	2	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	黒色ブロック少量含む。
	3	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	粘土をシミ状に所々含む。
	4	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	粘土をシミ状に所々含む。
	5	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	ロームブロック少量含む。
	6	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	ロームブロック少量含む。
	7	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	ロームブロック少量含む。
	8	暗褐色粘土 (7.5YR3/4)	しまりややあり, 粘性ややあり,	粘土に黒色土を含む。
	9	黒褐色土 (7.5YR3/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	ローム土主体。
SB2006	10	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	ロームブロック少量含む。
	11	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	ロームブロック少量含む。
	12	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	ロームブロック少量含む。
	13	黒褐色土 (7.5YR2/2)	しまりややあり, 粘性ややあり,	ロームブロック少量含む。

SB2005 覆土
SB2005 覆土
SB2005 覆土
SB2005 覆土
SB2005 覆土
SB2005 覆土
SB2005 カマド地の残骸
SB2005 庭方覆土
SB2006 覆土
SB2006 覆土
SB2006 覆土
SB2006 庭方覆土

第42図 SB2005・SB2006

SB2005

位置 2工区東端

重複関係 (古) SB2006 → SB2005 (新)

主軸方位 N-90 -W

残存状況 東側の大部分が調査区外にあるが、西壁につくられたカマドが検出された。検出部から推定される平面形は隅丸方形で、南北幅2.26m、東西検出幅0.78m、検出面からの深さ52cmである。

覆土 カマド周辺のため、粘土を多く含む自然堆積層。

壁溝 確認されない。

床 検出部分の全面に厚さ12～14cmの貼り床が認められる。

柱穴 確認されない。

カマド 西壁中央に位置する。広範囲に粘土が広がるが、明確な袖部の残存は認められない。燃焼室は比較的良好に残存しており、芯(カマド支脚?)に直径10cm、長さ22cmの礫を立てて据えている。全長96cm、燃焼室幅24cmを測る。

その他の遺構 確認されない。

出土遺物 1は須恵器坏身の体部片である。破片の下端で内側に屈曲する稜が内外面ともに認められ、ここが体部と底部の境になるとすると、口径に対し

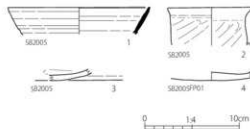
て体部高が低い杯の形が復元される。

2は土師器の小型甕の破片である。体部の肩は張らず、頭部は外側へゆるく開いて、口縁部は短く先細る。体部は内外面とも斜め方向のナデ調整である。

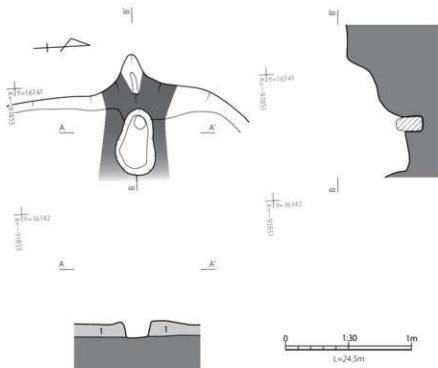
3は土師器の皿とみられる底部片である。胎土、色調が畿内産土師器に酷似しており、その可能性が指摘できる。

4は土師器坏Hの底部で、外面全面をヘラケズリしている。

時期 積極的に年代を決定できる資料がないが、SB2006を切っているものの、建物ラインをあわせていることから、SB2006同様、富士I(8世紀前葉)頃と想定される。



第43図 SB2005 出土遺物実測図



1 黒褐色土 (7.5YR2/2) しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子中量含む。 SB2005 カマド掘方埋土

第44図 SB2005 カマド

SB2006

位置 2 工区東端

重複関係 (古) SB2006 → SB2005 (新)

主軸方位 (N-4.5 -E) (西壁)

残存状況 東側の大部分が調査区外にあり、南側を SB2005 に切られている。検出部から推定される平面形は隅丸方形で、南北検出幅 1.46 m、東西検出幅 0.89m、検出面からの深さ 55cm である。

覆土 粘土を含まない自然堆積。

壁溝 確認されない。

床 部分的に 7 ~ 10cm の貼り床が認められる。

柱穴 確認されない。

カマド 確認されない。

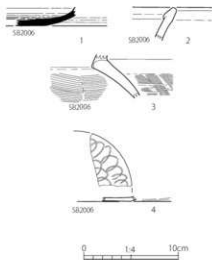
その他の遺構 確認されない。

出土遺物 1 は須恵器坏身の底部片である。底部外面を回転ヘラケズリし、底部と体部の境には明瞭な稜はなく、ゆるく湾曲して立ち上がる。

2 は土師器甕の口縁部片で、口縁端部を内側に肥厚させている。3 は土師器球胴甕の肩部である。内面は横ハケ目調整、外面は斜めハケ目後、横ヘラミガキが施される。

4 は土師器坏の底部片で、外面は全面ヘラミガキ、内面には螺旋状の暗文が施される。畿内産(系)土器の可能性が高い。

時期 球胴甕 3 の外面にヘラミガキが認められることから、富士 I (8 世紀前葉頃) に位置づけられる。



第 45 図 SB2006 出土遺物実測図

SB2007

位置 2 工区西側

重複関係 (古) SB2007 → SB2003 (新)

主軸方位 N-9.7 -E

残存状況 西側を SB2003 に切られている。平面形は方形を呈し、規模は南北幅 3.22m、東西残存幅 1.76m、検出面からの深さ 46cm である。

覆土 地山ブロックを多量に含む土層(2層)が明確なことから、部分的に人為的に埋め戻された可能性がある。

壁溝 確認されない。

床 部分的に厚さ 2 ~ 4cm の貼り床が認められる。

柱穴 確認されない。

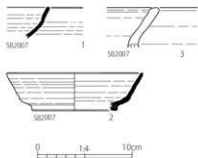
カマド 確認されない。SB2003 によって切られている北壁か西壁に存在した可能性がある。

その他の遺構 確認されない。

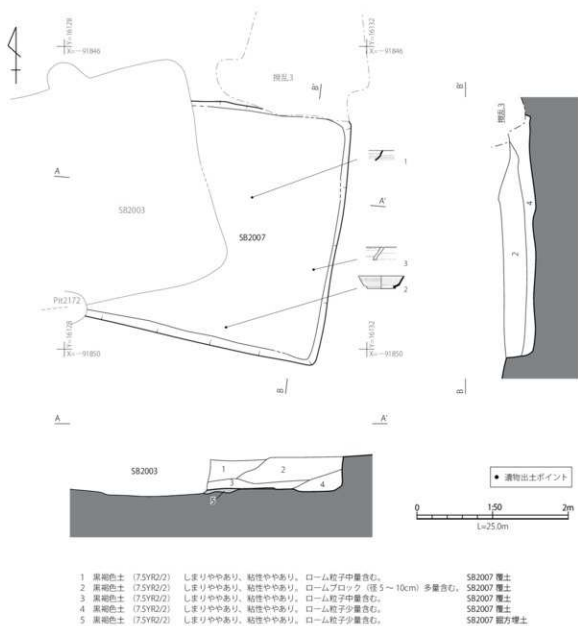
出土遺物 1・2 は須恵器坏で、2 は有台坏である。

3 は土師器甕の口縁部で、口縁端部は内側にやや肥厚させ、頸部はくの字状に屈曲するとみられる。

時期 遺物が少ないものの、富士 I (8 世紀前葉頃) とみられる。



第 46 図 SB2007 出土遺物実測図



第 47 図 SB2007

SB2008

位置 4 工区

重複関係 (古) SB2009 → SB2008 (新)

主軸方位 N-1 -W

残存状況 上面が削平を受けており、部分的には建物掘方で検出されている。平面形は隅丸方形を呈し、主軸幅 2.05m、直交幅 2.38m、検出面からの深さは最大で 20cm である。

覆土 自然堆積。

壁溝 確認されない。

床 全面に 5 ~ 8cm の貼り床が認められる。

柱穴 確認されない。

カマド 北西角に位置したとみられる。粘土・焼土が若干認められるものの、袖などは残存しない。燃焼室の可能性のある掘り込みと、カマド掘方埋土を検出したのみである。燃焼室とみられる掘り込みは全長 37cm、幅 39cm を測る。

その他の遺構 周辺に 7 基ある (SB2008Pit01 ~ 07) は、「竪穴外ピット」に該当する可能性がある。SB2008Pit01 の北側は掘乱 27 により確認できない。

出土遺物 1 ~ 11・13 ~ 15 は土師器の坏である。1 ~ 6 は在地の坏Hで、1 ~ 4 は体部内面にのみ横ヘラミガキが施される。3 は底部に木口痕を残して外周をヘラケズリし、1・4 の底部にもヘラケズリが認められる。1・2 に比べて 3 は底部から口縁部に向けて大きく広がる器形となる。4 の口縁部は玉縁状を呈する。5・6 は体部外面に墨書があり、5 は坏の正位置に対して横向きに「ナ」のような横棒と払いが認められ、6 は判読不明であるが正位置に 1 文字記されているようである。7・8 は体部内面に横ヘラミガキ後、黒色処理を施している。8 には部分的に放射状ヘラミガキも認められる。9 は体部外

面に長方形の格子状の刻書が認められる。10 の底部は中央に木口痕を残して外周をヘラケズリし、木口痕部分に墨書の一部が認められる。11 は体部内面に放射状ヘラミガキ、外面下部にヘラケズリ調整を施す甲斐型坏である。13 は残存部分の体部外面から底部全面をヘラケズリしている。14 は削り出し高台の高台坏底部である。15 は見込みと体部内面に丁寧な放射状ヘラミガキを施し、体部外面と底部もヘラミガキ調整する甲斐型坏である。

12 は土師器の皿で、体部は内外面ともナデ調整、底部にはヘラケズリが施される。

16 は灰釉陶器の碗である。口縁部から体部内面に灰オリーブ色の釉が施される。

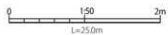
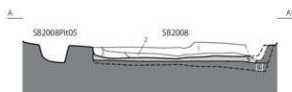
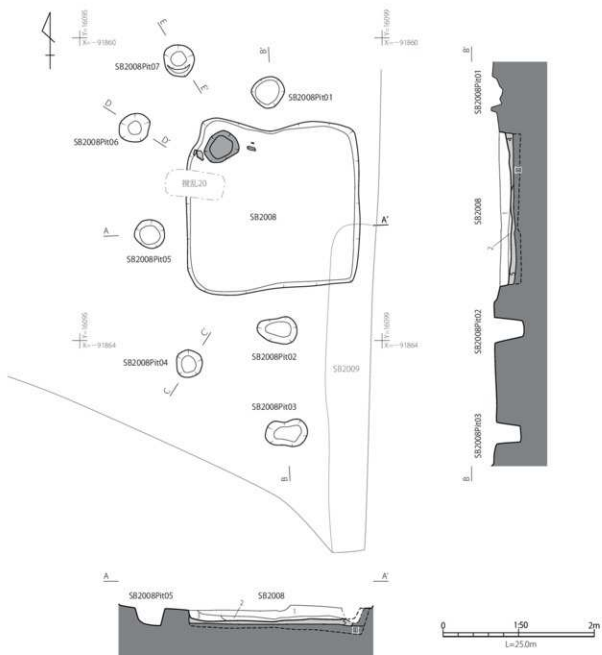
17 は甲斐型甕 (甕 G) であるが、口縁部はあまり肥厚していない。

18 ~ 24 は長胴甕 (甕 F) である。18 の口縁部は弧を描いて外へ開き、端部を丸く整えている。19 は内外面とも板ナデ調整の胴部、22・23 は同じく板ナデ調整の底部である。20 の胴部は上半をナデ調整、下半をハケ目調整している。21 の内面は横ハケ目調整、外面は斜めハケ目調整と横ナデ調整が施される。24 は内外面とも粗いハケ目調整の底部片である。

25 は鉄鉢の頸部とみられる。断面は方形を呈し、部分的に木質が付着している。

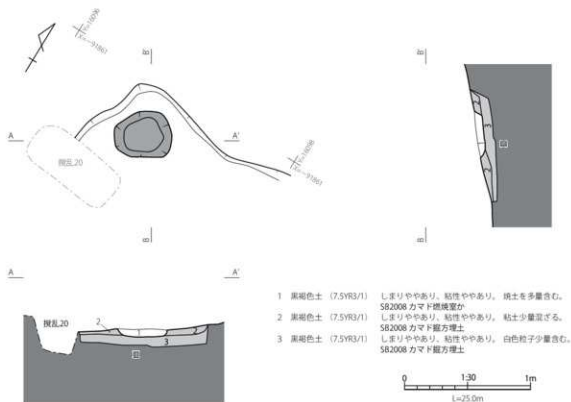
26 は蕪編みに用いる石とみられる。

時期 内面にのみ横ヘラミガキを施す坏H、甲斐型の甕G、板ナデ調整が主体となる長胴甕Fなどから、富士VI (9 世紀後葉から 10 世紀初頭頃) に位置づけられる。

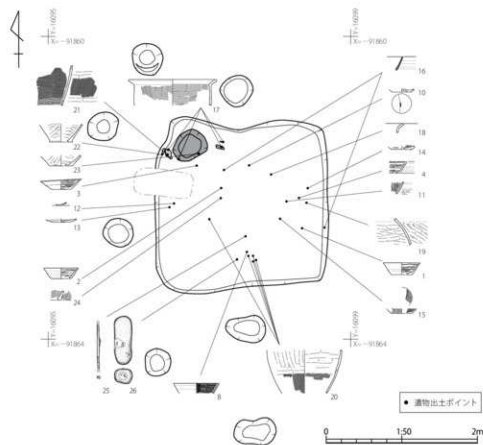


- | | | |
|-------------------|--------------------------|-------------|
| 1 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子少量含む。 | SB2008 障土 |
| 2 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子少量含む。 | SB2008 障土 |
| 3 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子少量含む。 | SB2008 障土 |
| 4 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。焼土少量含む。 | SB2008 掘方埋土 |
| 5 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。 | SB2008 掘方埋土 |
| Ⅲ 黒褐色土 (7.5YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。白色粒子少量含む。 | |

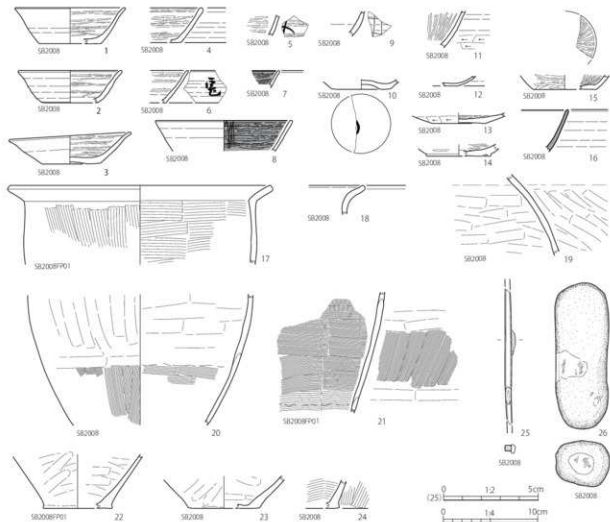
第48図 SB2008



第49図 SB2008 カマド



第50図 SB2008 遺物出土状況図



第51図 SB2008 出土遺物実測図

SB2009

位置 4工区

重複関係 (古) SB2009 → SB2008 (新)

主軸方位 N-1 -W (西壁)

残存状況 大半が調査区外にあり、北西角から西壁の一部のみ検出。検出部分で南北幅4.3m、東西幅0.6m、深さ70cmを測り、平面形は方形と推定される。

覆土 自然堆積。

壁溝 確認されない。

床 部分的に5～7cmの貼り床が認められる。

柱穴 確認されない。

カマド 確認されない。

その他の遺構 確認されない。

出土遺物 1～5は、体部の内外面に横ヘラミガキ、見込み部に放射状ヘラミガキ、底部にヘラケズリを施す在地の土師器坏(坏H)である。

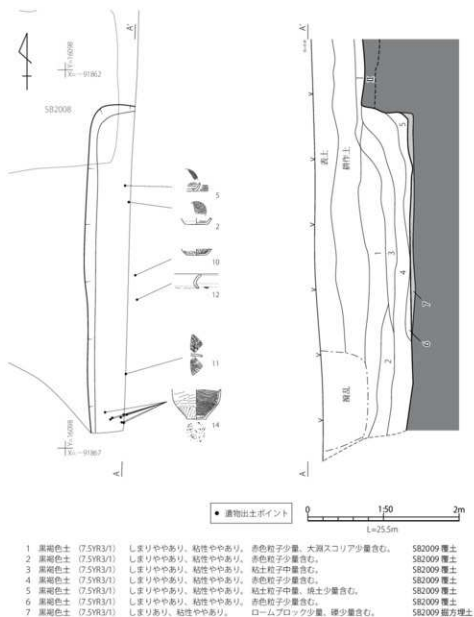
6～10は坏である。7は胎土や色調から畿内産(系)土器の可能性が指摘できる。8・9は甲斐型土器の可能性が考えられ、体部内部に放射状ヘラミガキを、体部外面下部と底部にヘラケズリ調整を施す。

11は土師器の蓋である。摘みがついていた痕跡が認められ、摘み蓋とみられる。外面には回転ヘラケズリ後に同心円状および放射状のヘラミガキが施され、内面にも放射状ヘラミガキが施されている。

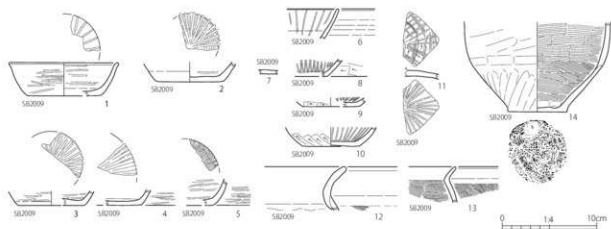
12は土師器長胴壺の口縁部である。体部外面に斜めハケ目調整が施されている。

13・14は小型甕である。13の胴部は内外面ともハケ目調整である。14の胴部は内面がハケ目調整、外面がナゲ調整で、底部に木葉痕を残す。

時期 遺物から富士IV～V(9世紀前葉～中葉)頃に位置づけられる。



第52図 SB2009



第53図 SB2009 出土遺物実測図

第3節 その他の遺構と遺物

溝状遺構

SD2001

位置 1工区中央

重複関係 (古) SD2001 → SH2002SK03・Pit2035 (新)

残存状況 東西方向に延びる溝で、東は調査区外にあり、西は攪乱に切られる。検出部分で長さ5.23m、幅54cm、深さ9cmを測り、断面形は平底である。

SD2002

位置 2工区東

重複関係 (古) SD2002 → Pit2110・Pit2124 (新)

残存状況 北西から南東方向に延びる溝で、南東側はピットに切られる。検出部分で長さ1.58m、幅52cm、深さ9cmを測り、断面形は平底である。

SD2003

位置 2工区南東

重複関係 (古) Pit2108 → SD2003 (新)

残存状況 北東から南西に延びる溝で、両端は調査区外にある。検出部分で長さ3.40m、幅55cm、深さ16cmを測り、断面形は平底である。

SD2004

位置 3工区

重複関係 (古) SD2004 → SK2266 (新)

残存状況 北から南へゆるく湾曲して伸びる溝で、南端はSK2266に切られる。検出部分で長さ16.54m、幅28cm、深さ8cmを測り、断面形は平底である。

SD2005

位置 3工区

重複関係 (古) SD2005 →

SH2003・SD2006・SK2241・SK2243・Pit2253 (新)

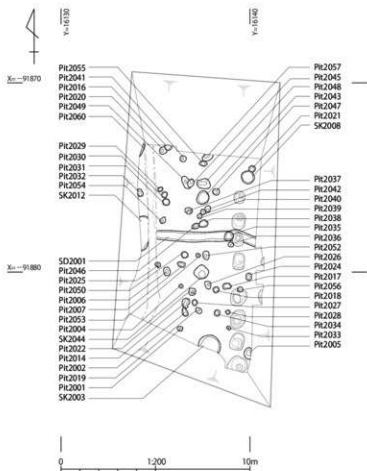
残存状況 北東から南西へ延びる溝で、南端はSD2006に切られる。検出部分で全長7.44m、幅33cm、深さ6cmを測り、断面形は平底である。

SD2006

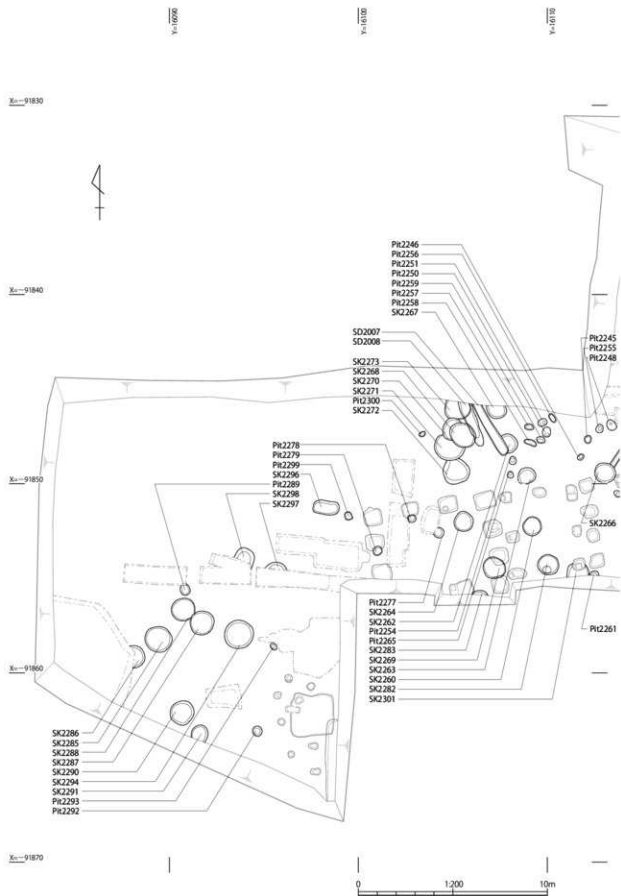
位置 3工区

重複関係 (古) SD2005 → SD2006 (新)

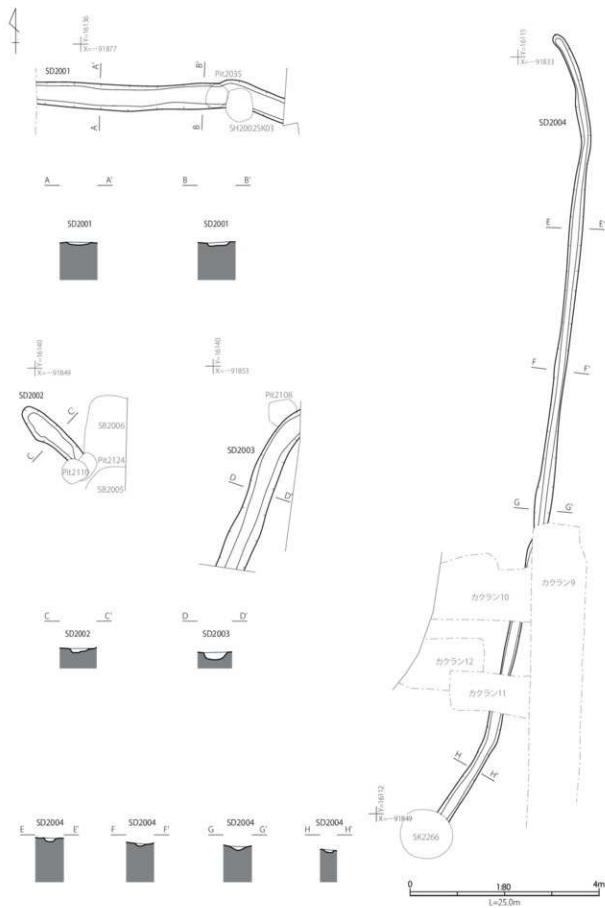
残存状況 西から東へ延びる溝で、東側は調査区外にある。検出部分で長さ4.79m、幅34cm、深さ7cmを測り、断面形は平底である。



第54図 溝状遺構・ピット・土坑 全体図(1)



第55図 溝状遺構・ピット・土坑 全体図(2)



第57図 SD2001～2004

SD2007

位置 3工区

重複関係 (古) SK2262 → SD2007 (新)

残存状況 北から南へ延びる溝で、北側は調査区外にある。検出部分で長さ3.20m、幅55cm、深さ6cmを測り、断面形は平底である。

ビット・土坑

残存状況 調査区内で検出される円形の掘り込みのうち、規模の小さいものをビット (Pi)、規模の大きいものを土坑 (SK) と区分し、連続番号を付与している。

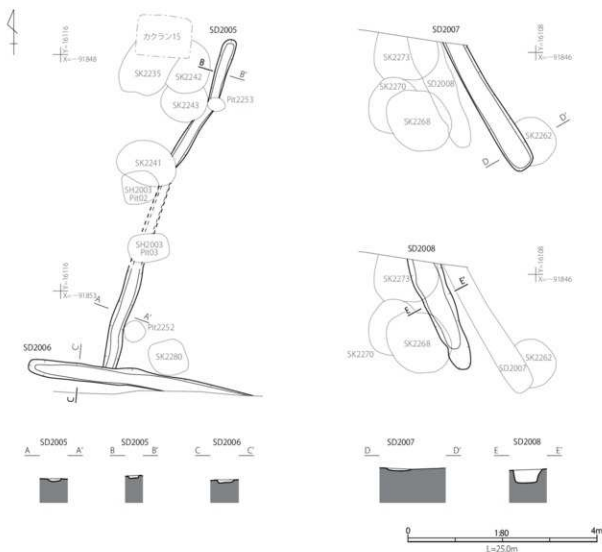
ビット 205 基、土坑 70 基を検出した。規模等の一覧は遺構一覧表に示す。

SD2008

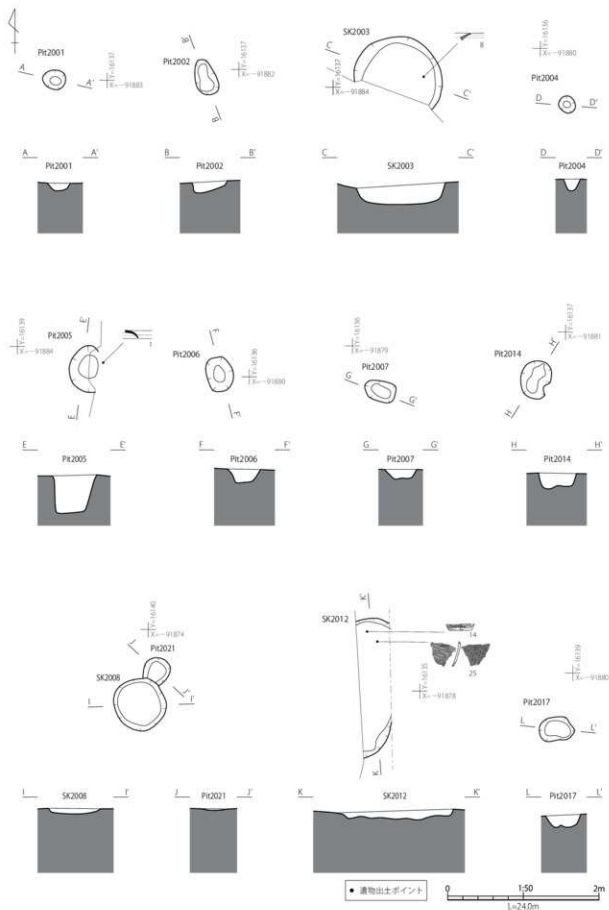
位置 3工区

重複関係 (古) SD2008 → SK2268・SK2273 (新)

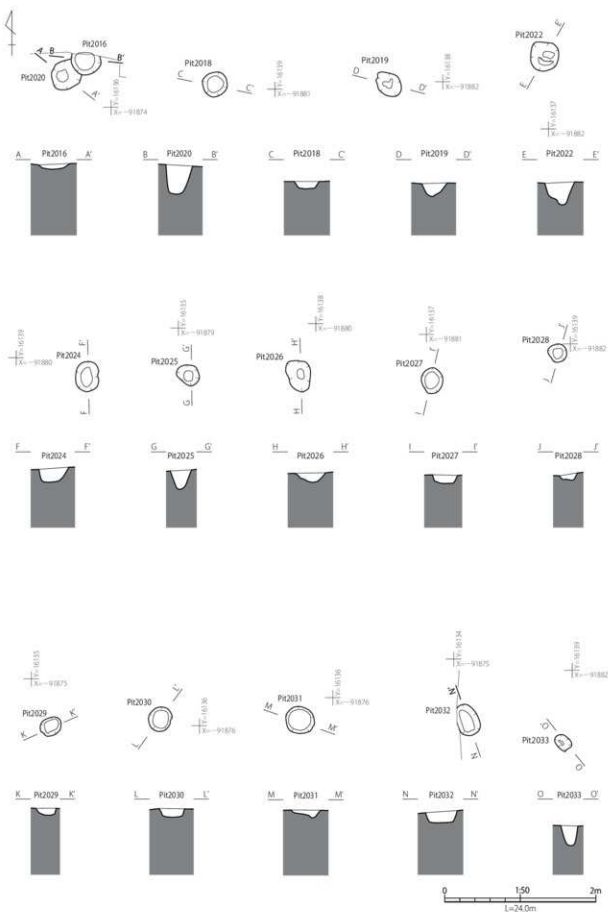
残存状況 北から南へ延びる溝で、北側は調査区外にある。検出部分で長さ2.54m、幅69cm、深さ30cmを測り、断面形は平底である。



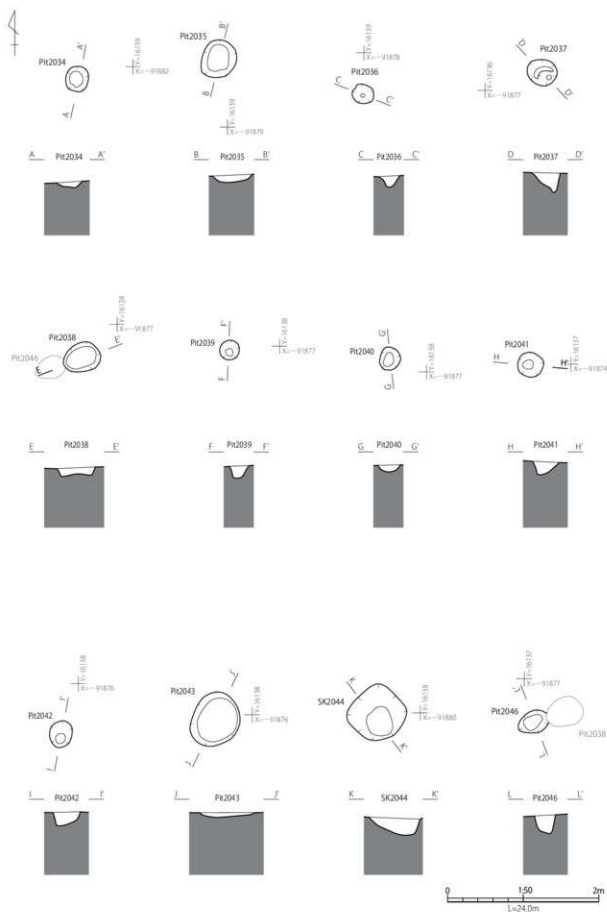
第58図 SD2005～2008



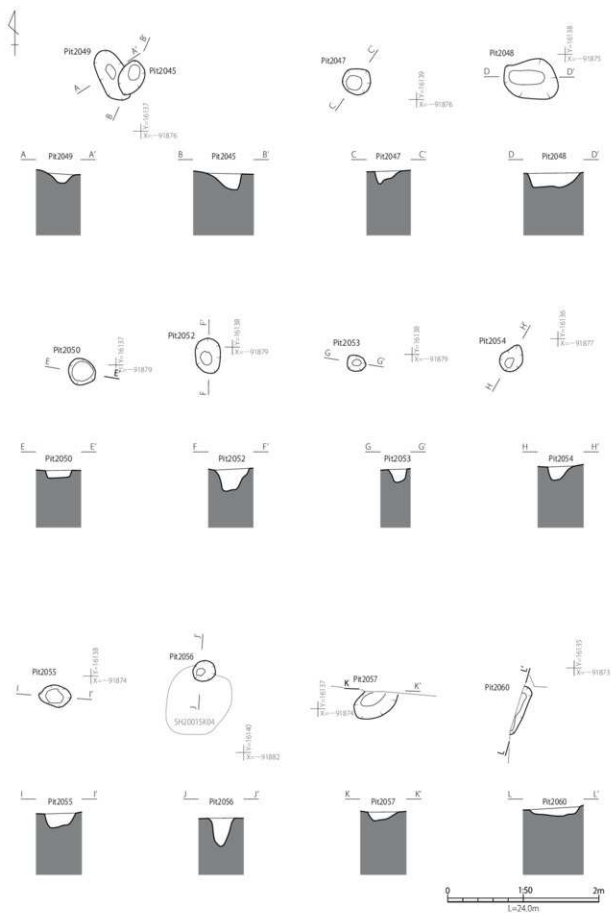
第59図 ビット・土坑 (1)



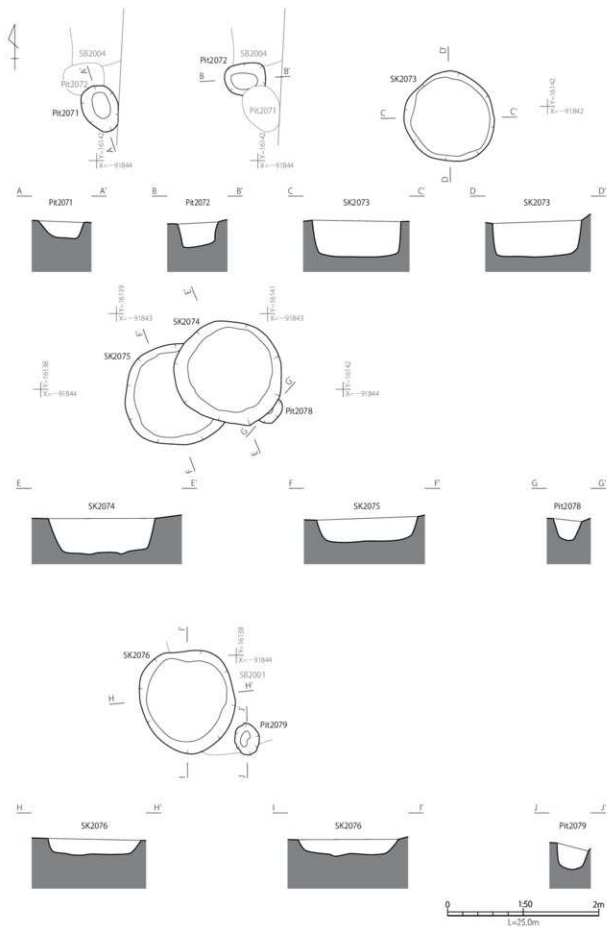
第60図 ビット・土坑 (2)



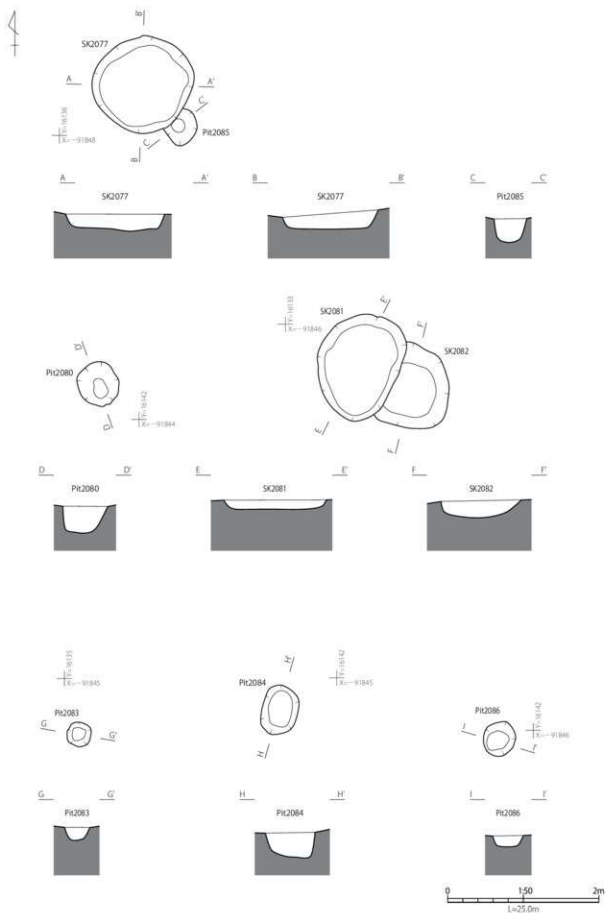
第61図 ビット・土坑 (3)



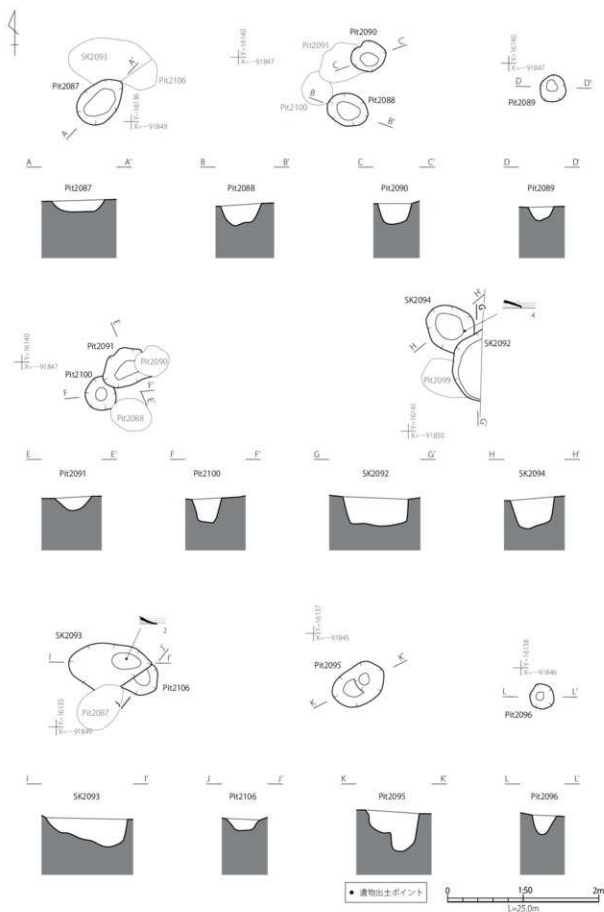
第62図 ビット・土坑 (4)



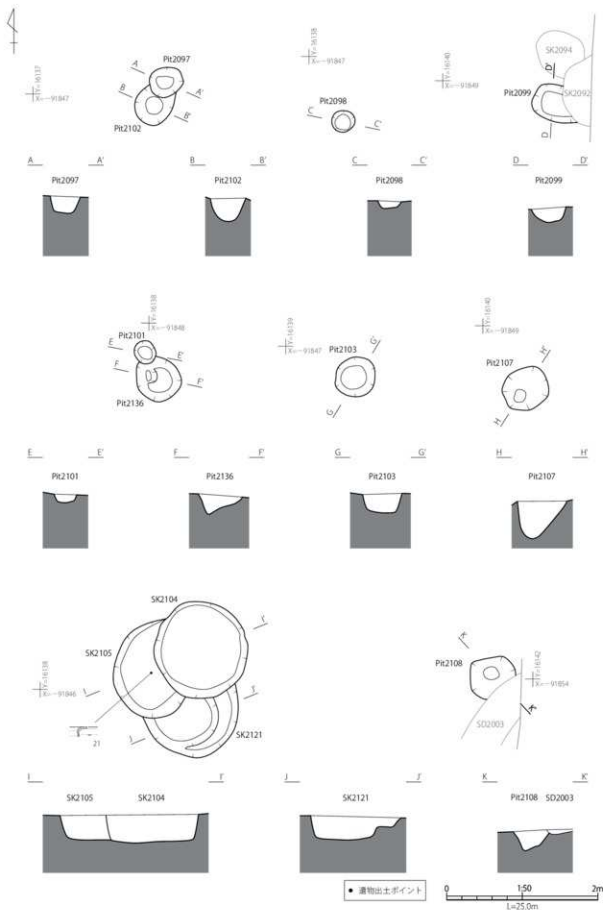
第63図 ピット・土坑 (5)



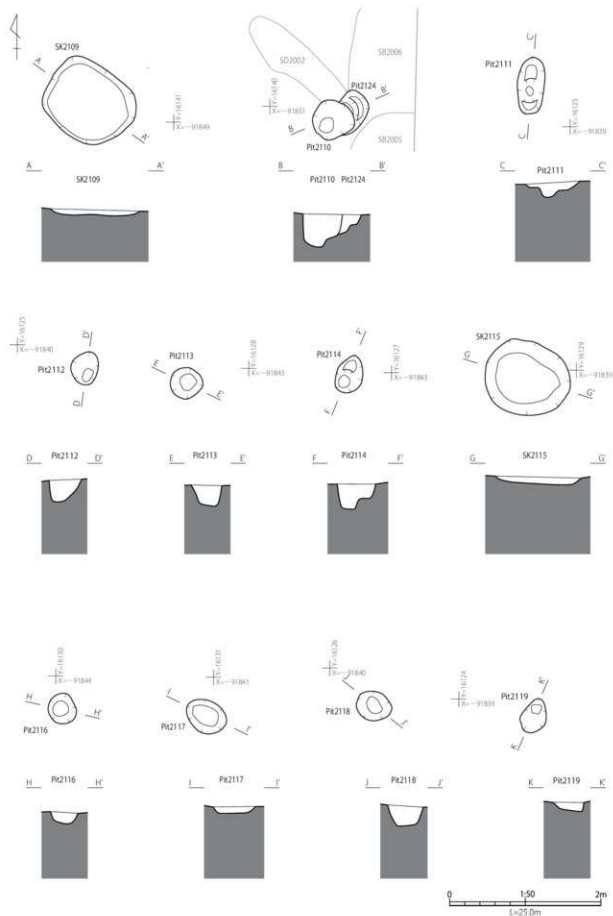
第64図 ビット・土坑 (6)



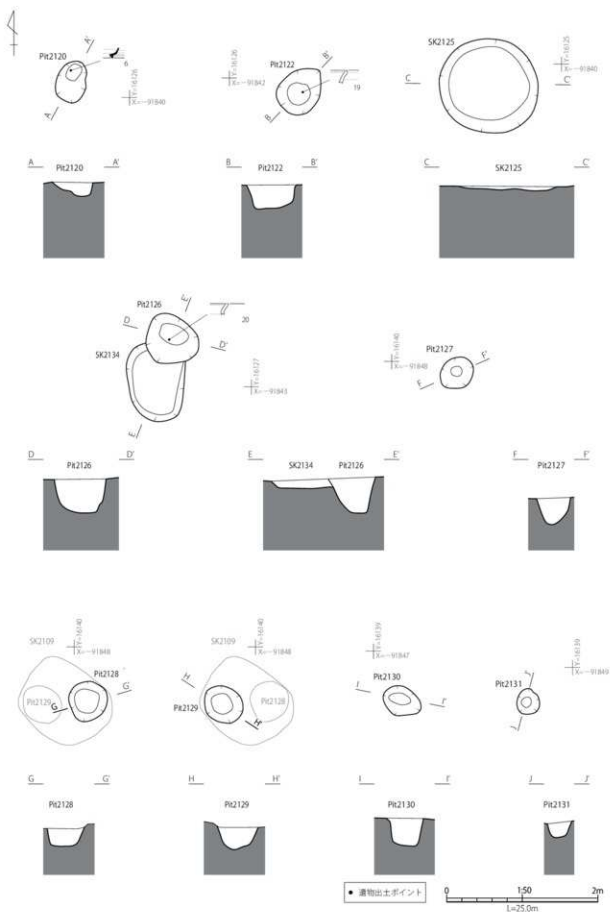
第65図 ビット・土坑 (7)



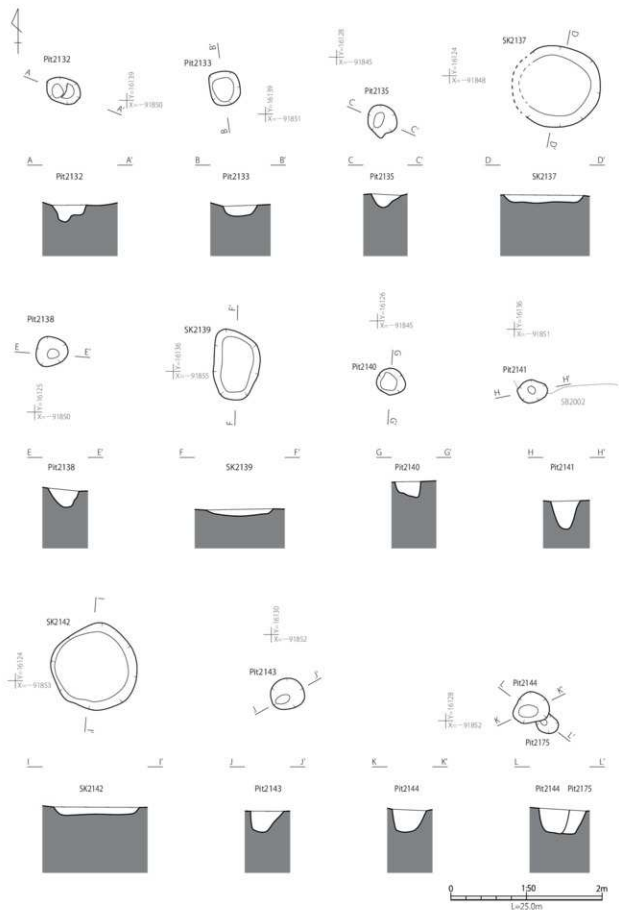
第66図 ビット・土坑 (8)



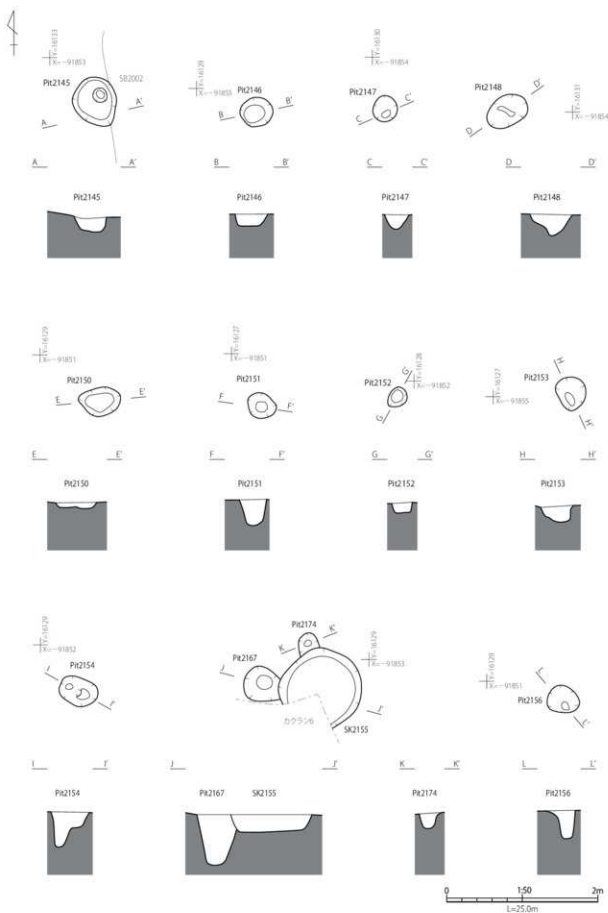
第67図 ビット・土坑 (9)



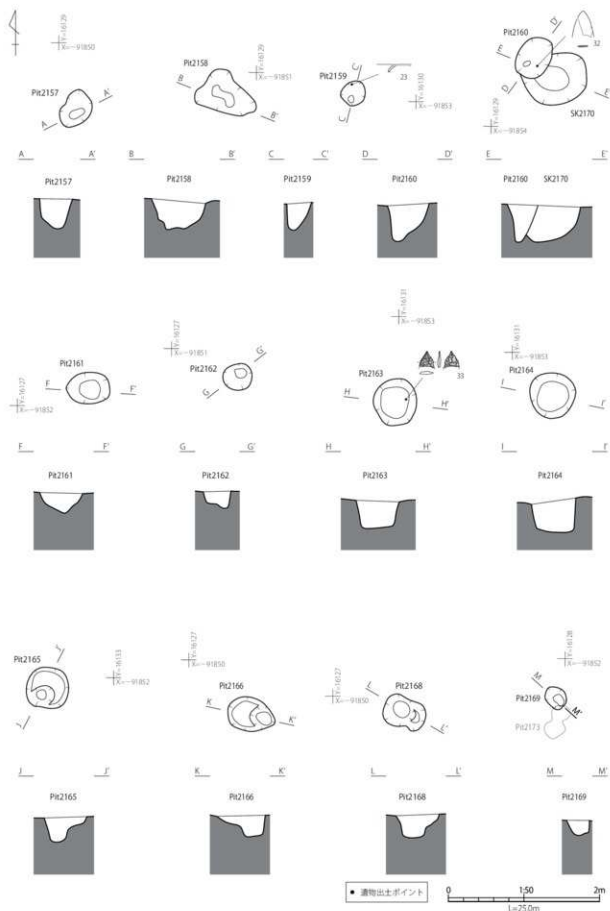
第68図 ビット・土坑 (10)



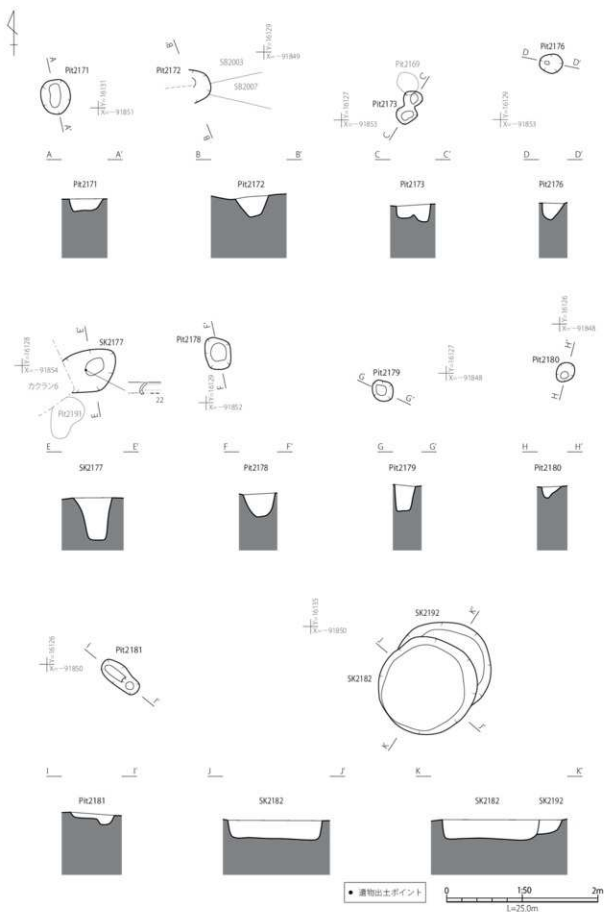
第69図 ビット・土坑 (11)



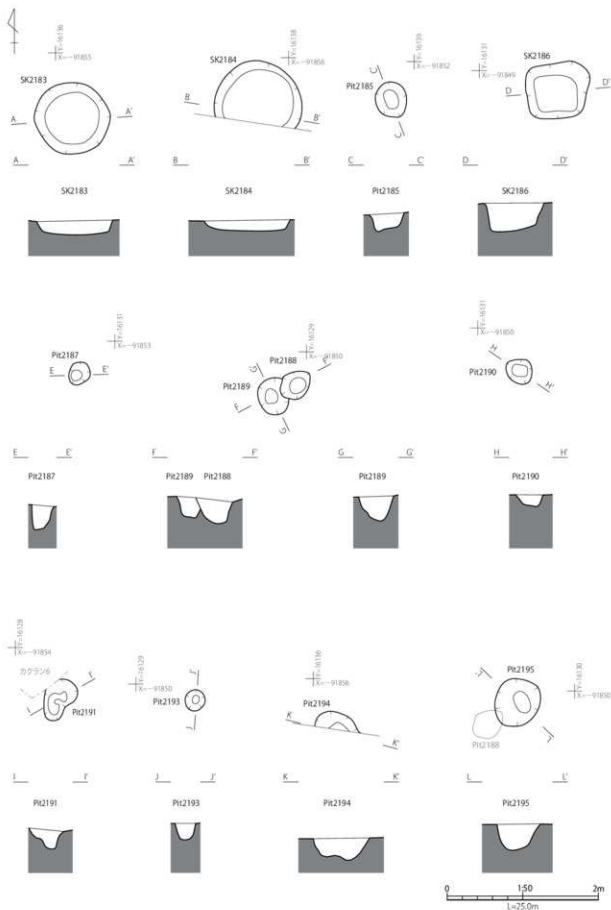
第70図 ビット・土坑 (12)



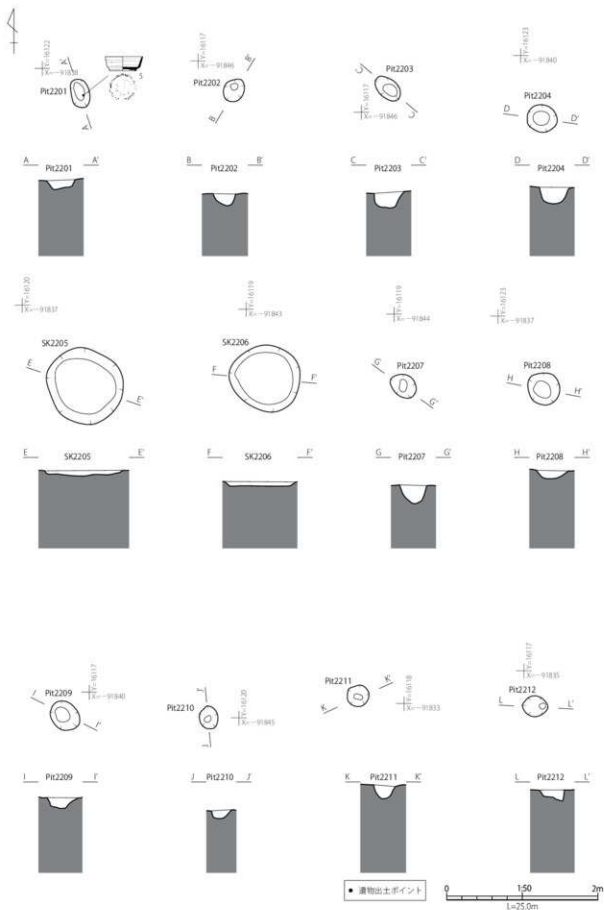
第71図 ピット・土坑 (13)



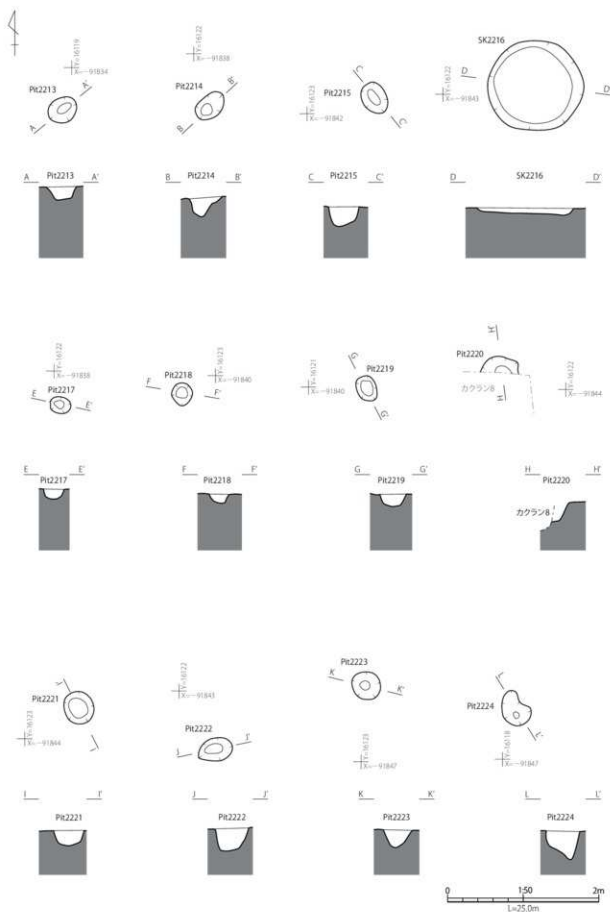
第72図 ビット・土坑 (14)



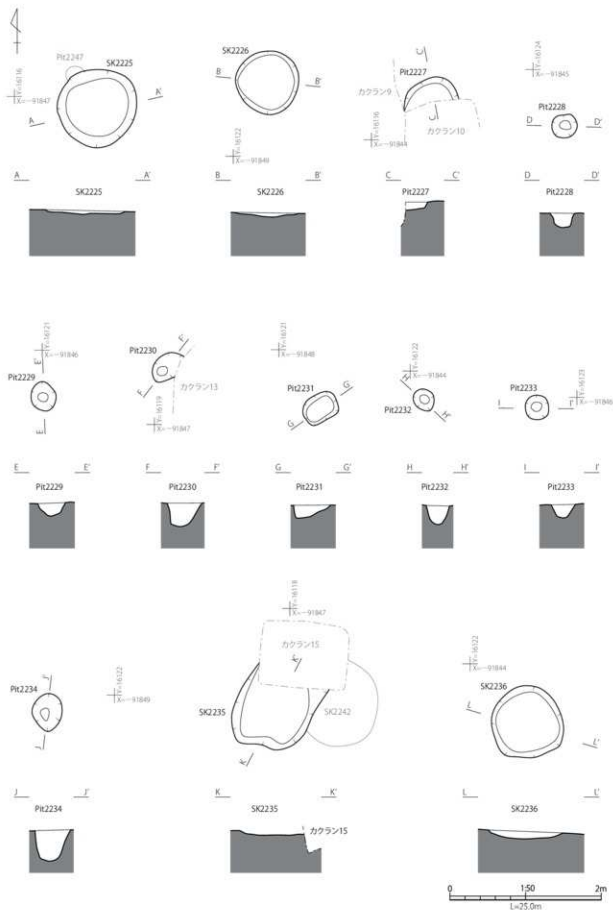
第73図 ビット・土坑 (15)



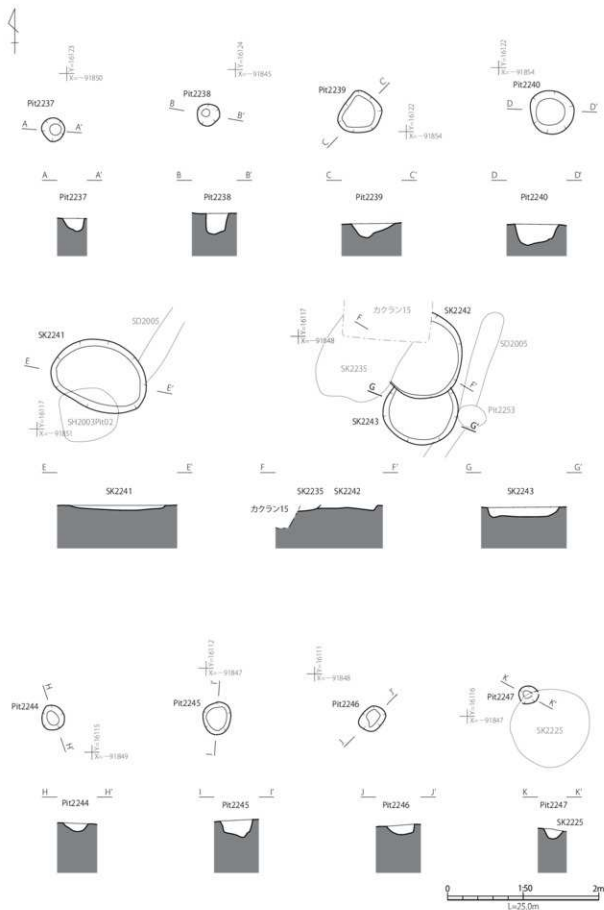
第74図 ビット・土坑 (16)



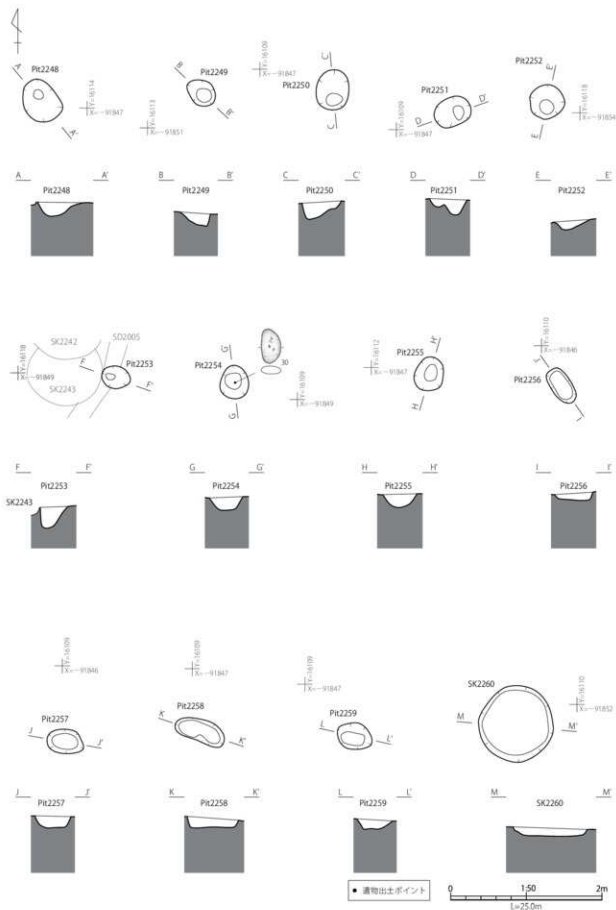
第75図 ビット・土坑 (17)



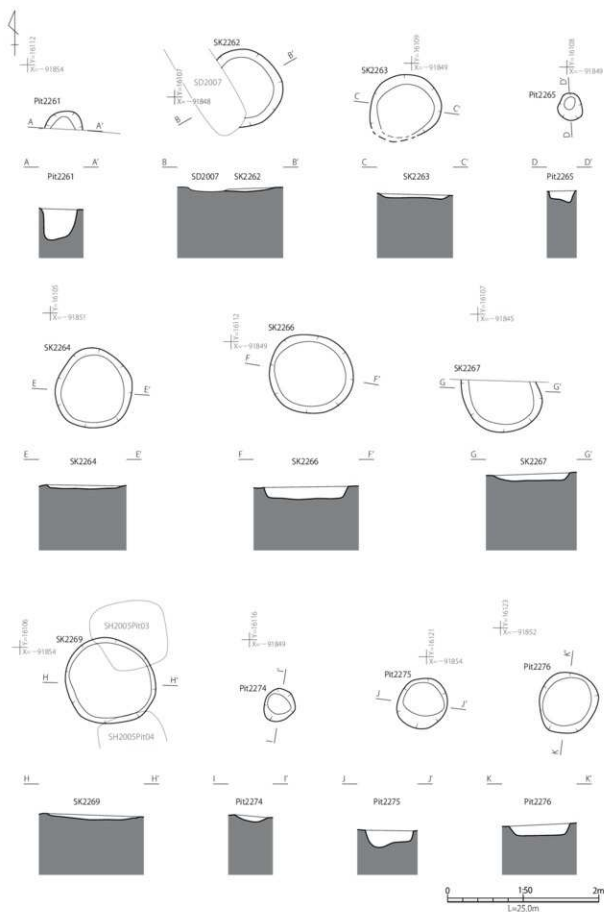
第76図 ビット・土坑 (18)



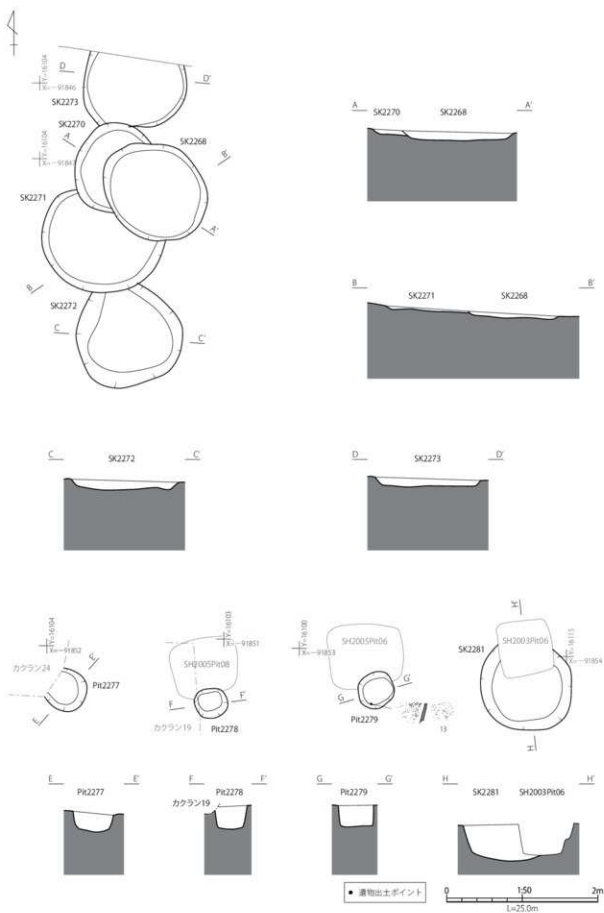
第77図 ビット・土坑 (19)



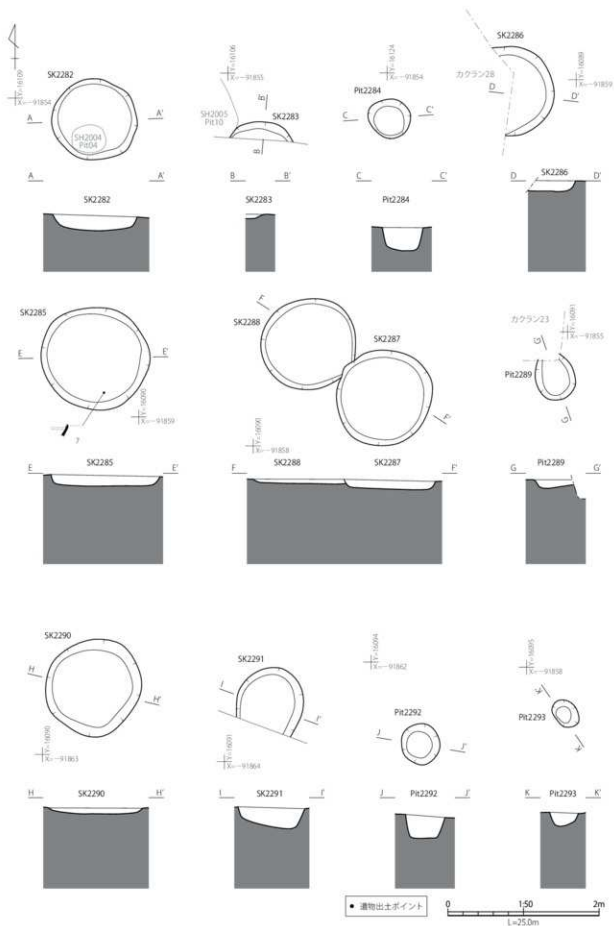
第78図 ビット・土坑 (20)



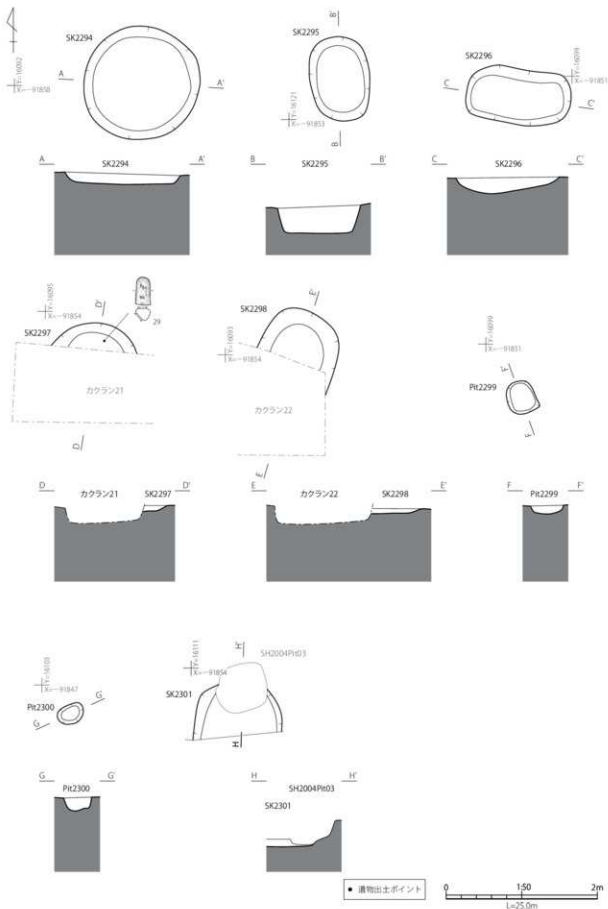
第79図 ビット・土坑 (21)



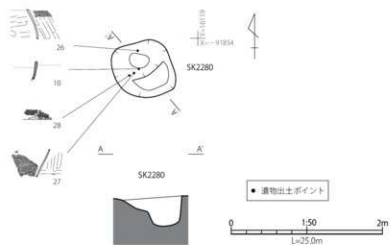
第80図 ビット・土坑 (22)



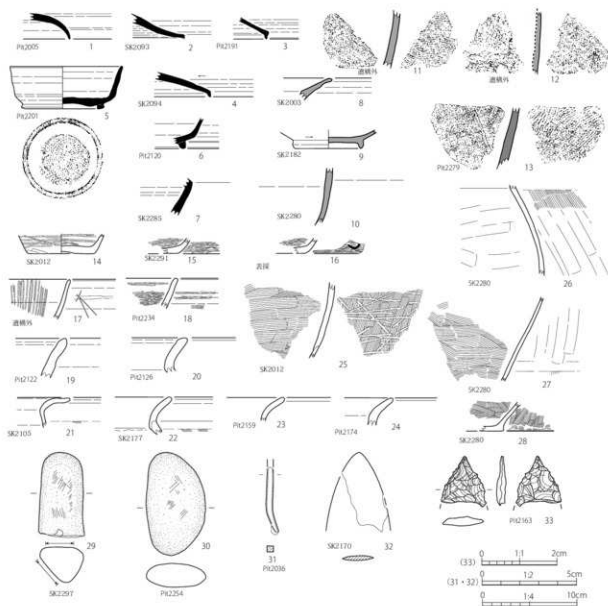
第81図 ビット・土坑 (23)



第82図 ビット・土坑 (24)



第83図 SK2280



第84図 ビット・土坑・遺構外 出土物実測図

ピット・土坑・遺構外出土遺物

1はPit2005出土の須恵器坏蓋である。天井部は丸みをもち、天井部と口縁部の境に沈線が入る。遠江III期末～IV期（7世紀代）に位置づけられる。

2～4は須恵器の蓋で、摘みの有無は不明である。2はSK2093、3はPit2191、4はSK2094から出土した。遠江IV期末～VI期（7世紀後葉～9世紀前葉）に位置づけられる。

5・6は須恵器有台坏身である。Pit2201から出土した5の坏部は箱形で、底部は糸切り痕を残して外周をヘラケズリし、高台を貼りつけている。遠江V期前半（8世紀前半）と言える。6はPit2120からの出土である。

7はSK2285出土の須恵器壺類の肩部である。肩が明瞭に屈曲することから遠江V期（8世紀代）に位置づけられる。

SK2003出土の8は灰軸陶器の段皿か。口縁部から内面のみにより色の施軸がされる。

9はSK2182から出土した灰軸陶器碗の底部である。内面に薄く施軸され、底部には糸切り痕が残る、やや幅の広い三日月高台がつく。O-53号室期（10世紀前半）とみられる。

SK2280出土の10は陶器の壺（甕？）、11～13は古代末～中世の陶器甕とみられる。13はPit2279出土、11・12は遺構に伴わない遺物である。

14～18は土師器坏である。SK2012出土の14は体部内外面に横ヘラミガキ、見込み部には同心円状のミガキが施される。底部は木口痕を残して外周をヘラケズリする。富士IV～V（9世紀前葉から中葉）に位置づけられる。15はSK2291から出土した。体部内外面を横ヘラミガキ、見込み部に放射状ミガキを施し、底部をヘラケズリする。富士III～IV（8世紀後葉～9世紀前葉）に位置づけられる。16は体部内外面を横ヘラミガキし、底部をヘラケズリする。体部外面に墨書の一部が認められるが、判読不能である。17は体部内面に放射状ヘラミガキ、外面に太く粗い横ミガキを施す。外面には刻書の一部が認められるが、判読不能である。16・17は遺構に伴わない遺物である。Pit2234出土の18は内外面に横ヘラミガキが施されるが、外面は省略された粗雑なミガキである。

Pit2122出土の19、Pit2126出土の20は在地の土師器甕（甕Cあるいは甕D）の口縁部である。20に比べて19は口縁部が長く直線的である。

21は遠江系水平口縁甕（甕E）の口縁部で沢東II～富士III（7世紀後半～8世紀代）に、22～24は甕Fの口縁部で富士II～富士VI（8世紀中葉～10世紀初頭）に位置づけられる。21はSK2105、22はSK2177、23はPit2159、24はPit2174から出土した。

SK2012出土の25は球胴甕（甕D）の胴部片である。内面を横ハケ目調整し、外面は縦ハケ目後にヘラミガキを施しており、富士I（8世紀前葉頃）に位置づけられる。

26～28はSK2280から出土した。26・27は長胴甕（甕F）の胴部片である。外面がナデ調整主体となっており、富士VI（9世紀後葉～10世紀初頭）に位置づけられる。28は長胴甕（甕F）の底部片である。内外面はハケ目調整、底部には木葉痕が残る。

SK2297出土の29、Pit2254出土の30は菰編みに用いる石とみられる。

Pit2036から出土した31は、断面方形の棒状鉄製品で先端が細くなっていることから、鉄釘とみられる。SK2170出土の32は薄い鉄片で、器種は不明である。

33はPit2163から出土した黒曜石製石鏃である。下半分を欠損し、先端部のみ出土した。

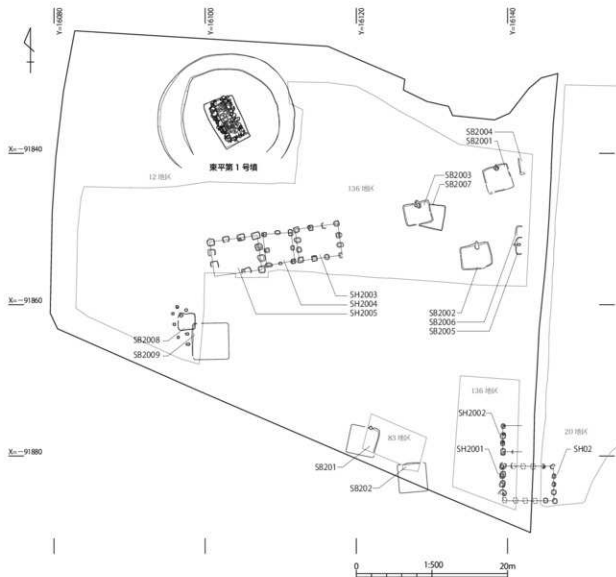
第4章 総括

調査成果

掘立柱建物 東平遺跡第136地区の調査では掘立柱建物5棟（SH2001～SH2005）、堅穴建物9軒（SB2001～SB2009）を検出した。掘立柱建物の使用時期の決定はある程度の年代幅でしか示すことができないが、8世紀代と考えられるSH2001・SH2002が敷地南側で認められる。建物軸がほぼ東西南北軸に合わせていることや、西側の梁間を揃えていることから計画的に建築された2軒の建物と考えられる。特にSH2001については、東側に隣接する第20地区SH02と同一遺構の可能性が高く、仮

にそうであるのであれば、桁行5間梁行4間の建物面積30.64平米を測る、東平遺跡の中でも比較的大きな建物に位置づけられる。掘方形状は方形を志向するものの、やや不整形なものが目立つ。

また、敷地中央部分で桁間をあわせる掘立柱建物3棟（SH2003・SH2004・SH2005）も注目される。それぞれの建物は近接しすぎていることや掘り方の形状が全く異なることなどから、同時に存在したとは考えられず時間差が想定される。出土土器が明確ではないが、8世紀後葉（富士Ⅲ）のSH2005について、9世紀前葉（富士Ⅳ）にSH2003が建てら



第85図 東平遺跡第136地区 主要遺構分布図

第2表 掘立柱建物 一覧表

遺構名	桁行×梁行 規模 (m) 規模 [尺]	面積 (㎡)	柱版サイズ (cm)	時期
SH2001 + 20地区SH02	5間×4間 6.72×4.56 [22.4×15.2]	30.64	32	8世紀代
SH2002	(1間)×(3間) (-)×(3.44) [-]×(11.5)	-	26	8世紀代
SH2003	3間×3間 5.74×4.22 [19×14]	23.70	17～23	9世紀前葉 (富士IV)
SH2004	2間×2間 3.75×4.19 [12.5×14]	14.00	15～25	9世紀中葉以降 (富士V以降)
SH2005	3間×3間 6.34×4.57 [21×15]	29.00	22～32	8世紀後葉 (富士III)

れ、9世紀中葉(富士V)以降にSH2004が建てられたと考えられる。ただし、本調査区内ではその時期(富士III～V)の竪穴建物の存在は明確ではなく、SH2005などの大型掘立柱建物が竪穴建物の作られる富士I(8世紀前葉)まで遡らないのか、判断としない。今回は出土遺物からSH2005を富士III(8世紀後葉)に作られたという前提のもと、本調査区の時代ごとの様相を整理していくこととしたい。

建物面積はSH2005が29.0平米、SH2003が23.7平米、SH2004が14.0平米を測る。掘方形状は大型で明確な方形であるSH2005から時期ごとに小型で円形もしくは不整形なものに変化している様相が認められる。

これまで東平遺跡では、桁行9間梁行3間の扉付建物が28地区SH01(建物面積127.40平米)で認められているほか、3地区の郡家関連建物群で桁行5間梁行3間のSH39やSH49が確認されている。今回検出されたSH2005はそれらに次ぐ大きさを測る。3地区の郡家関連建物群は総柱の倉庫を含む建物群と想定されるが、SH2005を含むSH2003・SH2004の建物群は8世紀後葉から9世紀中葉まで場所をほぼ変えることなく、桁間を合わせて計画的に建築された建物群であり、宿泊機能を有する館などの性格を想定することができよう。それらの建物群の周囲には、竪穴建物などの明確な遺構が存在しないことから、周辺と明確に区別されたエリアであると推定されよう。

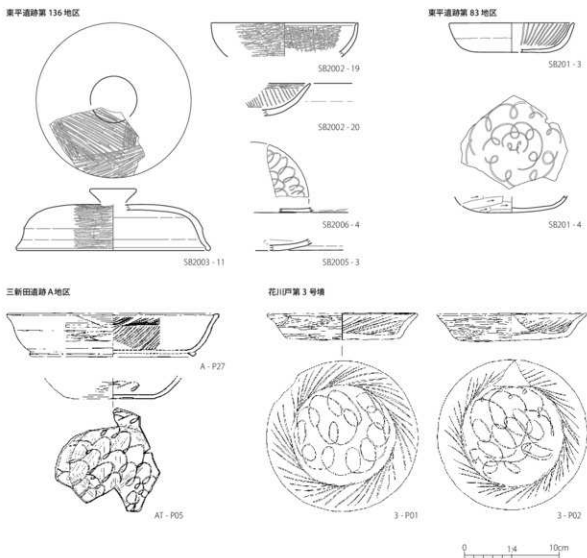
竪穴建物 次に9軒確認された竪穴建物について、整理していくこととする。検出位置は調査区の東側で最も多く、調査区のさらに東側の第20地区で8世紀から10世紀にかけての展開する竪穴建物群と一連の建物群として捉えられよう。

今回の地区では8世紀前葉(富士I)のSB2002・SB2003、さらに遺物が少なく確証が持てないもののSB2007などが最も古い時期の建物といえる。その後、8世紀中葉(富士II)から後葉(富士III)にかけての竪穴建物は確認されず、9世紀にはいと敷地東側のSB2001がつくられ、隣接した20地区を含めた密接した居住実態を見ることができるようになる。また、9世紀中葉から後葉にかけて敷地南西のSB2008やSB2009が造られるようになる。

特徴的な遺物

畿内産土師器 SB2003からは畿内産土師器の蓋が出土している。つまみは欠損しているものの、ヘラミガキが外面のみに認められる点などから蓋と判断した。

まず、年代的位置づけを改めて明記しておきたい。奈良県明日香村石神遺跡第5次調査B期整地土に、未報告ながら蓋天井部分を4分割してヘラミガキする技法や形態的特徴が東平遺跡SB2003出土蓋と共通する資料が出土している^(註1)。同資料群は飛鳥IVに位置づけられており(森川・大澤2018)、仮定曆



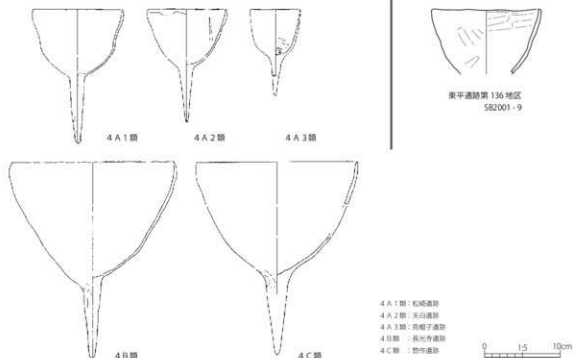
第86図 富士市内出土 畿内産(系)土器

年代として675～690年頃が想定されている(尾野2019)。ただし、飛鳥Ⅱ・飛鳥Ⅲ・飛鳥Ⅳ段階の時間的推移は、古代宮都中核部では認識できるものの、遺跡の性格や階層性により、「前段階の土器様相が残存している」ことも指摘されている(小田2020)ため、駿河国富士郡衙から出土したこの土器についても、必ず7世紀に遡るのとは言い切れない。今後、相伴する須恵器などの再検討を通じて「富士Ⅰ」の年代がどこまで遡るのか、年代幅をどう考えるのか、再検討していく必要がある。

さて、SB2003の蓋以外にも、本調査区からは畿内産(系)土器が複数、認められる。SB2002-19、SB2002-20、SB2005-3、SB2006-4が畿内産(系)

土器として指摘できる上に、隣接する83地区のSB201からも2点の畿内産(系)土器が出土している(富士市教委2017)。

これまで富士市内における畿内産(系)土器は、三新田遺跡A地区2点(富士市教委1983)や花川戸第3号墳2点(富士市教委2003)が確認されている。それぞれ平城Ⅰ・Ⅱの段階に位置づけられている。東平遺跡でこれまでに報告例がないのが、単なる見落としの可能性もあり、実態をどこまで反映しているのか心もとないが、大規模な調査を行った第3地区でも1点も報告されておらず、現状では、本調査区周辺にまともりがあるという点は指摘しておきたい。



第87図 SB2001出土の製塩土器と類型

製塩土器 SB2001 から脚が失われたものの、直径15cm程度に復元される製塩土器が出土した。表面に二次的被熱が明確に観察され、器壁は薄く、砂粒の混入が多い。成形方法も他の土器とは大きく異なる。形態的特徴などから愛知県知多・渥美および島嶼部産の製塩土器と考えられ、知多式編年で言うと4B類もしくは4C類に該当する(森2010)^(注2)。SB2001例は共伴する土師器の年代をそのまま当てはめると9世紀前葉のものと想定される。静岡県内における製塩土器を集成した鈴木敏則氏によれば、県内における製塩土器は西遠江を中心に分布し、県内17例が認められ、敷智郡街(伊場遺跡)や引佐郡街(井通遺跡)など「古代郡街もしくはその関連遺跡において多く」出土していることが指摘されており(鈴木2010)、富士郡街である東平遺跡に愛知県知多半島もしくは、渥美半島周辺から堅塩を入れた土器が運ばれていると考えられる。

東駿河に出土例はこれまで知られていないが、神奈川県三浦市松輪横穴や浜諸磯遺跡での出土が知られている(田尾2008)。なお、駿河国庵原郡街に比定される小里前遺跡でも近年、製塩土器が出土しているが(静岡市教委2015)、器壁が厚く、内面に布

目の痕跡が残る特殊なもので(大林2020)、東平遺跡や県内でこれまで出土しているものとは大きく異なり、その生産地も明らかではない。

森泰通氏によれば、奈良時代の東海地方における堅塩土器は、「上位クラスの階層が都風の食事を行う、もしくはそれが必要とされる場面で用いられていたと考え」ることができるという(森2015)。SB2001からは製塩土器に加えて、腰帯具が出土していることや、館の可能性が考えられる掘立柱建物群が隣接しており、本地区には、富士部の外から来る人たちを迎い入れるような饗宴空間が整備されていた可能性が指摘されよう。

東平遺跡第136地区の様相

前述の掘立柱建物群と竪穴建物の時期的様相をまとめて136地区の様相を改めて提示する。

7世紀中葉には丁字型利器を含む豊富な副葬品を出土した東平第1号墳が第136地区の敷地内に造られたことが分かっている。石室内からは丁字形利器のほか、銀象嵌装大刀を含む大刀3振、鉄鎌や弓金具などの武具、轡や鏝などの馬具(金鋼装のものを含む)が出土した。丁字形利器は、朝鮮半島の柄穴

鉄斧（斧鉞）の系譜をひく、軍事権を象徴する遺物であることが指摘されている（鈴木 2018）。古墳の被葬者の朝鮮半島とのつながりを示すとともに軍事的な活動を行った富士郡衙成立以前の地域首長と位置づけられている。

8世紀に入り東平遺跡周辺が、駿河国富士郡衙として整備されていく中で、居住域も整備される。136地区ではSB2002やSB2003などがそれにあたり、周辺の第20地区や第83地区でも8世紀前葉からの竪穴建物を多数確認することができる。この時期に136地区を含む周辺では畿内産土師器と考えられる資料が比較的まとまって搬入されており、8世紀前葉の富士郡衙内において外来の物資が集まる地点であった可能性が指摘できる。

8世紀後葉以降、9世紀中葉までSH2005、SH2003、SH2004の順に比較的大型の掘立柱建物群が造られており、前述の通り、畿内産（系）土師器がまとまって出土するこのエリアが、宿泊機能を有する館が展開する空間として整備される。この時期の竪穴建物は東側の20地区などで確認されており、明らかな利用空間の区別が行われていたと判断される。加えて、9世紀前葉のSB2001からは腰帯具や製塩土器が出土しており、宿泊者を招いた饗宴空間として機能していたことも想像できる。

東平遺跡の中でも、このエリアに特別な空間が整備された要因として、7世紀中葉に周辺よりも一段高い場所に造られた東平第1号墳の存在が考えられる。本地区が居住エリアとなる8世紀前葉から中葉には東平第1号墳の前面や周囲には遺構が確認されず、明らかに古墳の景観維持の意識が働いている。

一方で、8世紀後葉以降に造られるSH2005を含めた掘立柱建物群は東平第1号墳の開口正面にわざわざ建設されていると判断される。これは、東平第1号墳の被葬者の後継者である地域首長が富士郡の郡領氏族層となり、8世紀後葉に郡司層の祖先墓を臨む場所を利用した饗宴空間としての土地利用に変化したと推測される。

東平第1号墳築造以降、古墳を含むこの地区一帯が富士郡家にとって特別な意識・規制が働いていた空間であったことは想像に難くない。

注

- 1 奈良文化財研究所 森川 実氏・小田裕樹氏に御教示頂き、実見させていただいた。
- 2 製塩土器の位置づけについては、豊田市 森泰通氏に御教示頂いた。

参考文献

- 大林 元 2020「静岡市清水区小里前遺跡出土製塩土器の再検討」『静岡県考古学研究』51
- 小田裕樹 2020「飛鳥の土器と「日本書紀」」『國學院雑誌』第121巻11号
- 尾野善裕 2019「飛鳥時代宮都土器編年の再編に向けて」『飛鳥時代の土器編年再考』奈良文化財研究所
- 静岡市教委 2015『小里前遺跡・庵原館跡』
- 鈴木一有 2018「丁字形利器とその系譜」『伝法』東平第1号墳
富士市教育委員会
- 鈴木敏則 2010「静岡県内出土の製塩土器」『東海土器製塩研究』考古学フォーラム
- 田尾誠敏 2008「東国湾岸地域における製塩関係遺構・遺物」『塩の考古学』山梨県考古学協会
- 立松 彰 2010「伊勢湾と三河湾の製塩土器」『東海土器製塩研究』考古学フォーラム
- 早野浩二 2017「知多・渥美・三河湾の土器製塩とその特質」『海
の古墳を考えるIV』79～93頁 学術研究会「海
の古墳を
考える会IV」実行委員会・海
の古墳を
考える会
- 富士市教育委員会 1983『三新田遺跡発掘調査報告書』
- 富士市教育委員会 2003『花川戸第2・3号墳発掘調査報告書』
- 富士市教育委員会 2017『富士市内遺跡発掘調査報告書—平成28年度—』
- 藤村 翔 2020「駿河国富士郡域における古代集落の構造と変遷」『古代集落の構造と変遷』（古代集落を考える1）第24回古代宮衙・集落研究集会
- 森 泰通 1997「東海地方における消費地出土の製塩土器」『シンポジウム製塩土器の諸問題—古代における塩の生産と流通—』塩の会シンポジウム実行委員会
- 森 泰通 2010「東海地方における古代土器製塩叢書 2009」『東海土器製塩研究』考古学フォーラム
- 森 泰通 2015「古代東海における堅塩づくりの製塩土器」『塩の考古学II』山梨県考古学協会
- 森川 実・大澤正吾 2018「石神遺跡B期整地土・SD640出土の土器群—石神遺跡第3～5次・第10～12次」『奈良文化財研究所紀要 2018』

付 表

遺構一覽表

出土遺物觀察表

・遺構一覧表

掘立柱建物

遺構名	掲載頁	図版	出土遺物	遺構の時期	建物平面図	柱穴平面図	南北幅 (m)	東西幅 (m)	主軸方位	切り合い (古) → (新)
SH2001	15 頁	PL.2 ~ 5	第 14 図	8C	(南北 3 間, 東西 1 間)	楕円形あるいは隅丸方形	3.55	—	N-0.8 -E	SH2001 → PIG2056
SH2002	16 頁	PL.2 ~ 5	第 15 図	8C	(南北 3 間, 東西 1 間)	楕円形あるいは隅丸方形	3.44	—	(N-1 -E)	SD2001 → SH2002
SH2003	18 頁	PL.1・6 ~ 12	第 19 図	9C 前葉	3 間 × 3 間の掘立柱建物	隅丸方形	4.18	5.74	N-7.9 -W	SK2281 → SH2003 → SK2241
SH2004	21 頁	PL.1・6 ~ 10 ・13・14	第 21 図	9C 中葉以降	2 間 × 2 間の掘立柱建物	楕円形あるいは隅丸方形	4.19	3.75	N-7.45 -W	SK2282・2301 → SH2004
SH2005	24 頁	PL.1・6 ~ 10 ・14 ~ 17	第 26 図	8C 後葉	3 間 × 3 間の掘立柱建物	方形	4.57	6.34	N-8.0 -W	SH2005 → SK2269・PIG2278・PIG2279・SK2283

掘立柱建物 柱穴

遺構番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	高さ (cm)	平面形	断面形	掲載遺物	切り合い (古→新)	備考
SH2001SK01	107 (東西)	(87) (南北)	45	楕円形	平底	第 14 図 1.2	なし	
SH2001SK02	92 (南北)	79 (東西)	35	隅丸方形	平底		なし	
SH2001SK03	96 (南北)	79 (東西)	46	楕円形	平底		なし	
SH2001SK04	91 (南北)	87 (東西)	46	隅丸方形	平底		なし	SH2001SK04 → PIG2056
SH2001SK05	(78) (南北)	(25) (東西)	45	(楕円形)	(平底)		なし	
SH2002SK01	(45) (南北)	(16) (東西)	(34)	(楕円形)	(平底)		なし	
SH2002SK02	88 (南北)	62 (東西)	50	隅丸方形	平底		なし	
SH2002SK03	71 (南北)	58 (東西)	47	楕円形	平底	第 15 図 2	なし	SD2001 → SH2002SK03
SH2002SK04	86 (南北)	71 (東西)	72	楕円形	平底		なし	
SH2002SK05	65 (南北)	57 (東西)	55	楕円形	平底	第 15 図 1	なし	
SH2003P01	70 (東西)	68 (南北)	49	方形	平底	第 19 図 5	なし	
SH2003P02	76 (東西)	70 (南北)	64	方形	平底		なし	SH2003P02 → SK2241
SH2003P03	82 (東西)	57 (南北)	40	方形	平底		なし	
SH2003P04	65 (南北)	58 (東西)	50	方形	平底		なし	SH2003P04 → 掘込 18
SH2003P05	65 (南北)	63 (東西)	44	方形	平底	第 19 図 3.6	なし	
SH2003P06	73 (南北)	70 (東西)	40	方形	平底	第 19 図 2	なし	SK2281 → SH2003P06
SH2003P07	70 (南北)	67 (東西)	30	方形	平底	第 19 図 4	なし	
SH2003P08	71 (南北)	65 (東西)	28	方形	平底		なし	西へ拡張
SH2003P09	65 (東西)	64 (南北)	30	方形	平底	第 19 図 7	なし	
SH2003P10	70 (東西)	69 (南北)	42	方形	平底		なし	
SH2003P11	73 (南北)	68 (東西)	39	方形	平底	第 19 図 1	なし	
SH2003P12	75 (南北)	60 (東西)	38	方形	平底		なし	SH2003P12 → 掘込 17
SH2004P01	88 (南北)	50 (東西)	45	長方形	平底		なし	南へ拡張
SH2004P02	58 (南北)	45 (東西)	30	方形	平底		なし	
SH2004P03	58 (南北)	57 (東西)	30	方形	平底		なし	SK2301 → SH2004P03
SH2004P04	42 (東西)	35 (南北)	10	方形	平底		なし	SK2282 → SH2004P04
SH2004P05	96 (東西)	52 (南北)	35	長方形	平底		なし	
SH2004P06	68 (東西)	58 (南北)	41	長方形	平底	第 21 図 1	なし	西へ拡張
SH2004P07	63 (東西)	57 (南北)	26	長方形	平底		なし	西へ拡張
SH2004P08	68 (東西)	55 (南北)	29	長方形	平底	第 21 図 2	なし	
SH2005P01	108 (東西)	86 (南北)	66	長方形	平底	第 26 図 4	なし	
SH2005P02	96 (東西)	87 (南北)	64	方形	平底	第 26 図 4	なし	
SH2005P03	88 (東西)	86 (南北)	58	方形	平底	第 26 図 3	なし	SH2005P03 → SK-2269
SH2005P04	90 (東西)	88 (南北)	63	方形	平底		なし	SH2005P04 → SK-2269
SH2005P05	100 (東西)	(80) (南北)	70	長方形	平底	第 26 図 1.2.6	なし	
SH2005P06	93 (東西)	80 (南北)	63	方形	平底	第 26 図 1.9.10	なし	SH2005P06 → PIG2279
SH2005P07	93 (東西)	84 (南北)	56	長方形	平底		なし	
SH2005P08	87 (東西)	70 (南北)	56	長方形	平底	第 26 図 11	なし	SH2005P08 → PIG2278
SH2005P09	98 (東西)	86 (南北)	56	長方形	平底	第 26 図 7	なし	
SH2005P10	120 (東西)	(75) (南北)	60	長方形	平底	第 26 図 5.8	なし	SH2005P10 → SK-2283

竪穴建物

遺構名	掲載頁	図版	出土遺物	遺構の時期	平面図	主軸幅 (m)	直交幅 (m)	主軸方位	カマド位置	切り合い (古) → (新)
SB2001	28 頁	PL.18 ~ 21	第 30 図	9C 前葉	方形	3.31	3.38	N-16.8 -W	北壁	SB2001 → SK2073 ~ 2076・PIG2079
SB2002	31 頁	PL.18 ~ 21	第 34・35 図	8C 前葉	方形	3.26	4.01	N-11.1 -W	北壁	SB2002 → SK2139・PIG2141・PIG2145
SB2003	36 頁	PL.18・19・22	第 39・40 図	8C 前葉	方形	2.87	3.52	N-12.1 -W	北壁	SB2003 → SB2003 → PIG2172
SB2004	41 頁	PL.18・19・24	—	8C 前葉	(方形)	(1.98)	(1.0)	(N-6 -W)		SB2004 → PIG2072
SB2005	42 頁	PL.18・19・23	第 43 図	8C 前葉	隅丸方形	(0.78)	2.26	N-9.0 -W	西壁	SB2006 → SB2005
SB2006	42 頁	PL.18・19・23	第 45 図	8C 前葉	隅丸方形	(1.46)	(0.89)	(N-4.5 -E)		SB2006 → SB2005
SB2007	44 頁	PL.18・19・22	第 46 図	8C 前葉	方形	3.22	(1.76)	N-9.7 -E		SB2007 → SB2003
SB2008	46 頁	PL.24	第 51 図	9C 後葉～10C 初葉	隅丸方形	2.05	2.38	N-1 -W	北西角	SH2009 → SB2008
SB2009	49 頁	PL.25	第 53 図	9C 前葉～中葉	(方形)	(4.3)	(0.6)	(N-1 -W)		SB2009 → SB2008

溝状遺構

遺構名	掲載頁	図版	全長 (m)	幅 (cm)	深さ (cm)	切り合い (古) → (新)	掲載遺物
SD2001	51 頁	—	(5.23)	54	9	SD2001 → SH2002SK03・Pi2035	—
SD2002	51 頁	—	(1.58)	52	9	SD2002 → Pi2110・Pi2124	—
SD2003	51 頁	—	(3.40)	55	16	Pi2108 → SD2003	—
SD2004	51 頁	—	(16.54)	28	8	SD2004 → SK2266	—
SD2005	51 頁	—	7.44	33	6	SD2005 → SH2003・SD2006・SK2241・SK2243・Pi2253	—
SD2006	51 頁	—	(4.79)	34	7	SD2005 → SD2006	—
SD2007	55 頁	—	(3.20)	55	6	SK2262 → SD2007	—
SD2008	55 頁	—	(2.54)	69	30	SD2008 → SK2268・SK2273	—

ビット・土坑

【土坑注】

- A 黒色土層 (7.5YR2/1) しまりなし、粘性ややあり、ローム粒子を中層含む。(中・近世)
 B 黒褐色土層 (7.5YR2/2) しまりなし、粘性なし、ローム粒子を少量含む。(古代)
 C 黒褐色土層 (7.5YR2/2) しまりなし、粘性なし、径 5cm 以上のロームブロック中層含む。(古代)

類別	遺構番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	掲載遺物	土層	切り合い (古→新)	備考
Pt	2001	29	25	11	楕円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2002	47	29	14	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2003	116	75	26	(円形)	浅い丸底	第 84 図 8	A	なし	
Pt	2004	22	22	16	円形	丸底		B	なし	
Pt	2005	61	(47)	50	楕円形	丸底	第 84 図 1	A	なし	
Pt	2006	43	32	20	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2007	40	24	16	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2008	68	68	7	円形	浅い丸底		B	Pi2021 → SK2008	
欠番	2009									SH2002SK02 に変更
欠番	2010									SH2001SK04 に変更
欠番	2011									SH2001SK02 に変更
SK	2012	181	48	11	不整形	浅い丸底	第 84 図 14.25	B	なし	
欠番	2013									SH2002SK05 に変更
Pt	2014	48	31	16/21	不整形	丸底		B	なし	
欠番	2015									SH2002SK04 に変更
Pt	2016	40	30	9	(円形)	浅い丸底		B	Pi2020 → Pi2016	
Pt	2017	44	27	17	楕円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2018	31	31	11	円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2019	34	28	18	不整形	丸底		B	なし	
Pt	2020	33	33	38	円形	丸底		B	Pi2020 → Pi2016	
Pt	2021	35	(30)	5	楕円形	浅い丸底		B	Pi2021 → SK2008	
Pt	2022	37	35	30	円形	丸底		B	なし	
欠番	2023									SH2001SK03 に変更
Pt	2024	38	28	20	楕円形	平底		B	なし	
Pt	2025	26	25	27	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2026	40	27	14	不整形	浅い平底		B	なし	
Pt	2027	31	27	13	円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2028	23	20	9	楕円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2029	25	22	8	円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2030	30	27	11	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2031	37	34	8	楕円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2032	39	27	16	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2033	20	16	27	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2034	34	29	9	円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2035	50	45	9	楕円形	浅い丸底		B	SD2001 → Pi2035	
Pt	2036	27	24	15	楕円形	丸底	第 84 図 31	?	なし	
Pt	2037	36	33	17/26	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2038	48	35	11	楕円形	浅い丸底		B	Pi2046 → Pi2038	
Pt	2039	23	23	16	円形	丸底		B	なし	
Pt	2040	27	26	14	円形	丸底		B	なし	
Pt	2041	31	30	18	円形	丸底		B	なし	
Pt	2042	32	28	18	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2043	71	58	5	楕円形	浅い丸底		B	なし	
SK	2044	67	64	22	不整形	平底		A	なし	
Pt	2045	46	30	22	楕円形	丸底		B	Pi2049 → Pi2045	
Pt	2046	44	26	25	楕円形	丸底		B	Pi2046 → Pi2038	
Pt	2047	36	36	16	円形	丸底		B	なし	
Pt	2048	66	45	18	隅丸方形	浅い平底		B	なし	
Pt	2049	70	37	17	楕円形	浅い丸底		B	Pi2049 → Pi2045	
Pt	2050	34	31	10	円形	浅い丸底		B	なし	
欠番	2051									SH2001SK01 に変更
Pt	2052	42	32	30	楕円形	平底		B	なし	
Pt	2053	22	20	18	円形	丸底		B	なし	
Pt	2054	33	25	19	楕円形	丸底		B	なし	

種別	遺構番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	掲載遺物	土層	切り合い(古→新)	備考
Pt	2055	39	26	20	楕円形	平底		B	なし	
Pt	2056	27	26	37	円形	丸底		B	SH2001SK04→Pt2056	
Pt	2057	62	38	14	楕円形	浅い平底		B	なし	
欠番	2058									SH2002SK03に変更
欠番	2059									SH2002SK01に変更
Pt	2060	68	16	11	楕円形	浅い丸底		B	なし	
欠番	2061									SH2001SK05に変更
欠番	2062									
欠番	2063									
欠番	2064									
欠番	2065									
欠番	2066									
欠番	2067									
欠番	2068									
欠番	2069									
欠番	2070									
Pt	2071	60	45	23	楕円形	丸底		B	Pt2072→Pt2071	
Pt	2072	52	40	34	楕円形	丸底		B	SB2004→Pt2072→Pt2071	
SK	2073	115	115	48	円形	平底		A	SB2001→SK2073	
SK	2074	136	136	50	円形	平底		A	SB2001→SK2075・Pt2078→SK2074	
SK	2075	128	115	30	楕円形	浅い平底		A	SB2001→SK2075→SK2074	
SK	2076	132	120	20	楕円形	浅い平底		A	SB2001→SK2076	
SK	2077	138	124	24	楕円形	浅い平底		A	Pt2085→SK2077	
Pt	2078	37	20	30	楕円形	丸底		B	Pt2078→SK2074	
Pt	2079	38	28	32	楕円形	丸底		B	SB2001→Pt2079	
Pt	2080	55	48	35	楕円形	平底		B	なし	
SK	2081	132	115	14	楕円形	浅い平底		A	SK2082→SK2081	
SK	2082	105	92	23	楕円形	浅い平底		A	SK2082→SK2081	
Pt	2083	31	30	19	円形	丸底		B	なし	
Pt	2084	63	46	30	楕円形	平底		B	なし	
Pt	2085	40	40	35	円形	丸底		B	Pt2085→SK2077	
Pt	2086	40	40	17	円形	浅い平底		B	なし	
Pt	2087	70	44	15	楕円形	浅い丸底		B	SK2093→Pt2087	
Pt	2088	53	42	26	楕円形	丸底		B	Pt2100→Pt2188	
Pt	2089	33	32	20	円形	丸底		A	なし	
Pt	2090	45	35	30	楕円形	丸底		B	Pt2091→Pt2090	
Pt	2091	58	44	19	楕円形	丸底		B	Pt2100→Pt2091→Pt2090	
SK	2092	87	35	40	楕円形	平底		B	SK2094・Pt2099→SK2092	
SK	2093	102	45	40	楕円形	丸底	第84図2	B	Pt2106→SK2093→Pt2087	
SK	2094	56	56	40	円形	丸底	第84図4	B	SK2094→SK2092	
Pt	2095	70	45	51	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2096	30	30	26	円形	丸底		B	なし	
Pt	2097	38	38	23	円形	丸底		B	Pt2102→Pt2097	
Pt	2098	28	26	12	楕円形	平底		B	なし	
Pt	2099	49	42	20	楕円形	浅い丸底		B	Pt2099→SK2092	
Pt	2100	36	30	32	楕円形	丸底		B	Pt2100→Pt2088・Pt2091	
Pt	2101	28	28	11	円形	浅い丸底		B	Pt2136→Pt2101	
Pt	2102	46	46	32	円形	丸底		B	Pt2102→Pt2097	
Pt	2103	51	51	25	円形	平底		B	なし	
SK	2104	124	118	38	円形	浅い平底		A	SK2121→SK2105→SK2104	
SK	2105	115	63	35	楕円形	浅い平底	第84図21	A	SK2121→SK2105→SK2104	
Pt	2106	43	28	16	楕円形	丸底		B	Pt2106→SK2093	
Pt	2107	64	56	48	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2108	62	(41)	28	楕円形	丸底		B	Pt2108→SD2003	
SK	2109	115	95	6	楕円形	浅い丸底		A	Pt2129・Pt2128→SK2109	
Pt	2110	52	48	43	楕円形	丸底		B	SD2002・Pt2124→Pt2110	
Pt	2111	70	32	20	楕円形	丸底		A	なし	
Pt	2112	42	32	28	楕円形	丸底		A	なし	
Pt	2113	38	38	28	円形	丸底		B	なし	
Pt	2114	56	38	34	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2115	110	94	11	楕円形	浅い丸底		A	なし	
Pt	2116	35	35	15	円形	丸底		B	なし	
Pt	2117	54	36	10	楕円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2118	42	36	27	楕円形	平底		B	なし	
Pt	2119	44	28	13	楕円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2120	50	30	18	楕円形	丸底	第84図6	B	なし	
SK	2121	120	60	35	楕円形	浅い平底		A	SK2121→SK2105→SK2104	
Pt	2122	66	50	30	楕円形	平底	第84図19	B	なし	
欠番	2123									
Pt	2124	45	30	28	楕円形	丸底		B	SD2002→Pt2124→Pt2110	
SK	2125	130	120	9	楕円形	浅い丸底		A	なし	
Pt	2126	66	60	46	楕円形	丸底	第84図20	B	SK2134→Pt2126	
Pt	2127	44	39	35	楕円形	丸底		B	なし	

種別	遺構番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	掲載遺物	土層	切り合い(古→新)	備考
Pt	2128	50	50	27	円形	丸底		B	Pt2128 → SK2109	
Pt	2129	50	46	32	楕円形	丸底		B	Pt2129 → SK2109	
Pt	2130	48	38	37	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2131	30	30	20	円形	丸底		B	なし	
Pt	2132	42	30	13/22	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2133	44	40	15	楕円形	浅い丸底		B	なし	
SK	2134	73	70	12	楕円形	浅い平底		B	SK2134 → Pt2126	
Pt	2135	40	35	17	楕円形	丸底		B	Pt2135 → 覆瓦2	
Pt	2136	57	53	16/26	楕円形	丸底		B	Pt2136 → Pt2101	
SK	2137	100	(93)	9	楕円形	浅い丸底		A	なし	
Pt	2138	40	36	23	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2139	88	60	9	楕円形	浅い丸底		B	SB2002 → SK2139	
Pt	2140	35	35	20	円形	丸底		B	なし	
Pt	2141	40	30	37	楕円形	丸底		B	SB2002 → Pt2141	
SK	2142	110	(80)	12	楕円形	浅い丸底		A	なし	
Pt	2143	43	40	28	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2144	43	36	32	楕円形	丸底		B	Pt2175 → Pt2144	
Pt	2145	70	65	38	楕円形	丸底		B	SB2002 → Pt2145	
Pt	2146	42	37	15	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2147	31	30	21	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2148	54	38	30	楕円形	丸底		B	なし	
欠番	2149									
Pt	2150	52	35	11	楕円形	浅い平底		B	なし	
Pt	2151	33	30	32	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2152	26	21	13	楕円形	平底		B	なし	
Pt	2153	40	35	22	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2154	48	32	21/45	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2155	100	(90)	20	楕円形	浅い平底		A	Pt2167・Pt2174 → SK2155 → 覆瓦6	
Pt	2156	40	34	36	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2157	43	34	38	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2158	80	50	41	不整形	丸底		B	なし	
Pt	2159	30	28	34	楕円形	丸底	第84図23	B	なし	
Pt	2160	54	42	48	楕円形	丸底		B	SK2170 → Pt2160	
Pt	2161	53	39	37	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2162	34	33	20	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2163	58	55	40	円形	平底	第84図33	B	なし	
Pt	2164	59	57	50	円形	平底		B	なし	
Pt	2165	55	52	33	隅丸方形	平底		B	なし	
Pt	2166	60	42	13/29	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2167	43	43	68	円形	丸底		B	Pt2167 → SK2155	
Pt	2168	55	36	17/31	不整形	丸底		B	なし	
Pt	2169	29	23	20	楕円形	丸底		B	Pt2173 → Pt2169	
SK	2170	75	66	49	楕円形	丸底	第84図32	B	SK2170 → Pt2160	
Pt	2171	42	38	18	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2172	36	22	24	楕円形	丸底		B	SB2003 → Pt2172	
Pt	2173	45	22	23	不整形	丸底		B	Pt2173 → Pt2169	
Pt	2174	24	23	20	円形	丸底	第84図24	B	Pt2174 → SK2155	
Pt	2175	23	22	30	楕円形	丸底		B	Pt2175 → Pt2144	
Pt	2176	28	22	23	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2177	(60)	50	57	楕円形	丸底	第84図22	B	SK2177 → 覆瓦6	
Pt	2178	43	30	32	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2179	27	24	33	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2180	25	20	24	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2181	56	25	6/13	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2182	120	120	25	円形	平底	第84図9	A	SK2192 → SK2182	
SK	2183	98	98	19	円形	浅い丸底		A	なし	
SK	2184	110	(100)	13	楕円形	浅い平底		A	なし	
Pt	2185	44	36	23	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2186	75	70	38	隅丸方形	平底		B	なし	
Pt	2187	28	26	32	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2188	40	40	26	円形	丸底		B	Pt2189・Pt2195 → Pt2188	
Pt	2189	45	(30)	32	楕円形	丸底		B	Pt2189 → Pt2188	
Pt	2190	34	30	15	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2191	48	30	15/28	不整形	丸底	第84図3	B	なし	
SK	2192	120	77	21	楕円形	平底		A	SK2192 → SK2182	
Pt	2193	26	26	21	円形	丸底		B	なし	
Pt	2194	71	(30)	20	隅丸方形	平底		B	なし	
Pt	2195	56	55	43	楕円形	平底		B	Pt2195 → Pt2188	
欠番	2196									
欠番	2197									
欠番	2198									
欠番	2199									
欠番	2200									

種別	遺構番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	埋藏遺物	土層	切り合い(古→新)	備考
Pt	2201	36	23	11	楕円形	浅い丸底	第 84 図 5	B	なし	
Pt	2202	30	26	17	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2203	37	22	21	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2204	36	33	22	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2205	100	100	6	円形	浅い丸底		A	なし	
SK	2206	93	86	7	楕円形	浅い丸底		A	なし	
Pt	2207	30	28	24	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2208	41	36	11	楕円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2209	30	30	16	円形	丸底		B	なし	
Pt	2210	28	25	12	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2211	27	24	18	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2212	30	24	15	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2213	38	30	18	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2214	41	26	25	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2215	40	30	29	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2216	125	115	8	楕円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2217	27	20	14	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2218	25	24	12	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2219	32	24	17	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2220	46	23	24	楕円形	平底		B	Pt2220 → 視乱 8	
Pt	2221	41	36	21	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2222	40	28	29	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2223	37	33	23	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2224	42	29	41	不整形	丸底		B	なし	
SK	2225	100	96	5	楕円形	浅い丸底		A	Pt2247 → SK2225	
SK	2226	80	80	7	円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2227	64	(29)	7	(楕円形)	浅い丸底		B	Pt2227 → 視乱 10	
Pt	2228	30	28	19	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2229	34	30	18	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2230	42	(25)	32	楕円形	丸底		B	Pt2230 → 視乱 13	
Pt	2231	46	32	17	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2232	29	25	26	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2233	30	30	19	円形	丸底		B	なし	
Pt	2234	43	36	39	楕円形	丸底	第 84 図 18	B	なし	
SK	2235	94	80	7	楕円形	浅い平底		A	SK2242 → SK2235 → 視乱 15	
SK	2236	90	90	13	円形	浅い丸底		A	SK2236 → 視乱 14	
Pt	2237	29	29	18	円形	丸底		B	なし	
Pt	2238	28	(24)	28	楕円形	丸底		B	Pt2238 → 視乱 14	
Pt	2239	56	46	19	不整形	丸底		B	なし	
Pt	2240	55	53	26	円形	丸底		B	なし	
SK	2241	130	93	6	楕円形	浅い丸底		A	SH2003P602 → SK2241	
SK	2242	110	(75)	4	楕円形	浅い平底		A	SK2243 → SK2242 → SK2235 → 視乱 15	
SK	2243	90	90	13	円形	浅い丸底		A	SD2005 → SK2243 → SK2242	
Pt	2244	32	27	10	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2245	41	35	22	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2246	33	26	13	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2247	23	20	13	楕円形	丸底		B	Pt2247 → SK2225	
Pt	2248	58	41	19	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2249	37	29	17	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2250	51	40	23	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2251	46	35	9/19	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2252	43	41	11	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2253	36	26	27	楕円形	丸底		B	SD2005 → Pt2253	
Pt	2254	40	33	18	楕円形	平底	第 84 図 30	B	なし	
Pt	2255	42	37	18	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2256	49	25	9	楕円形	浅い丸底		A	なし	
Pt	2257	42	30	15	楕円形	丸底		A	なし	
Pt	2258	64	26	12	楕円形	平底		B	なし	
Pt	2259	46	30	13	楕円形	丸底		A	なし	
SK	2260	94	94	11	円形	浅い丸底		A	なし	
Pt	2261	46	(23)	43	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2262	98	(60)	5	円形	浅い丸底		A	SK2262 → SD2007	
SK	2263	90	(80)	5	円形	浅い丸底		A	なし	
SK	2264	90	90	5	円形	浅い平底		A	なし	
Pt	2265	34	31	10	不整形	平底		B	なし	
SK	2266	109	100	16	楕円形	浅い丸底		B	SD2004 → SK2266	
SK	2267	100	(65)	10	円形	浅い丸底		A	なし	
SK	2268	142	121	13	楕円形	浅い丸底		A	SD2008 → SK2271 → SK2270 → SK2268	
SK	2269	115	115	5	円形	浅い丸底		A	SH2005P603・SH2005P604 → SK2269	
SK	2270	115	(40)	8	楕円形	浅い丸底		A	SK2271・SK2273 → SK2270 → SK2268	
SK	2271	156	105	5	楕円形	浅い平底		A	SK2272 → SK2271 → SK2270 → SK2268	
SK	2272	136	121	11	楕円形	浅い平底		A	SK2272 → SK2271	
SK	2273	136	(83)	8	楕円形	浅い平底		A	SD2008 → SK2273 → SK2270	

種別	遺構番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	掲載遺物	土質	切り合い(古→新)	備考
Pt	2274	42	41	8	楕円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2275	64	62	22	楕円形	丸底		B	なし	
Pt	2276	77	70	14	楕円形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2277	54	52	26	楕円形	浅い丸底		B	Pt2277 → 覆瓦 24	
Pt	2278	40	39	30	楕円形	平底		B	SH2005P608 → Pt2278	
Pt	2279	46	45	27	楕円形	平底	第 84 図 13	B	SH2005P606 → Pt2279	
SK	2280	76	75	180/94	楕円形	丸底	第 84 図 10.26.27.28	B	なし	
SK	2281	110	(90)	49	楕円形	平底		B	SK2281 → SH2003P606	
SK	2282	105	105	20	円形	浅い丸底		B	SK2282 → SH2004P604	
SK	2283	90	20	5	楕円形	浅い平底		B	SH2005P610 → SK2283	
Pt	2284	53	52	31	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2285	140	130	14	楕円形	浅い丸底	第 84 図 7	A	なし	
SK	2286	116	(55)	12	楕円形	浅い丸底		A	SK2286 → 覆瓦 28	
SK	2287	123	123	12	円形	浅い丸底		A	SK2288 → SK2287	
SK	2288	123	(115)	7	楕円形	浅い平底		A	SK2288 → SK2287	
Pt	2289	50	50	12	楕円形	浅い丸底		B	Pt2289 → 覆瓦 23	
SK	2290	121	121	10	円形	浅い丸底		A	なし	
SK	2291	85	78	26	楕円形	丸底	第 84 図 15	B	なし	
Pt	2292	50	50	31	円形	丸底		B	なし	
Pt	2293	37	28	18	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2294	148	146	16	楕円形	浅い丸底		A	なし	
SK	2295	106	77	35	楕円形	平底		B	なし	
SK	2296	135	70	22	楕円形	浅い丸底		B	なし	
SK	2297	102	33	8	楕円形	浅い丸底	第 84 図 29	A	SK2297 → 覆瓦 21	
SK	2298	100	70	10	楕円形	浅い丸底		A	SK2298 → 覆瓦 22	
Pt	2299	40	36	12	隅丸方形	浅い丸底		B	なし	
Pt	2300	35	24	17	楕円形	丸底		B	なし	
SK	2301	110	(60)	30	楕円形	丸底		B	SK2301 → SH2004P603	

・出土遺物観察表

土器・陶器

報告番号	神宮番号 区画番号	R番号 (PC点) 目録番号 (一括)	出土 層所	類別 分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	その他 寸法 (cm)	内面色調 外面色調	焼成 残存率	備考
SH2001-01	第14区 —	R0111	SH2001	土師器 SK01 甕			(3.8)		2.5Y46 (赤褐) 2.5Y46 (赤褐)	良好 -	
SH2001-02	第14区 —	R0333	SH2001	土師器 SK01 甕			(5.3)		2.5YR44 (にぶい赤褐) 2.5YR4/3 (にぶい赤褐)	良好 -	
SH2002-01	第15区 —	R0034	SH2002	須恵器 SK05 壺			(4.2)		2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	良好 -	
SH2002-02	第15区 —	R0116	SH2002	土師器 SK03 罎			(2.4)		2.5YR56 (明赤褐) 2.5YR56 (明赤褐)	良好 -	
SH2003-01	第19区 —	R1031	SH2003	須恵器 Pt11 坏蓋			(10.5)		5Y7/1 (灰白) 5Y6/1 (灰)	良好 -	
SH2003-02	第19区 —	R0902	SH2003	須恵器 Pt06 蓋			(3.4)		2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 -	
SH2003-03	第19区 PL_27	R0992	SH2003	土師器 Pt05 坏			(2.1)		2.5YR46 (赤褐) 2.5YR44 (にぶい赤褐)	良好 -	黒書
SH2003-04	第19区 —	R0987	SH2003	土師器 Pt07 坏			(1.1)		10YR4/1 (赭灰) 10YR5/2 (灰黄褐)	良好 -	
SH2003-05	第19区 —	R1012	SH2003	土師器 Pt01 坏			(3.6)		2.5YR66 (橙) 2.5YR66 (橙)	良好 -	甲斐型
SH2003-06	第19区 —	R0992	SH2003	土師器 Pt05 甕			(2.3)		2.5YR56 (明赤褐) 2.5YR56 (明赤褐)	良好 -	
SH2003-07	第19区 —	R0996	SH2003	土師器 Pt09 甕			(2.6)		2.5YR2/1 (赤黒) 2.5YR6/0 (橙)	良好 -	
SH2004-01	第21区 —	R0912	SH2004	須恵器 Pt06 坏			(2.4)		2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	良好 -	
SH2004-02	第21区 —	R0897	SH2004	須恵器 Pt08 壺			(5.2)		2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 -	
SH2005-01	第26区 —	R0929 (Pt05) R1073 (Pt06) R1106 (Pt05)	SH2005	土師器 Pt05.06 坏	[12.4]	[8.6]	3.4		5YR6/8 (橙) 5YR6/8 (橙)	良好 20	
SH2005-02	第26区 —	R1016	SH2005	土師器 Pt05 坏			(3.0)		2.5YR66 (橙) 2.5YR66 (橙)	良好 -	
SH2005-03	第26区 —	R1013・R1014 (R1040)	SH2005	土師器 Pt03 坏			(5.0)		2.5YR58 (明赤褐) 2.5YR58 (明赤褐)	良好 -	
SH2005-04	第26区 —	R0917 (Pt01) R0918 (Pt02)	SH2005	土師器 Pt01.02 坏			(3.0)		2.5YR56 (明赤褐) 2.5YR56 (明赤褐)	良好 -	
SH2005-05	第26区 —	R1035	SH2005	土師器 Pt10 坏		[5.1]	(2.1)		2.5YR56 (明赤褐) 5YR4/2 (灰褐)	良好 20	
SH2005-06	第26区 —	R1042 R1091・(R1038)	SH2005	土師器 Pt05 坏	[6.0]		(1.3)		2.5YR56 (明赤褐) 2.5YR56 (明赤褐)	良好 20	
SH2005-07	第26区 —	R0930	SH2005	土師器 Pt09 甕		[4.2]	(2.8)		7.5YR64 (にぶい橙) 7.5YR64 (にぶい橙)	良好 -	器種不明 生産用具?
SH2005-08	第26区 —	R1084・R1085	SH2005	須恵器 Pt10 坏蓋	[12.2]		(2.2)		5Y7/1 (灰白) 5Y7/1 (灰白)	良好 45	
SH2005-09	第26区 PL_27	R1046	SH2005	須恵器 Pt06 甕			(5.0)		N6/ (灰) N5/ (灰)	良好 -	
SH2005-10	第26区 PL_27	R0928	SH2005	須恵器 Pt06 甕			(10.3)		5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)	良好 -	
SB2001-01	第30区 —	R0142・R0157 R0154	SB2001	須恵器 壺			(7.2)		2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y6/2 (灰黄)	良好 20	
SB2001-02	第30区 —	R0163	SB2001	須恵器 坏			(3.6)		2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 -	
SB2001-03	第30区 PL_27	R0156・R0191	SB2001	土師器 壺	[14.3]		(6.0)		7.5YR4/2 (灰褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	良好 20	
SB2001-04	第30区 —	R0148・R0162	SB2001	土師器 長胴壺		6.1	(4.6)		10YR7/3 (にぶい黄橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好 40	
SB2001-05	第30区 —	R0267・R0327	SB2001	土師器 FP01 甕			(2.6)		7.5YR7/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好 -	
SB2001-06	第30区 —	R0249	SB2001	土師器 FP01 坏			(3.0)		5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好 -	
SB2001-07	第30区 —	R0813	SB2001	土師器 FP01 坏		[5.0]	(0.8)		2.5YR68 (橙) 2.5YR6/8 (橙)	良好 50	
SB2001-08	第30区 —	R0173	SB2001	土師器 坏			(0.6)		5YR56 (明赤褐) 5YR56 (明赤褐)	良好 -	黒書
SB2001-09	第30区 —	R0328・R0329・R0330・R0331・ R0332・(R0141)	SB2001	土師器 製塩土器	[14.1]		(8.4)		7.5YR7/6 (橙) 5YR8/4 (黄橙)	良好 25	
SB2001-10	第30区 —	R0173	SB2001	土師器 小皿	[5.3]		(1.1)		10YR8/4 (浅黄橙) 10YR8/4 (浅黄橙)	良好 25	手づくね土器
SB2001-13	第30区 PL_27	R0152	SB2001	陶器 壺			(5.2)		10YR4/1 (赭灰) 10YR4/1 (赭灰)	良好 -	
SB2002-01	第34区 —	R0505	SB2002	須恵器 蓋			(1.6)	幅み径 3.3 (1.6)	2.5Y7/1 (灰白) 7.5Y4/1 (灰)	良好 98	
SB2002-02	第34区 —	R0289	SB2002	須恵器 蓋	[14.1]		(2.5)		2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 20	

報告番号	検出番号 図版番号	R番号 (PC点) R番号 (一括)	出土 場所	類別 分類	口径 (cm)	直径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm)	その他 (cm)	内面色調 外面色調	現状 保存率	備考
SB2002-03	第34図 —	R0465	SB2002	須恵器 蓋	[13.5]		(202)			2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	良好 20	
SB2002-04	第34図 PL.28	R0493	SB2002	須恵器 坏	14.6	高台 10.4	3.7			2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y8/1 (黄灰)	良好 70	
SB2002-05	第34図 —	R0581	SB2002	須恵器 FPO1 坏	[14.7]	高台 [10.35]	3.4			N44 (灰) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 20	
SB2002-06	第34図 PL.28	R0828	SB2002	須恵器 坏	14.0	高台 9.2	4.1			2.5Y8/3 (黄黄) 2.5Y8/6 (黄灰)	良好 70	
SB2002-07	第34図 PL.28	R0320-R0356-R0397-R0522	SB2002	須恵器 坏	13.35	高台 8.7	3.4			2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 65	
SB2002-08	第34図 —	R0278	SB2002	須恵器 坏		高台 10.7	(2.1)			10Y5/1 (灰) N5 (灰)	良好 60	
SB2002-09	第34図 —	R0260	SB2002	須恵器 坏		高台 [11.0]	(1.3)			5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)	良好 25	
SB2002-10	第34図 —	R0368	SB2002	須恵器 坏		[8.6]	(1.95)			2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	良好 40	
SB2002-11	第34図 —	R0525 R0570 (R0341-R0476)	SB2002	須恵器 坏	[15.5]	高台 [10.7]	4.35			5Y5/1 (灰) 5Y5/1 (灰)	良好 20	
SB2002-12	第34図 PL.28	R0366	SB2002	須恵器 坏	[13.95]	高台 [10.55]	3.9			2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	良好 45	
SB2002-13	第34図 PL.28	R0745	SB2002	須恵器 FPO1 坏	[14.9]	高台 [8.5]	5.1			2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 40	
SB2002-14	第34図 —	R0314	SB2002	須恵器 坏			(2.8)			2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	良好 -	
SB2002-15	第34図 —	R0396	SB2002	須恵器 坏			(3.3)			2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y7/3 (灰黄)	良好 -	
SB2002-16	第34図 —	R0348	SB2002	須恵器 坏			(3.8)			2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	良好 -	
SB2002-17	第34図 —	R0372	SB2002	須恵器 坏			(1.4)			10Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 -	
SB2002-18	第34図 —	R0344	SB2002	須恵器 蓋		高台 [9.3]	(2.0)			10Y7/1 (灰白) 10Y7/1 (灰白)	良好 20	
SB2002-19	第34図 PL.29	R0376 R0476-R0286	SB2002	土師器 高坏?	[15.5]	(3.6)				10R5/8 (赤) 10R5/8 (赤)	良好 20	SB2002と SB2001が接合 畿内系
SB2002-20	第34図 PL.28	R0515 R0341 (R0083)	SB2002	土師器 坏			(3.4)			5YR6/6 (橙) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 -	畿内系
SB2002-21	第34図 —	R0285	SB2002	土師器 坏			(1.85)			2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	良好 -	
SB2002-22	第34図 —	R0506 R0341	SB2002	土師器 坏			(3.4)			5YR7/8 (橙) 5YR7/8 (橙)	良好 -	
SB2002-23	第34図 PL.29	R0365-R0380-R0527-R0743- R0744-R0746-R0747-R0748- R0749-R0752-R0753-R0773- R0780-R0781-R0782-R0783- R0784-R0785-R0786-R0826 R0674	SB2002	土師器 FPO1 甕	[22.0]	[8.3]	29.1			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	良好 60	
SB2002-24	第34図 PL.29	R0060-R0061-R0269-R0291- R0354-R0371-R0383-R0496- R0497-R0524-R0754-R0755- R0757-R0758-R0762-R0767- R0776-R0777-R0778-R0779- R0793 R0341	SB2002	土師器 FPO1 甕	20.7		(26.0)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 65	
SB2002-25	第34図 —	R0317-R0750-R0751	SB2002	土師器 FPO1 甕			(14.6)			5YR4/6 (赤褐) 5YR4/6 (赤褐)	良好 20	
SB2002-26	第34図 PL.29	R0787-R0788-R0789 R0599	SB2002	土師器 FPO1 甕			(11.4)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR4/6 (赤褐)	良好 20	
SB2002-27	第35図 —	R0015-R0321-R0343- R0361-R0513	SB2002	土師器 甕	[23.0]		(4.25)			2.5YR4/3 (にぶい赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 40	
SB2002-28	第35図 —	R0270-R0290-R0292	SB2002	土師器 甕			(4.1)			10R5/6 (赤) 10YR2/1 (黒)	良好 20	
SB2002-29	第35図 —	R0518-R0596	SB2002	土師器 甕			(4.2)			2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/6 (赤褐)	良好 -	
SB2002-30	第35図 —	R0296-R0319-R0481	SB2002	土師器 甕			(7.5)			2.5YR4/6 (赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	良好 -	
SB2002-31	第35図 —	R0381-R0580	SB2002	土師器 FPO1 甕			(5.6)			5YR4/6 (赤褐) 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	良好 -	
SB2002-32	第35図 —	R0806 R0570	SB2002	土師器 甕		[8.2]	(4.3)			2.5YR4/6 (赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	良好 30	
SB2002-33	第35図 —	R0569	SB2002	土師器 甕	[8.3]		(3.8)			10R5/6 (赤) 2.5YR3/3 (明赤褐)	良好 45	
SB2002-34	第35図 PL.29	R0624-R0741-R0759-R0763- R0764-R0765-R0766-R0768- R0769-R0770-R0772- (R0526-R0738-R0739) R0599	SB2002	土師器 FPO1 甕		[9.8]	(13.7)			7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	良好 40	

報告番号	押出番号 図面番号	R番号 (PC点) 目番号 (一括)	出土 場所	種類 分類	口径 (cm)	高さ (cm)	器高 (cm)	その他 (cm)	その他 (cm)	内面色調 外面色調	状況 残存率	備考
SB2003-01	第39図 PL_30	R0554	SB2003	須恵器 SX01 坏蓋	15.8		4.0	幅み径 2.9	幅み高 1.1	2.5Y8/1 (灰白) 2.5Y8/1 (灰白)	良好 60	
SB2003-02	第39図 —	R0245	SB2003	須恵器 坏蓋			(3.2)	幅み径 2.5	幅み高 1.3	7.5Y6/1 (灰) 7.5Y6/1 (灰)	良好 20	
SB2003-03	第39図 PL_30	R0458・R0475・R0519・R0642 R0286・R0477	SB2003	須恵器 坏蓋	14.5		(1.9)			2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	良好 80	
SB2003-04	第39図 PL_30	R0520	SB2003	須恵器 坏蓋	[15.7]		4.2	幅み径 2.8	幅み高 1.0	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	良好 60	
SB2003-05	第39図 PL_30	R0474・R0640 R0677	SB2003	須恵器 坏	13.3		4.3			2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 50	
SB2003-06	第39図 PL_30	R0065・R0490・R0633・ R0676	SB2003	須恵器 坏	[15.9]	[4.5]	4.8			2.5Y8/1 (灰白) 2.5Y8/1 (灰白)	良好 25	
SB2003-07	第39図 PL_30	R0311・R0336・R0416・R0419・ R0686・(R0282)	SB2003	須恵器 坏	[15.5]	高台 10.8	3.9			2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 55	
SB2003-08	第39図 —	R0445	SB2003	須恵器 坏	[14.3]	[10.4]	3.3			2Y6/1 (黄灰) 2Y6/1 (黄灰)	良好 20	
SB2003-09	第39図 —	R0441	SB2003	須恵器 坏			(5.0)			2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 -	
SB2003-10	第39図 PL_30	R0246・R0255	SB2003	須恵器 壺			(9.1)			5Y8/1 (灰白) 5Y8/1 (灰白)	良好 -	
SB2003-11	第39図 PL_30	R0662・R0810・ R0536・R0571・R06777)	SB2003	土師器 FP01 壺蓋	[20.3]		4.9			5YR6/8 (橙) 5YR6/8 (橙)	良好 20	
SB2003-12	第39図 —	R0671	SB2003	土師器 FP01 坏			(3.15)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 -	
SB2003-13	第39図 —	R0342	SB2003	土師器 坏			(2.1)			2.5YR5/8 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 -	
SB2003-14	第39図 PL_31	R0717・R0719・R0722・ R0725・R0728 R0732	SB2003	土師器 FP01 坏	8.45		2.8			2.5YR6/8 (橙) 5YR7/8 (橙)	良好 95	
SB2003-15	第39図 —	R0561 R0676	SB2003	土師器 SX01 坏	(8.7)		2.5			7.5YR7/6 (橙) 5YR7/8 (橙)	良好 40	
SB2003-16	第39図 PL_31	R0407・R0412	SB2003	土師器 坏	8.5		2.65			5YR7/6 (橙) 7.5YR8/6 (黄黄橙)	良好 90	
SB2003-17	第39図 —	R0342・R0389	SB2003	土師器 坏			(2.65)			7.5YR7/6 (橙) 5YR7/8 (橙)	良好 -	
SB2003-18	第39図 —	R0551	SB2003	土師器 SX01 壺	[25.3]		(3.2)			7.5YR8/4 (黄黄橙) 7.5YR8/4 (黄黄橙)	良好 20	
SB2003-19	第39図 PL_31	R0811	SB2003	土師器 FP01 壺			(10.9)			7.5YR6/4 (にぶい赤褐) 7.5YR6/4 (にぶい赤褐)	良好 -	
SB2003-20	第39図 PL_31	R0538・R0611・R0821	SB2003	土師器 SX01 壺			(9.0)			5YR5/2 (にぶい赤褐) 7.5YR5/3 (にぶい赤褐)	良好 -	
SB2003-21	第39図 PL_31	R0251・R0409・R0418・R0546・ R0654・R0655・R0701・R0702・ R0477・R0571	SB2003	土師器 壺	[17.0]		(15.0)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 40	
SB2003-22	第39図 —	R0243・R0643・R0672・R0644	SB2003	土師器 SX01 壺	[22.6]		(5.7)			2.5YR5/8 (明赤褐) 2.5YR5/8 (明赤褐)	良好 20	
SB2003-23	第39図 —	R0240・R0455・R0713	SB2003	土師器 FP01 壺	[21.2]		(4.1)			2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/3 (にぶい赤褐)	良好 20	
SB2003-24	第39図 —	R0067・R0585	SB2003	土師器 壺			(7.2)			10R5/6 (赤) 10R5/6 (赤)	良好 -	
SB2003-25	第39図 —	R0708	SB2003	土師器 FP01 壺			(4.0)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 -	
SB2003-26	第39図 PL_31	R0417・R0473・R0528・R0529・ R0530・R0531・R0532・R0533・ R0534・R0535 R0389・R0571・R0732	SB2003	土師器 壺	[20.4]		(9.3)			10R5/6 (赤) 10R4/4 (赤褐)	良好 40	
SB2003-27	第39図 —	R0705・R0707	SB2003	土師器 FP01 壺			(8.5)			2.5YR4/6 (赤褐) 2.5YR4/6 (赤褐)	良好 -	
SB2003-28	第39図 —	R0663	SB2003	土師器 FP01 壺		[8.0]	(4.4)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR4/6 (赤褐)	良好 40	
SB2003-29	第39図 —	R0797・R0799・R0800・R0801	SB2003	土師器 FP01 壺			(18.3)			2.5YR4/8 (赤褐) 2.5YR4/8 (赤褐)	良好 -	
SB2003-30	第39図 —	R0553	SB2003	土師器 SX01 壺			(14.4)			5YR5/8 (明赤褐) 5YR5/8 (明赤褐)	良好 -	
SB2005-01	第43図 —	R0834	SB2005	須恵器 坏	[15.0]		(2.8)			2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 20	
SB2005-02	第43図 —	R0835	SB2005	土師器 壺	[9.3]		(4.1)			5YR6/6 (橙) 5YR6/4 (にぶい赤褐)	良好 20	
SB2005-03	第43図 —	R0836	SB2005	土師器 皿			(1.1)			7.5YR7/4 (にぶい赤褐) 5YR6/6 (橙)	良好 -	畿内系
SB2005-04	第43図 —	R0401・R0402・R0403	SB2005	土師器 FP01 坏			(1.0)			5YR5/4 (にぶい赤褐) 7.5YR4/2 (灰褐)	良好 80	
SB2006-01	第45図 —	R0075	SB2006	須恵器 坏			(2.0)			2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y8/2 (灰白)	良好 -	
SB2006-02	第45図 —	R0232	SB2006	土師器 壺			(3.4)			2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	良好 -	

報告番号	検出番号 図版番号	R番号 (PC点) 目録号 (一括)	出土 場所	類別 分類	口径 (cm)	直径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm)	その他 (cm)	内面色調 外面色調	現状 保存率	備考
SB2006-03	第45図 —	R0225 R0232	SB2006	土器器 甕			(4.5)			2.5YR44 (にぶい赤褐) 2.5YR36 (暗赤褐)	良好 -	
SB2006-04	第45図 PL.32	R0697	SB2006	土器器 坪			(0.5)			5YR66 (橙) 2.5YR56 (明赤褐)	良好 -	暗文 畿内系
SB2007-01	第46図 —	R0617	SB2007	須恵器 坪			(3.3)			2.5YR71 (灰白) 2.5Y71 (灰白)	良好 -	
SB2007-02	第46図 —	R0565	SB2007	須恵器 坪	[14.3]	高台 [8.8]	4.0			5Y71 (灰白) 5Y71 (灰白)	良好 20	
SB2007-03	第46図 —	R0607	SB2007	土器器 甕			(4.2)			2.5YR54 (にぶい赤褐) 2.5YR54 (にぶい赤褐)	良好 -	
SB2008-01	第51図 —	R0907 R0927	SB2008	土器器 坪	[11.6]	[6.5]	3.8			2.5YR44 (にぶい赤褐) 2.5YR44 (にぶい赤褐)	良好 25	
SB2008-02	第51図 —	R0947	SB2008	土器器 坪	[10.8]	[6.0]	3.4			5YR46 (赤褐) 5YR46 (赤褐)	良好 20	
SB2008-03	第51図 PL.33	R0945 R0927	SB2008	土器器 坪	12.8	6.2	3.0			5YR32 (明赤褐) 2.5YR46 (赤褐)	良好 70	
SB2008-04	第51図 —	R0962	SB2008	土器器 坪			3.7			5YR58 (明赤褐) 7.5YR54 (にぶい赤)	良好 -	
SB2008-05	第51図 PL.33	R0927	SB2008	土器器 坪			(2.2)			5YR58 (明赤褐) 2.5YR58 (明赤褐)	良好 -	墨書あり
SB2008-06	第51図 PL.33	R1121	SB2008	土器器 坪			(3.4)			5YR66 (橙) 5YR66 (橙)	良好 -	墨書あり
SB2008-07	第51図 —	R0896	SB2008	土器器 坪			(1.9)			5YR27 (黒褐) 5YR56 (明赤褐)	良好 -	内面 黒色処理
SB2008-08	第51図 PL.33	R1023 R0896	SB2008	土器器 坪	[14.3]		(3.3)			7.5YR27 (黒) 7.5YR66 (橙)	良好 20	内面 黒色処理
SB2008-09	第51図 —	R0927	SB2008	土器器 坪			(2.7)			5YR46 (赤褐) 2.5YR56 (明赤褐)	良好 -	刻書
SB2008-10	第51図 —	R1022	SB2008	土器器 坪		[6.3]	(1.1)			10YR64 (にぶい黄橙) 5YR56 (明赤褐)	良好 55	墨書
SB2008-11	第51図 —	R0964	SB2008	土器器 坪			(3.8)			7.5YR64 (にぶい橙) 5YR66 (橙)	良好 -	甲斐型
SB2008-12	第51図 —	R0942	SB2008	土器器 皿			(1.1)			2.5YR68 (橙) 2.5YR68 (橙)	良好 -	
SB2008-13	第51図 —	R0941	SB2008	土器器 坪		[5.4]	(1.1)			5YR42 (灰褐) 2.5YR58 (明赤褐)	良好 60	
SB2008-14	第51図 —	R0959	SB2008	土器器 坪		高台 [6.7]	(1.2)			5YR54 (にぶい赤褐) 5YR66 (橙)	良好 20	削出し高台
SB2008-15	第51図 —	R0885	SB2008	土器器 坪		[6.6]	(1.5)			5YR66 (橙) 5YR66 (橙)	良好 -	甲斐型
SB2008-16	第51図 —	R0906-R0946 R0927	SB2008	灰輪陶器 甕			(4.5)			7.5Y62 (灰オリーブ) 2.5Y71 (灰白)	良好 -	
SB2008-17	第51図 PL.33	R0943-R1057-R1058-R1112	SB2008	土器器 甕	[27.5]		(8.4)			2.5YR56 (明赤褐) 2.5YR56 (明赤褐)	良好 20	甲斐型
SB2008-18	第51図 —	R0956	SB2008	土器器 甕			(3.1)			5YR68 (橙) 5YR68 (橙)	良好 -	
SB2008-19	第51図 —	R0961	SB2008	土器器 甕			(8.6)			5YR68 (橙) 5YR68 (橙)	良好 -	
SB2008-20	第51図 —	R0950-R0969-R0970- R0972-R0973 R0927	SB2008	土器器 甕			(13.4)			2.5YR56 (明赤褐) 2.5YR56 (明赤褐)	良好 -	
SB2008-21	第51図 —	R1056	SB2008	土器器 甕			(12.8)			2.5Y71 (黄灰) 5YR46 (赤褐)	良好 -	
SB2008-22	第51図 —	R1055	SB2008	土器器 甕		[7.2]	(5.7)			5YR66 (橙) 5YR66 (橙)	良好 25	
SB2008-23	第51図 —	R1004	SB2008	土器器 甕		[7.5]	(3.5)			5YR56 (明赤褐) 5YR56 (明赤褐)	良好 20	
SB2008-24	第51図 —	R0949	SB2008	土器器 甕			(3.1)			5YR56 (明赤褐) 5YR46 (赤褐)	良好 -	
SB2009-01	第53図 —	R1070	SB2009	土器器 坪	[11.5]	[7.7]	3.5			2.5YR56 (明赤褐) 2.5YR56 (明赤褐)	良好 20	
SB2009-02	第53図 —	R1111	SB2009	土器器 坪		[7.0]	(2.2)			5YR66 (橙) 5YR56 (明赤褐)	良好 25	
SB2009-03	第53図 —	R1142	SB2009	土器器 坪		[7.0]	(1.5)			5YR66 (橙) 5YR56 (明赤褐)	良好 20	
SB2009-04	第53図 —	R1142	SB2009	土器器 坪			(1.2)			2.5YR58 (明赤褐) 2.5YR58 (明赤褐)	良好 -	
SB2009-05	第53図 —	R1070- (R1070-R1100-R1142)	SB2009	土器器 坪			(2.9)			2.5YR56 (明赤褐) 2.5YR56 (明赤褐)	良好 -	
SB2009-06	第53図 —	R1088-R1142	SB2009	土器器 坪			(3.2)			2.5YR66 (橙) 2.5YR66 (橙)	良好 -	
SB2009-07	第53図 —	R1137	SB2009	土器器 坪			(0.5)			2.5YR68 (橙) 2.5YR58 (明赤褐)	良好 -	畿内系
SB2009-08	第53図 —	R1142	SB2009	土器器 坪			(1.2)			5YR68 (橙) 5YR68 (橙)	良好 -	甲斐型?

報告番号	押出番号 調査番号	R番号 (PC点) R番号 (一括)	出土 場所	種別 分類	口径 (cm)	高さ (cm)	器高 (cm)	その他 (cm)	その他 (cm)	内面色調 外面色調	状況 残存率	備考
SB2009-09	第53区 —	R1142	SB2009	土師器 坪		6.1	(1.0)			5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好 20	甲変型?
SB2009-10	第53区 PL_33	R1102	SB2009	土師器 坪		6.0	(2.0)			10YR4/2 (灰黄褐) 5YR6/6 (橙)	良好 45	
SB2009-11	第53区 —	R1081	SB2009	土師器 蓋			(0.9)			7.5YR5/4 (にぶい) 橙 7.5YR5/3 (にぶい) 橙	良好 -	
SB2009-12	第53区 —	R1141	SB2009	土師器 甕			(4.6)			5YR5/4 (にぶい) 赤褐 5YR4/6 (赤褐)	良好 -	
SB2009-13	第53区 —	R1100	SB2009	土師器 甕			(3.4)			2.5YR3/4 (暗赤褐) 2.5YR3/3 (暗赤褐)	良好 -	
SB2009-14	第53区 PL_33	R1130-R1131-R1132-R1133- R1134-R1136-R1137-R1140	SB2009	土師器 甕		6.2	(9.5)			5YR6/6 (橙) 7.5YR6/4 (にぶい) 橙	良好 60	
Pi・SK・ 遺構外-01	第84区 —	R0696	Pi2005	須恵器 坪蓋			(2.7)			2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-02	第84区 —	R0176	SK2093	須恵器 蓋			(2.7)			2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-03	第84区 —	R0735	Pi2191	須恵器 蓋			(2.3)			2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-04	第84区 —	R0183	SK2094	須恵器 蓋			(2.7)			7.5Y6/1 (灰) 10Y5/1 (灰)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-05	第84区 PL_34	R0840	Pi2201	須恵器 坪	[11.8]	高台 7.5	4.5			7.5Y6/1 (灰) N6/1 (灰)	良好 70	
Pi・SK・ 遺構外-06	第84区 —	R0206	Pi2120	須恵器 坪			(3.2)			2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-07	第84区 —	R1044	SK2285	須恵器 蓋			(4.0)			2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-08	第84区 —	R0025	SK2003	灰輪海部 段皿?			(2.3)			5Y6/3 (竹ア) 黄 5Y6/1 (灰白)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-09	第84区 —	R0692	SK2182	灰輪海部 筒		高台 7.0	(1.95)			2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	良好 45	
Pi・SK・ 遺構外-10	第84区 —	R0977	SK2280	陶器 壺?			(5.15)			2.5Y5/2 (暗灰黄) 10K5/6 (赤)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-11	第84区 PL_34	R0904	3 工区 遺構外	陶器 壺?			(6.0)			2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y6/2 (灰黄)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-12	第84区 PL_34	R1077	3 工区 遺構外	陶器 壺?			(7.0)			5Y6/1 (灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-13	第84区 PL_34	R0937	Pi2279	陶器 甕			(6.6)			2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y6/2 (灰黄)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-14	第84区 —	R0030	SK2012	土師器 坪		7.0	(2.1)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 30	
Pi・SK・ 遺構外-15	第84区 —	R1101	SK2291	土師器 坪			(1.6)			10K5/6 (赤) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-16	第84区 PL_34	R0084	表托	土師器 坪			81.6			5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好 -	黒書土器
Pi・SK・ 遺構外-17	第84区 —	R1007	3 工区 遺構外	土師器 坪			(4.25)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 -	黒書
Pi・SK・ 遺構外-18	第84区 —	R0656	Pi2234	土師器 坪			(3.2)			5YR4/4 (にぶい) 赤褐 5YR4/4 (にぶい) 赤褐	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-19	第84区 —	R0205	Pi2122	土師器 甕			(4.2)			2.5YR5/4 (にぶい) 赤褐 5YR5/3 (にぶい) 赤褐	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-20	第84区 —	R0221	Pi2126	土師器 甕			(3.65)			2.5YR4/4 (にぶい) 赤褐 2.5YR4/4 (にぶい) 赤褐	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-21	第84区 —	R0195	SK2105	土師器 甕			(3.25)			5YR7/6 (橙) 7.5YR6/4 (にぶい) 橙	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-22	第84区 —	R0659	SK2177	土師器 甕			(4.20)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-23	第84区 —	R0647	Pi2159	土師器 甕			(2.5)			5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-24	第84区 —	R0666	Pi2174	土師器 ?			(2.9)			2.5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/4 (にぶい) 赤褐	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-25	第84区 —	R0029	SK2012	土師器 甕			(8.0)			5YR4/2 (灰褐) 5YR6/4 (にぶい) 赤褐	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-26	第84区 —	R0998	SK2280	土師器 甕			(9.7)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-27	第84区 R1099	R0989 R1096	SK2280	土師器 甕			(8.9)			2.5YR4/4 (にぶい) 赤褐 5YR4/1 (暗灰)	良好 -	
Pi・SK・ 遺構外-28	第84区 —	R0983	SK2280	土師器 甕			(3.1)			2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	良好 -	

土製品

報告番号	採回番号 図版番号	R番号 R番号(一纏)	出土場所	分類	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	残存率	備考
SB2001-11	第30図 一	FO154	SB2001	人形	(2.3)	(1.7)	1.1	10YR7/3 (にぶい黄緑)	良好 60	
SB2001-12	第30図 PL.27	RO228	SB2001 FP01	人形	2.8	(2.3)	1.2	7.5YR7/4 (にぶい黄)	良好 80	

石器

報告番号	採回番号 図版番号	R番号 R番号(一纏)	出土場所	種別	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
SB2001-16	第30図 PL.28	RO150	SB2001	こぶ石	13.2	4.2	3.8	311.4	
SB2001-17	第30図 PL.28	RO166	SB2001	磨石	19.6	13.7	6.2	212.0	
SB2002-37	第35図 PL.31	RO349	SB2002	こぶ石	(9.8)	4.7	2.8	174.1	
SB2002-38	第35図 一	RO827	SB2002	こぶ石	12.2	4.3	3.9	312.9	
SB2002-39	第35図 一	RO353	SB2002	こぶ石	13.1	4.3	5.0	208.1	
SB2002-40	第35図 一	RO807	SB2002	こぶ石	14.1	5.6	4.1	509.7	
SB2002-41	第35図 一	RO511	SB2002	こぶ石	12.4	6.6	3.1	313.9	
SB2002-42	第35図 一	RO831	SB2002	こぶ石	13.7	6.5	3.5	342.2	
SB2002-43	第35図 一	RO395	SB2002	こぶ石	15.1	6.9	2.8	428.1	
SB2002-44	第35図 一	RO508	SB2002	こぶ石	15.8	6.8	3.2	468.6	
SB2003-35	第40図 一	RO447	SB2003	こぶ石	12.2	5.6	3.1	356.3	
SB2003-36	第40図 一	RO489	SB2003	こぶ石	12.6	5.3	2.7	262	
SB2003-37	第40図 一	RO501	SB2003	こぶ石	(8.9)	5.8	3.75	208.1	
SB2003-38	第40図 一	RO641	SB2003	こぶ石	(13.5)	6.1	3.2	369.3	
SB2008-26	第51図 PL.33	R1025	SB2008	こぶ石	15.4	5.7	4.9	754.7	
Pr・SK・遺構外-29	第84図 PL.34	R1113	SB2008	こぶ石	(8.8)	4.8	3.65	290.5	
Pr・SK・遺構外-30	第84図 PL.34	RO862	Pi2254	こぶ石	10.8	6.2	2.5	223.7	
Pr・SK・遺構外-33	第84図 PL.34	RO590	Pi2163	石鏃	(1.65)	(1.45)	(0.28)	0.39	

石製品

報告番号	採回番号 図版番号	R番号 R番号(一纏)	出土場所	分類	色調	残存率	上径 (cm)	下径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	備考
SB2002-35	第35図 PL.29	RO829	SB2002	紡錘	10YR5/4 (にぶい黄緑)	100	3.3	2.1	1.5	0.7 ~ 0.9	27.70	砥沢君

金属製品

報告番号	採回番号 図版番号	R番号 R番号(一纏)	出土場所	種別 分類	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	鍔身部・刃部 長 幅 厚	鍔部 長 幅 厚	基部 長 幅 厚	孔径 (cm)	重量 (g)	備考					
SH2005-11	第26図 PL.27	R1086	SH2005 Pi08	農工具 釘	(4.9)							4.98						
SB2001-14	第30図 PL.28	RO185	SB2001	腰帯具 鉈尾	(3.7)	(2.6)	0.14				0.15	5.09	金剛岩 孔数4					
SB2001-15	第30図 PL.28	RO188	SB2001	武器 鉄鏃	(2.2)				0.45	0.3		0.98	鍔部					
SB2002-36	第35図 PL.29	RO761	SB2002 FP01	武器 鉄鏃	(3.5)			(2.7)	0.8	0.2	(0.8)	0.5	0.25	1.77	尖根片刀			
SB2003-31	第40図 PL.32	RO499・RO500	SB2003	農工具 刀子	(7.9)			0.9	0.3			4.95						
SB2003-32	第40図 PL.32	RO564・RO586	SB2003	武器 鉄鏃	(15.0)			0.6	0.7	0.2	10.1	0.45	0.4	4.3	0.45	0.3	8.64	尖根片刀
SB2003-33	第40図 PL.32	RO230	SB2003	農工具 釘	3.3								1.32					
SB2003-34	第40図 PL.32	RO286	SB2003	不明 不明	(3.2)	(1.2)						0.3	1.36					
SB2008-25	第51図 PL.33	R1065	SB2008	武器 鉄鏃	(7.2)				0.35	0.3			4.42	鍔部				
Pr・SK・ 遺構外-31	第84図 PL.34	FO102	Pi2036	農工具 釘	(3.5)								1.47					
Pr・SK・ 遺構外-32	第84図 PL.34	RO646	SK2170	不明 不明	(4.3)								3.86					

写真図版

PLATE



1. SH2003・SH2004・SH2005 検出 (西から)



1. SH2001・SH2002 検出 (北西から)



1. 1工区全景（北西から）



1. SH2001・SH2002 検出（北西から）



2. SH2001・SH2002 完掘（北西から）



3. SH2001・SH2002 完掘（北西から）



1. 3工区・4工区全景（北東から）



1. 3工区・4工区全景（北西から）



2. 3工区・4工区全景（北東から）



1. SH2003・SH2004・SH2005 検出 (南西から)



1. SH2003・SH2004・SH2005 完掘（西から）



1. SH2003・SH2004・SH2005 検出（北から）



2. SH2003・SH2004・SH2005 作業風景（北西から）



1. SH2003 検出 (北西から)



2. SH2003 完掘 (北西から)



3. SH2003Pit01 半載 (北西から)



4. SH2003Pit02 半載 (東から)



5. SH2003Pit03 半載 (東から)



1. SH2003Pit04 半截 (南東から)



2. SH2003Pit05 半截 (南西から)



3. SH2003Pit06 半截 (南東から)



4. SH2003Pit08 半截 (西から)



5. SH2003Pit09 半截 (西から)



6. SH2003Pit10 半截 (北西から)



7. SH2003Pit11 半截 (北から)



8. SH2003Pit12 半截 (北東から)



1. SH2004 検出 (北西から)



2. SH2004 完掘 (北西から)



3. SH2004Pit01 半截 (北西から)



4. SH2004Pit02 半截 (東から)



5. SH2004Pit03 半截 (南西から)



1. SH2004Pit05 半截 (南西から)



2. SH2004Pit06 半截 (西から)



3. SH2004Pit07 半截 (北西から)



4. SH2004Pit08 半截 (北から)



5. SH2005 検出 (東から)



1. SH2005 検出 (南西から)



2. SH2005 完掘 (北西から)



1. SH2005Pit01 半截 (北西から)



2. SH2005Pit02 半截 (東から)



3. SH2005Pit03 半截 (東から)



4. SH2005Pit04 半截 (北西から)



5. SH2005Pit05 半截 (北西から)



6. SH2005Pit06 半截 (北西から)



7. SH2005Pit07 半截 (北西から)



8. SH2005Pit08 半截 (北から)



1. SH2005Pit09 半截 (北から)



2. SH2005Pit10 半截 (北から)



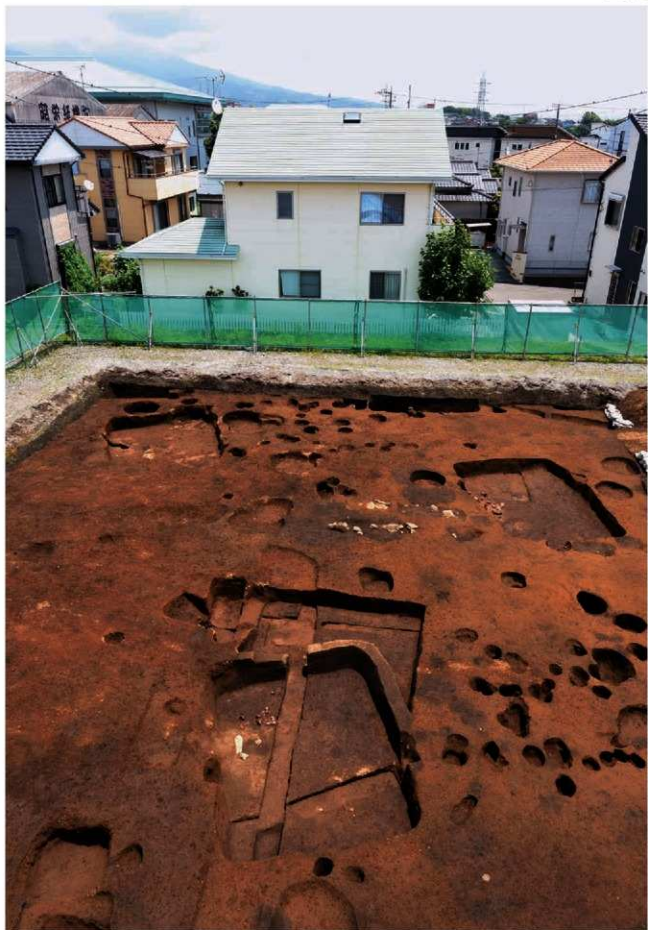
3. SH2005Pit10 遺物 (SH2005-08) 検出 (北から)



4. 2 工区全景 (北西から)



1. 2工区全景（南西から）



1. 2工区全景（西から）



1. SB2001 完掘 (南から)



2. SB2002 完掘 (西から)



1. SB2001FP01 完掘 (南から)



2. SB2001 遺物 (SB2001-05・09) 検出 (南西から)



3. SB2002 遺物 (SB2002-06・38・40) 検出 (北東から)



4. SB2002FP01 遺物検出 (南東から)



5. SB2002FP01 遺物検出 (南西から)



1. SB2003・SB2007 完掘 (南から)



2. SB2003FP01 遺物検出 (南から)



3. SB2003FP01 遺物検出 (南東から)



4. SB2003FP01 燃烧室上面 (南から)



5. SB2007 南北セクション (西から)



1. SB2005・SB2006 完掘 (南西から)



2. SB2005FP01 (南東から)



1. SB2004 完掘 (南西から)



2. SB2008・SB2009 検出 (北西から)



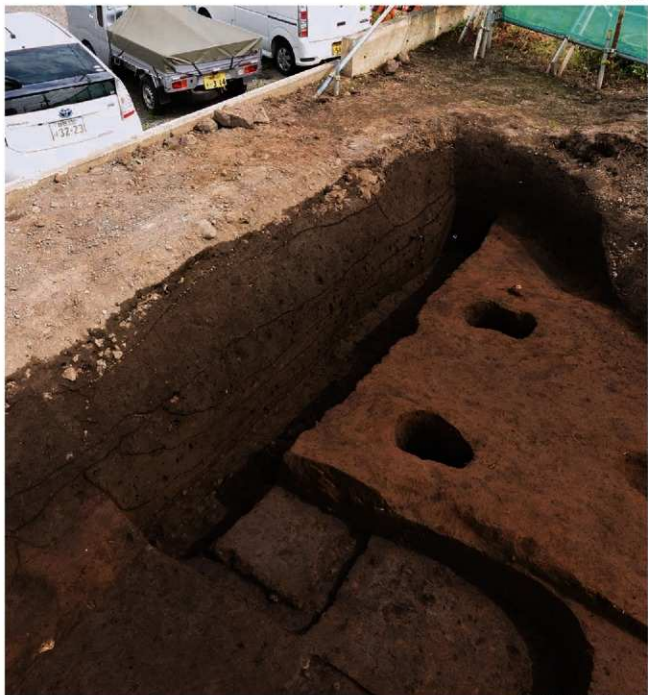
3. SB2008 完掘 (北西から)



4. SB2008FP01 遺物検出 (南東から)



5. SB2008 遺物 (SB2008-25) 検出 (南東から)



1. SB2009 完掘 (北西から)



2. Pit2201 遺物 (Pit・SK・遺構外-05) 検出 (南東から)



3. SK2280 遺物検出 (南東から)





SH2005-10 (内面)

SH2005-10 (外面)

SH2005-11

SH2005 出土遺物



SH2003-03

SH2003 出土遺物



SB2001-03



SB2001-09 (外面)



SB2001-09 (内面)



SB2001-13 (内面)

SB2001-13 (外面)



SB2001-12

SB2001 出土遺物



SB2001 出土遺物



SB2002 出土遺物



SB2002-19



SB2002-19 (内面)

SB2002-19 (外面)



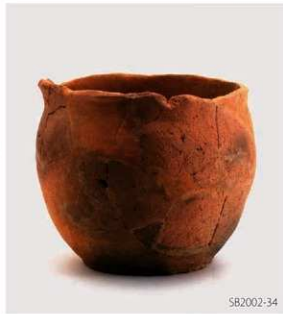
SB2002-23



SB2002-26



SB2002-24



SB2002-34



SB2002-35

SB2002-36



SB2003-01



SB2003-04



SB2003-03



SB2003-10



SB2003-05



SB2003-11



SB2003-06



SB2003-11



SB2003-07



SB2003-14



SB2003-16



SB2003-19



SB2003-20



SB2003-21



SB2003-26



SB2003-37



SB2003 出土遺物



SB2006 出土遺物



SB2008-03



SB2008-17 (外面)



SB2008-08



SB2008-17 (内面)



SB2008-06

SB2008-05

SB2008-25



SB2008-26

SB2008 出土遺物



SB2009-14



SB2009-10

SB2009 出土遺物



報告書抄録

ふりがな	ひがしだいらいせき だい136地区
書名	東平道跡 第136地区
副書名	
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第78集
編著者名	佐藤 祐樹（編著）・若林美希（著）
編集機関	富士市教育委員会（担当課：文化財課）
所在地	〒417-0061 静岡県富士市伝法66番地の2 In 0545-30-7850
発行年月日	令和5年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯 東経	地区名	調査期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	道跡番号					
ひがしだいらいせき	しずおかけん ふじし でんぼう	22210	42	35 10' 18.88"	東平道跡 第136地区	20210115 ～ 20210121	234.432	確認調査
東平道跡	静岡県 富士市 伝法			138 40' 36.74"		20210510 ～ 20210903	1,276.62	本発掘調査
所収道跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
東平道跡	集落跡	奈良時代 平安時代		掘立柱建物	5	土師器 須恵器		
				竪穴建物	9	灰軸陶器		
				溝状遺構	8	土製品（人形）		
				ピット	205	石製品（紡錘）		
				土坑	70	金属製品（鉋尾）		
要 約	<p>東平道跡は、静岡県東部、富士山南麓に広がる大淵扇状地の緩斜面上に位置する。道跡の西には伝法沢川が流れ、潤井川から分岐した小潤井川に合流し駿河湾へと至る。道跡の南東部に所在する富知六所浅間神社周辺は富士山の溶岩岩先端部分に位置し、現在も湧水が認められており、和田川となって駿河湾へ注ぎ込む。</p> <p>東平道跡では、これまでに行われた調査で、整然と並び建てられた掘立柱建物群や380軒近くの竪穴建物が確認されており、奈良時代における駿河国富士郡の郡衙と考えられている。また、道跡内には郡衙周辺寺院に位置づけられる寺院（三日市庵寺跡）が存在したことが布目瓦の分布から明らかとなっている。</p> <p>本書で報告する第136地区においても、8世紀から9世紀にかけて、建物軸を揃えて計画的に建てられたとみられる掘立柱建物5棟（SH2001～2005）と、同時期の竪穴建物9軒（SB2001～2009）が検出されている。竪穴建物からは畿内産（系）土器や、腰帯具、製塩土器が出土するなど、宿泊機能を有する館とそれに伴う舞宴空間という特別な空間が整備されていたと想像できる。本地区内には富士郡司の祖先墓と位置付けられる東平第1号墳が7世紀中葉に築かれており、本地区一帯が富士郡家にとって特別なエリアであったと結論付けられる。</p>							

富士市埋蔵文化財調査報告 第78集

東平遺跡 第136地区

発行年月日 令和5年3月31日

編集・発行 富士市教育委員会
〒417-0061 静岡県富士市伝法66番地の2
TEL 0545-30-7850 FAX 0545-30-6210
E-mail: ky-bunkazai@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 株式会社文光堂
〒417-0041 静岡県富士市御幸町3-18

(富士市行政資料登録番号 R4-51)